

第5章

「授業改善のためのアンケート」(個別型) 調査結果

1 はじめに

平成10年度の「授業改善のためのアンケート」(個別型)は、昨年度の試行を踏まえた本格実施という意味合いから、本年1月から2月上旬にかけて、全科目を対象に実施された。但し、経済学科では、昨年度と同様に学科内で策定された質問票と実施計画に基づき全個別科目を対象にアンケートを実施している。¹

以下の報告では、まず自己評価委員会作成の質問票を使用した商学科、企業法学科、社会情報学科、言語センター、一般教育等の科目について、結果の概略をまとめ、本章末尾に経済学科のアンケート結果を添付している。²

2 アンケート結果の概略

(1) 入学年次別構成

入学年次別の構成は後に掲載している「参考図表」の図I-1-1から図I-1-10に示されている。昨年度とほぼ同一の授業計画が実施されていることから、観察される状況は概ね同じである。すなわち、昼間コースを見ると、

- 1年生(98年入学者)が90%以上を占める科目は、ほとんどが言語センター科目と一般教育科目である。2年生(97年入学者)の比率についても同じことが言える。
- 3年生(96年入学者)が大部分を占めてはいないものの、同年次が出席している語学科目、一般教育科目は非常に多い(図I-1-3)。
- 4年生(95年入学者)が過半を占める授業科目はない(図I-1-4)。

以上の点が指摘できる。また、夜間主コースについても同様であるが、昼間コースと異なっている点としては、

- 夜間主コースでは、1年生が半分程度を占める専門科目が比較的多く見られる。
- 2年生、3年生の比率を見ると、ヒストグラムの形状がそれ程明瞭にU字型を示していない。

¹ アンケートの設計、実施は異なった枠組みで行われているが、経済学科の授業アンケートも自己評価委員会による「授業改善のためのアンケート」の一環として位置付けられ実施経費も共通に措置された。非常勤講師担当科目は、昨年度と同様、除外した。

² 昨年度は、全学科等を比較しながら報告を行ったが、昨年度報告の「Ⅲ 今後の方向と検討課題--試行を踏まえて--」でも指摘しているように、異なった質問票を使用している複数のアンケートを質問趣旨が似ているからといって直接比較することは、誤った結論を導く可能性がある。この点を考慮して今年度は、独自の質問票を用いた経済学科は別に結果を示すことにした。

もしも各科目の配当年次が厳格に定められ守られていれば、各学年について、授業科目は、その学年が大部分を占める科目群と、ほとんど聴講しない科目群に分離するはずであるから、ヒストグラムはU字型形状を示すはずである。また、配当年次が全く定められてなく、完全に自由に科目を履修しているとすれば、どの科目も各学年が（特に1年生から3年生は）均等の割合で混在するはずだから、どの学年も概ね25%から30%程度の割合を中心に分布するはずである。だから分布の形状としては単峰の山形になるはずである。

昼間コースの1年生、2年生は明瞭にU字型パターンが認められる。度合いは弱い3年生についても、同じ特徴が窺われる。一方、夜間主コースについては、1年生については、U字型パターンが認められるが、2年生、3年生については、特に専門科目に限定すれば、平坦ないし多少の山形パターンを示している。

この理由としては、科目毎に決められた配当年次が最初から幅を広くして設けられている、履修を行うに際して余り考慮されていない、あるいは非開講科目が恒常的にあり、所期の年次で履修することが叶わなくなっている、などの可能性が憶測される。

(2) 回答者の所属学科別構成

回答者の所属学科別構成は参考図表の図I-2-1から図I-2-10に示されている。

まず昼間コースを見る。語学科目については、当然予想される点ではあるが、いずれも各学科の割合が同程度であり、特にこの学科所属の学生の比率が高いという科目は見られない。10%未満のクラスで商業教員養成課程所属学生の割合が非常に高くなっているのは、もともと当該学生が小数であるため、どの科目においてもその割合が10%に達していないという事実を反映したものである。

一般教育科目については、経済学科、商学科が30%程度、企業法学科、社会情報学科が20%程度を中心にして、構成比ごとの科目数が典型的な山形に分布している。これは科目選択が大きく偶然に左右されていることを暗示している。比率の高さの違いは一つには各学科に所属する学生数の高低がある。加えて、いずれの科目に対しても概ね均等の志向をもって選択履修している学生側の姿勢を憶測できる。換言すると、特定の学科所属と特定の一般教育科目への志向という関連は、全体としては、認められない。

図I-2-3から図I-2-5は各学科の専門科目の状況を見たものである。当然に、自学科所属の学生割合が高い。他学科学生の比率も大体は10%程度であり大きな特徴はない。特に挙げるとすれば、企業法学科の専門科目は特に自学科学生の比率の高い科目数が多くを占めている点を指摘できる。

次ぎに夜間主コースを見る。大体の分布のパターンは昼間コースと近似している。夜間主コースは学科毎の差異が大きいように見られるが、これは夜間主コースの学生数自体が比較的小数であるためのサンプリング・エラーと思われる。

一般教育科目についても、昼間コースと同様のことが当てはまるが、中には特定の学科所属学生

が70%を超過する授業科目も見られる。³ 具体的にどの科目がこれに該当するかについては、個別情報が利用できないため、不明である。

各学科の専門科目については図Ⅰ-2-8から図Ⅰ-2-10に示されている。自学科学生の割合が高い点は昼間コースと同様であるが、企業法学科について上で指摘した特徴は夜間主コースには認められない。寧ろ社会情報学科科目の方に自学科学生の比率の高い科目が多いようである。商学科科目は自学科学生の比率が50%~70%の科目が多い。

(3) 講義の選択理由

「必修科目・選択必修科目であるため」図Ⅱ-1-1と図Ⅱ-1-2は、昼間コース、夜間主コースにおいて、この項目を選択した学生の割合がどうなっているかを、語学型授業、実技型授業、講義型授業に区分して、その分布を示したものである。語学科目は、昼間、夜間主いずれのコースにおいても、過半の学生は「必修ないし選択必修科目であるため」と回答している。講義型科目については20%のところにモード（並み値）がある。いずれにしても、必修科目でも選択必修科目でもない専門科目についてはこの選択肢を選ぶ回答者はいないはずだから、図中に棒グラフは現れていない。必修性を有する科目についても、履修義務から選択している学生が過半を占める科目は比較的小数であることがわかる。夜間主コースについても同様である。

「専門の勉強に必要なため」図Ⅱ-2-1を見ると、専門の勉強に必要なため選択した学生の比率が示されている。10%と30%に峰がある。この背景としては、専門性が高い科目と入門的な科目とで学生の反応が異なっており、そのため、性格を異にした二つの科目群が混在して、このような分布になっているとも憶測されるし、単純にサンプリング誤差に由来する凹凸であるとも解される。いずれにしても、専門の勉強に必要なだからという理由で、その専門科目を選択した学生は聴講者の半分にも満たない科目が大部分であるという事実は、講義内容、使用テキストの選択等に関して、今後の検討に値するかもしれない。寧ろ、図Ⅱ-2-2を見ると、夜間主コース学生のほうが、専門の勉強に必要なだから聴講するという動機付けがより明瞭に認められる。

「シラバスを読み興味を持ったため」語学科目については、この選択肢を選んだ学生の割合は低い。夜間主コースに比べて昼間コースでは、シラバスの有効性が語学科目について窺える。実技型科目については60%程度の学生がシラバスの便宜性を指摘している。講義型については、昼間、夜間とも20%ないし30%程度の回答者がシラバスを挙げている。(図Ⅱ-3-1、図Ⅱ-3-2)

³ 昼間コースでも商業教員養成課程科目にこの種のものがごく小数ある。

「授業時間の関係でとらざるをえなかった」授業時間を挙げた回答者の割合は、昼間、夜間とも大体同じであるが、夜間主コースの方が比較的多くの学生が授業時間の関係を選択理由に挙げている（図Ⅱ-4-1、図Ⅱ-4-2）。

「その他」その他を選択した回答者は、いずれの科目でも小数であり、概ね、10%未満となっている。中には、30%程度の学生が「その他」を選択した科目があることは、注目に値する（図Ⅱ-5-1、図Ⅱ-5-2、以下を参照）。

回答の選択肢が「必修」、「専門の勉強」、「シラバス」、「授業時間」、「その他」の五つであることを考えると、講義科目について、どの選択肢も20%ないし30%前後にモードがあるということは、回答者が無作為に選択肢を選んでいる状況と識別できないという批判もありうる。⁴ この点はアンケート実施の有効性、結果の有意性という観点から、今後、フォローアップが必要なところであろう。

(4) 学習態度

「あなたはこの授業にどの位出席しましたか」図Ⅲ-1(a)と図Ⅲ-1(b)は、昼間、夜間主について、平均出席率を示したものである。これを見ると、両コースとも85%から90%にかけてが最も多い。学科別には、語学科目、一般教育科目が比較的高く、各学科の専門科目は中央値が80%前後と近接している。夜間主についても同じであるが、専門科目の出席率が多少高いようである。このようなパターンは昨年度も見られている。

欠席理由として病気を挙げた回答者の割合は、専門科目、一般教育科目に比べて語学科目で高い傾向がある。特に多くの学生が挙げた理由は「自己の怠慢」である（図Ⅲ-2-5(a)、図Ⅲ-2-5(b)を参照）。総じて、語学科目では病気が、その他の科目では自己の怠慢を欠席理由として挙げる者が多いようである。昼間コースでは「サークル」、夜間主コースでは「アルバイト」を挙げる者の割合も無視できない。⁵

⁴ 60%~70%の回答者がシラバスの有用性を挙げている講義科目もあるので質問票は有効に機能していると思われるし、聴講者の特徴の実情を反映したものと解釈することもできる。また、分布の形状の凹凸から、性格を異にした科目群に分離されうるとも憶測される。

⁵ 科目の選択理由として「必修ないし選択必修」を挙げたものの比率が高い科目は欠席理由として「病気」を挙げる回答者が多いと憶測される。逆に、必修性の薄い科目の場合、欠席理由として「自己の怠慢」を挙げる者が多いと思われる。この点を確認するためには、個別情報を利用する必要がある。

「あなたの学習態度は熱心でしたか」昼間コースについては、言語科目は「かなり熱心」ないし「どちらでもない」が拮抗している（図Ⅲ－3(a)）。専門科目は、各学科とも「どちらでもない」が最も多い。一般教育科目は中間的な特徴を示している。夜間主コースについては、やはり語学科目、一般教育科目で「かなり熱心」を挙げる学生が多く、専門科目では「どちらでもない」をあげる者が多い（図Ⅲ－3(b)）。共通しているのは、専門科目については熱心な学習態度を選ぶ学生の比率が総じて低いことである。⁶

「予習復習をどの程度行ったか」昼間コースでは、語学科目については「時々」と回答する学生の割合が高い（図Ⅲ－4(a)）。「ほぼ毎回」と回答した学生の比率の高い科目もある。一方、一般教育科目は「ごくまれ」と「ほぼ無」が拮抗している。専門科目は平均的にみれば「ごくまれ」に予習復習を行っているようである。語学科目の学習態度を熱心であると回答する学生の比率が多いことを考慮すると、予習復習の頻度が学習態度を測る物差しになっていると思われる。⁷ 夜間主については、社会情報学科の専門科目については、予習復習の頻度が語学科目並みに高いようである（図Ⅲ－4(b)）。

「予習復習をしなかった理由」総じて言うと、「自己の怠慢」と「必要を感じない」を挙げる学生が多い（図Ⅲ－5－1(a)から図Ⅲ－5－5(a)）。語学科目では「自己の怠慢」が、一般教育科目では「必要を感じない」が最も多い。専門科目については学科間で差異があり商学科、企業法学科では「自己の怠慢」が挙げられる頻度が高く、社会情報学科では「必要がない」が挙げられる割合が高い。夜間主についても同様である（図Ⅲ－5－1(b)から図Ⅲ－5－5(b)）。

(5) 授業の満足度

「総合的にどの程度の満足が得られたか」語学科目については「かなり満足」と回答する者の割合が際立って高く、一般教育科目、専門科目については「かなり満足」と「どちらでもない」と回答する学生が拮抗している（図Ⅳ－1－1）。夜間主では、一般教育科目、商学科、企業法学科専門科目では「かなり満足」と答える者の比率が高く、語学、社会情報学科では「どちらでもない」と回答する者の比率が高い（図Ⅳ－1－2）。

⁶ このことは専門科目の選択理由として「専門の勉強に必要」を挙げる学生の比率が、ほとんどの科目で3分の1程度に過ぎないことと関連があるかもしれない。「シラバスを読んで」選択する者が多いということは、「必要」よりも「自己の関心」に基づいていることを意味し、これ自体評価されることであるが、聴講の動機付けとして弱い側面があるとも考えられる。科目選択の方向付けのあり方について考察を加えることが必要なのではあるまいか。

⁷ とはいえ、一般教育科目では予習復習をほぼしないにもかかわらず授業態度は「かなり熱心」と回答する者の割合が目立つ。予習復習と授業態度とは直接的には結びついていないこともわかる。

「この講義はどのような点が良かったか」まず語学科目については、「まじめに講義をしてくれた」をあげた者が70%から90%に達している科目が多い。次いで、「講義がわかりやすかった」、「知的関心を高めてくれた」が、それぞれ半分か、それ以上の学生によってマークされている。逆に、「話が楽しかった」とする学生の割合は低い(図IV-2-1(a)から図IV-2-1(d))。「まじめに講義をしてくれた」を評価する傾向は、一般教育科目、専門科目についても同様であり、一般教育科目は平均値の順序で「まじめに講義をしてくれた」→「知的関心を高めてくれた」→「話が楽しかった」→「講義がわかりやすかった」となっている。専門科目についても、「まじめに講義をしてくれた」、「知的関心を高めてくれた」を評価ポイントとしてあげる学生が多い傾向は同じである。要約すると、講義にまじめに取り組んでいるかどうか、学生側からみた第一の評価ポイントとしてあげられる。これは、昨年度の授業アンケートでも確認された点である。夜間主コースについても、ほぼ同様のパターンが観察されるが、特に専門科目について「講義がわかりやすかった」を評価している学生が昼間コースよりも多くを占めるようである(図IV-2-2(a))。

「この講義はどのような点が良くなかったか」前と対をなす質問である。図IV-3-1(a)から図IV-3-1(d)をみると、各学科等にわたって、回答の分布に大きな違いは認められない。すなわち、「話が単調過ぎた」をあげる学生が全体としては最も多い。但し、社会情報学科では「講義がわかりにくかった」と回答する学生が僅少な差で最も多く、商学科、企業法学科を含めて、専門科目については「講義がわかりにくかった」、「興味をもたせる工夫が不足していた」の二つをあげる回答者の割合も無視できないほど高いことがわかる。夜間主コースでも、全体としてあげる学生が多いのは「話が単調過ぎた」という点であり、全般に昼間コースと同様の特徴が認められる。

(6) 授業の内容

「講義内容は体系的であったか」社会情報学科を除き「かなり体系的」と回答する学生の割合が高い(図V-1-1)。夜間主でも同様である(図V-1-2)。

「講義内容は興味深いものであったか」これも同様の回答状況。語学、一般教育、企業法学科では「かなり興味深い」が多い。商学科では「かなり興味深い」と「どちらでもない」が拮抗し、社会情報学科では「どちらでもない」が多いようである。(図V-2-1)。夜間主では、一般教育、商学科、企業法学科の反応が比較的良好であり、語学、社会情報学科は低い(図V-2-2)。

「講義内容は量的に適切であったか」総じて「適量」が多く挙げられているが、語学科目では「かなり多すぎた」を挙げる学生が目立つ(図V-3-1)。⁸夜間主も同様である(図V-3-2)。

⁸ 量的に多すぎたと感じている一方で興味深いと受け取られている点は検討の必要がある。

「教師は新しい研究動向を講義に盛り込む努力をしていたか」語学科目では「非常に努力」ないし「かなり努力」を挙げる割合が高い。専門科目では「かなり努力」と「どちらでもない」の回答者が目立つようである（図V-4-1）。夜間主の回答もほぼ同様のパターンを示している（図V-4-2）。

「講義内容は当初の授業計画に沿ったか」概ね80%くらい沿っていると回答している割合が高い。コース、学科間の違いは認められない（図V-5-1、図V-5-2）。

(7) 授業の方法

「教師の話し方は適切だったか」いずれのコース、学科も「かなり聞きやすかった」と回答する学生の割合が高く、提供科目数を考慮すれば、学科間の差異は認められない（図VI-1-1、図VI-1-2）。但し、中央値を比較すると昼間では語学科目が比較的高く、夜間主では一般教育、語学が高い。

「テキスト、プリントは適切に使われたか」どのコース、学科とも「かなり適切」を挙げる学生が多く、特に昼間の語学科目ではそれが際立っている（図VI-2-1、図VI-2-2）。

「黒板、OHP、ビデオ装置等の使い方は適切だったか」いずれの学科も「かなり適切」ないし「どちらでもない」を挙げる学生が多い（図VI-3-1、図VI-3-2）。企業法学科専門科目で昼間、夜間主とも「やや不適切」を選ぶ者が多い科目が認められる。⁹

「教師は学生の反応を見ながら講義を進めていたか」語学科目、一般教育科目で「かなり注意をはらっていた」を挙げる学生が多い。中央値で平均的な傾向を見ると、語学、一般教育科目が高く、専門科目は多少低い傾向がある（図VI-4-1）。この点に関する夜間主コース所属学生の反応は相対的に良くない（図VI-4-2）。

3 考 察

平成10年度「授業改善のためのアンケート（個別型）」の結果から、今後の検討課題として、以下の諸点が指摘されるものと思われる。

⁹ 同様のことが昨年度の報告でも指摘されている。

- ① 4年生が過半を占める講義はないが、これは学生個々人の単位取得状況、近年の厳しい就職状況による講義出席の困難等が、背景になっていると憶測される。いずれにせよ4年生という年次が、講義とは別の卒業論文作成に非常に重点を置いた一年間として、位置付けられているのが現状である。ノンゼミ生の取り扱い、卒論指導の充実を含め卒業年次の教育の改善の余地を探るべきと思われる。
- ② 学習態度、授業の満足度、授業の方法に関して、総じて語学科目が比較的高く評価されている。この点については、昨年度の報告でもほぼ同様の内容が指摘されている。因果関係から考えれば、授業の方法→学習態度→授業の満足という順序に従って、結果が生起すると考えられる。更に、適切な授業の方法は学生の科目選択の動機にも依存する。必修性の高い語学科目と専門科目を同一に論じるのは適当ではないが、最近の「出席状況を評価に入れてほしい」、「小テストを反復してほしい」等々の希望を伝える学生が多い状況を考慮すると、専門教育においても適切な授業方法を常に検討する姿勢が求められていると感じられる。
- ③ 「専門の勉強に必要」だから、その専門科目を履修する学生は、平均的には教室の中で3人に1人しかいないのが現状である。必修でなければシラバスを一読して聴講するというのが多数の学生の参加動機である。講義内容は当初の授業計画に80%程度沿っていると受け取りながら、結果としての満足度はそれほど高いわけではない、という状況はなぜなのかという問題が残る。「何を授業に求めているか」について、より詳細にアンケートしたほうが良いと感じられる。
- ④ 平均出席率が80%前後というのは平均出席者数と履修者総数との比率を考慮すると、多くの科目において、実態よりも高い値になっていると感じる教官は多いのではなかろうか。出席率の極めて低い者の回答は、出席率の高い者の回答とはおそらく違いがあると思われる。授業に極めて不満足な学生は、出席率が極めて低くなるか、履修自体を放棄するという選択をするとも思われる。したがって、授業への満足度が「どちらでもない」というアンケート結果になったからといって、これが正確な現況判断であると確言できない。寧ろ表面的な結果は情報にバイアスを有しているとさえ憶測される。年度途中で履修を断念する理由とそれに関連する状況について補完調査を行い実態を把握しておくべきと思われる。この点は、昨年度も残された問題点として指摘した。
- ⑤ 報告書作成者に手交された情報は、今回は、作成済みの参考図表である。そもそもアンケート調査によって収集されている情報は大量のものである。それを活用すれば、授業科目についての様々の側面や学生側の反応の相互関係を自由に分析することができる。定期的に重点調査課題を整理したうえで、分析チームを発足させ、個別情報を含めて使用しながら、詳細な関係分析を行うことが、新たな発見につながるであろう。収集した情報が「宝の持ち腐れ」という事態に陥らないためにも、授業改善のための共通の観点から、情報は有効に活用されるべきと考えられる。

参 考 图 表

図 I - 1 - 1

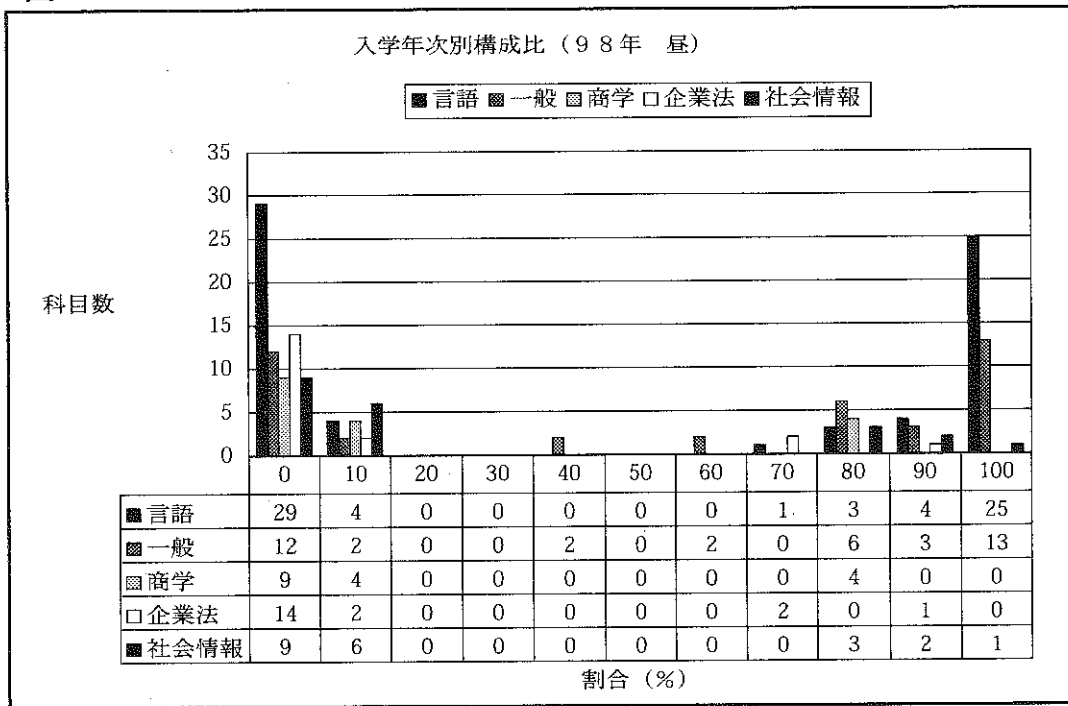


図 I - 1 - 2

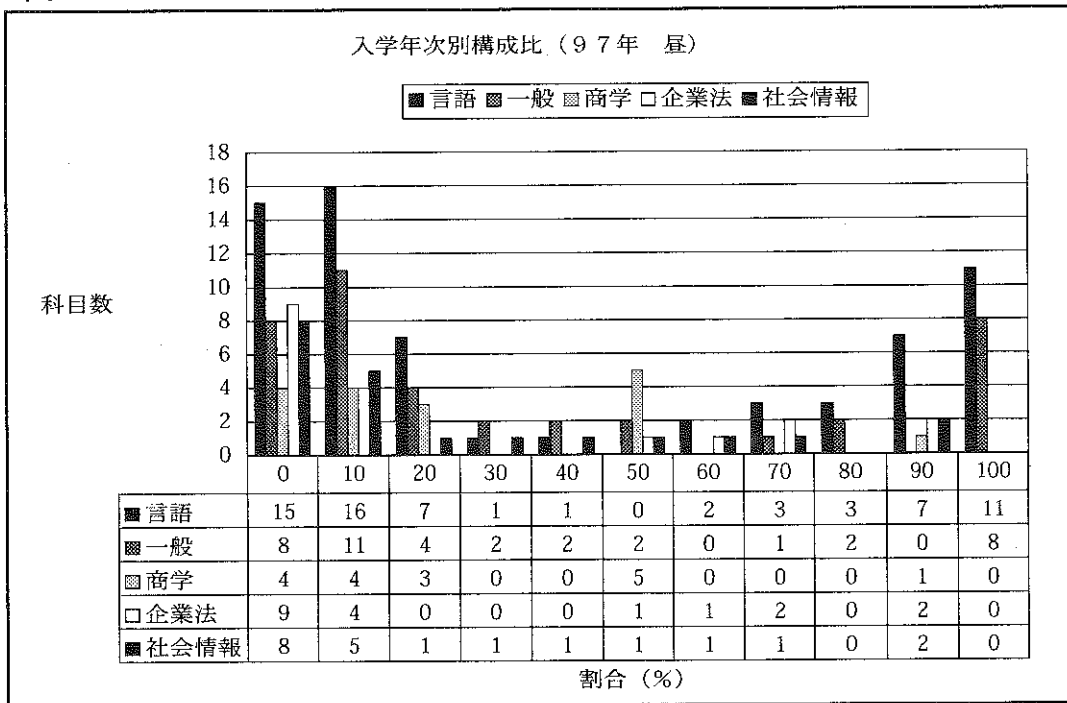


図 I - 1 - 3

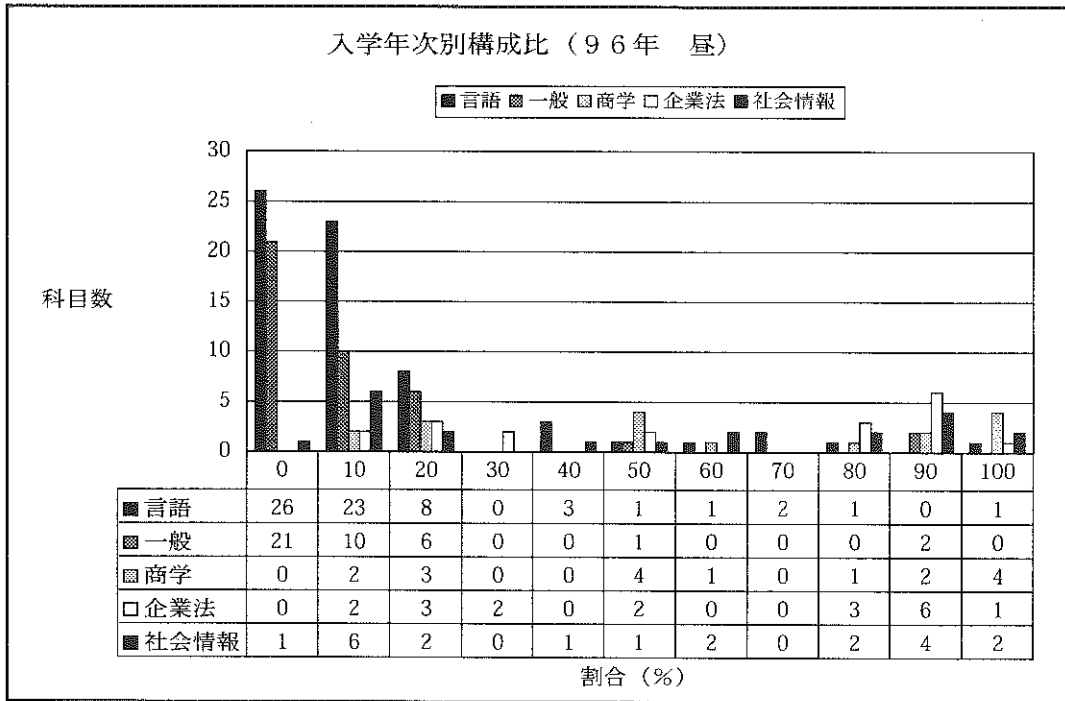


図 I - 1 - 4

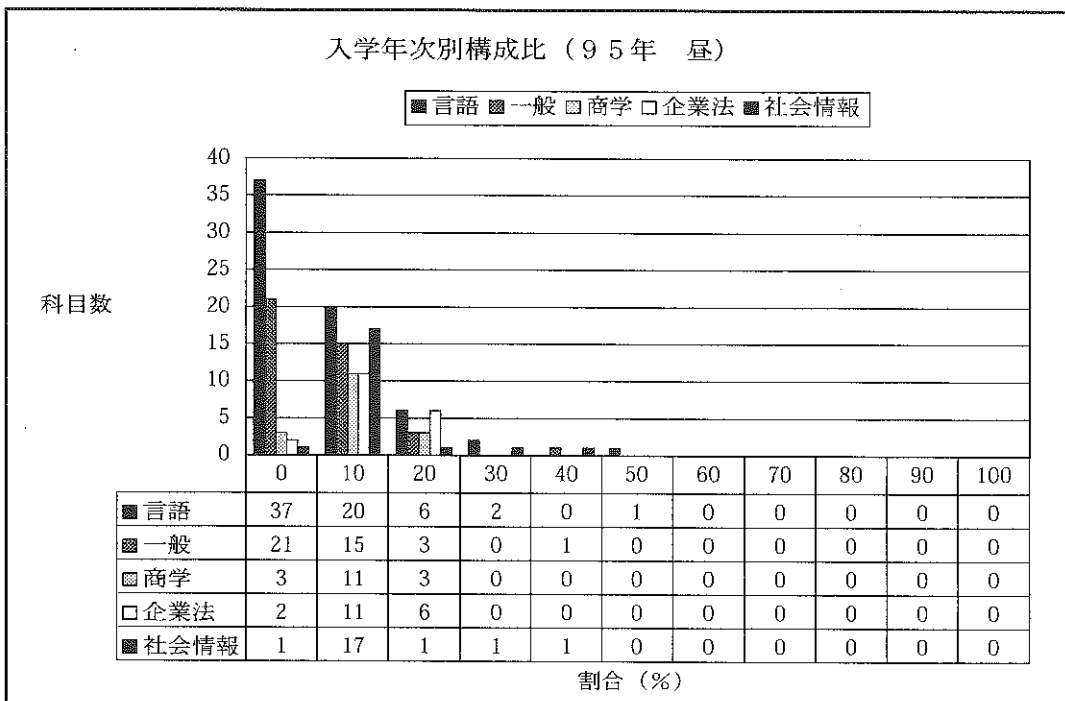


図 I - 1 - 5

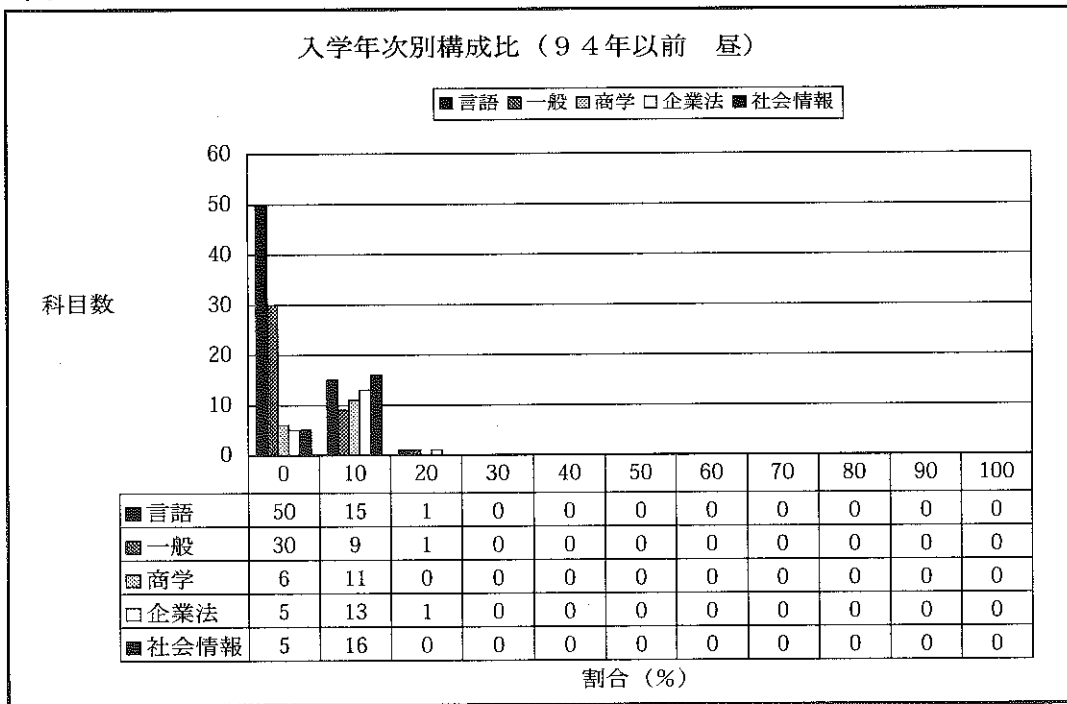


図 I - 1 - 6

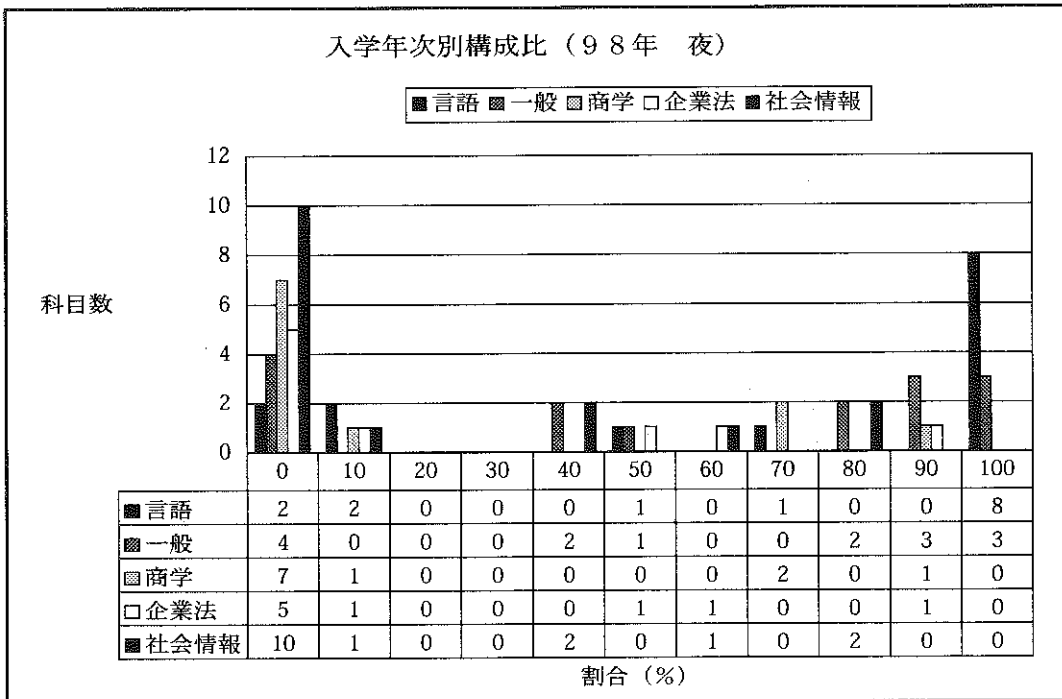


図 I - 1 - 7

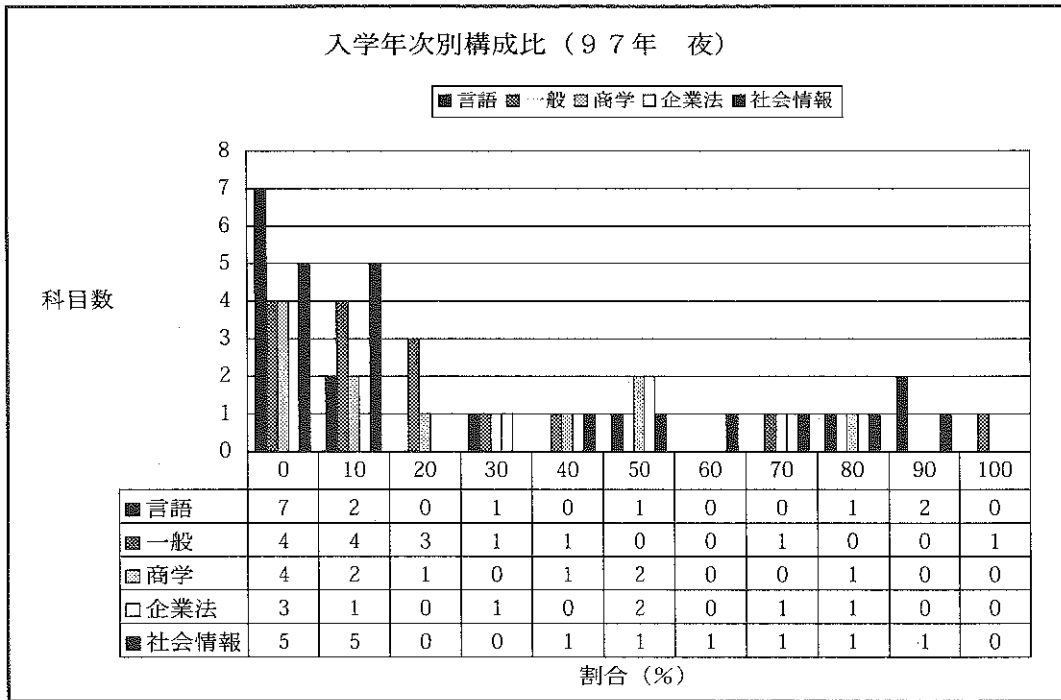


図 I - 1 - 8

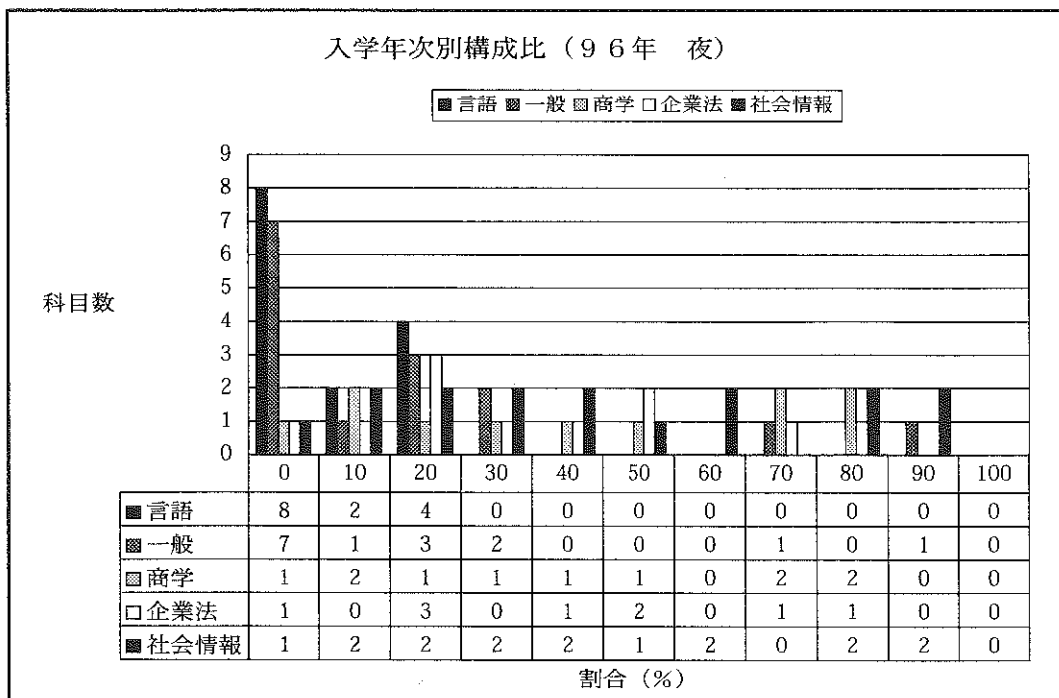


図 I - 1 - 9

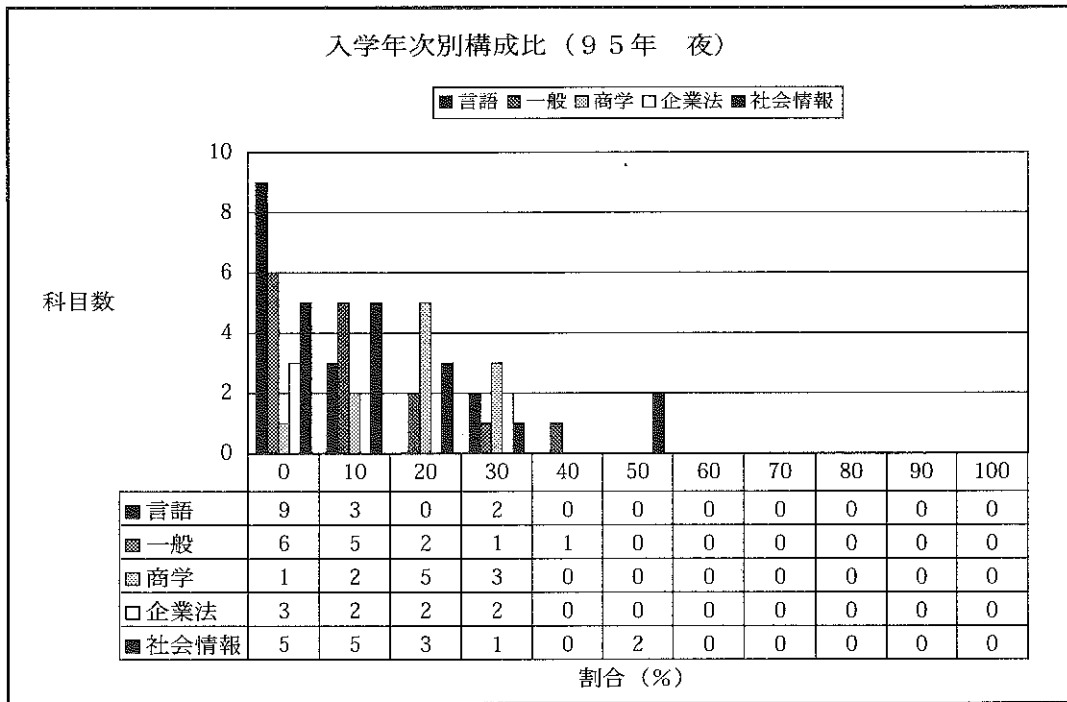


図 I - 1 - 10

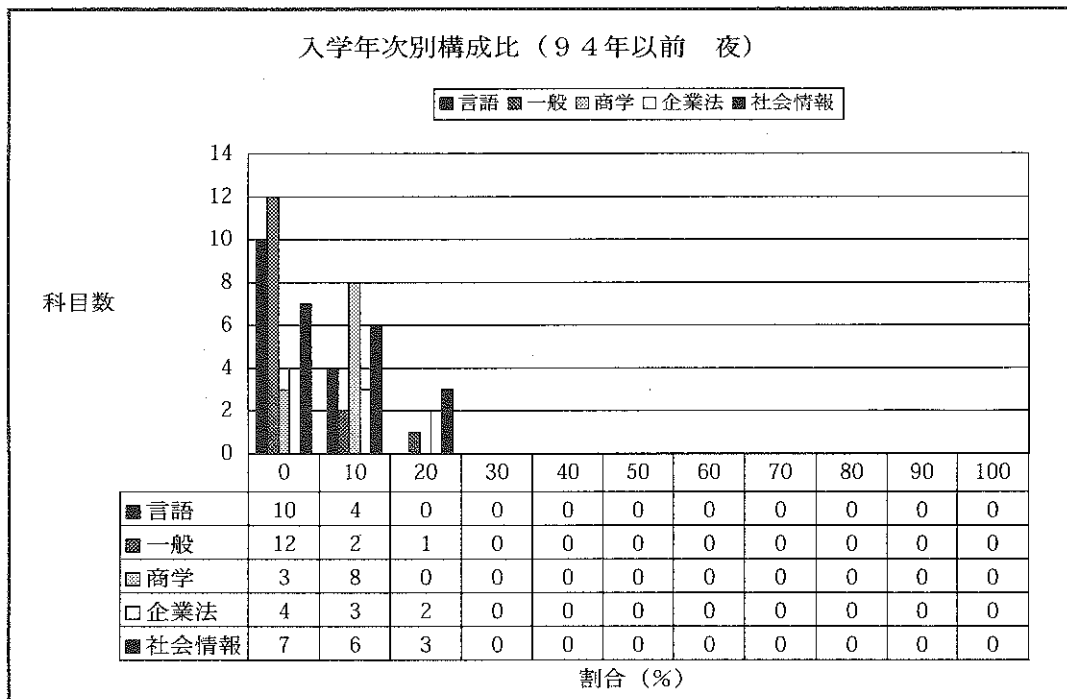


図 I - 2 - 1

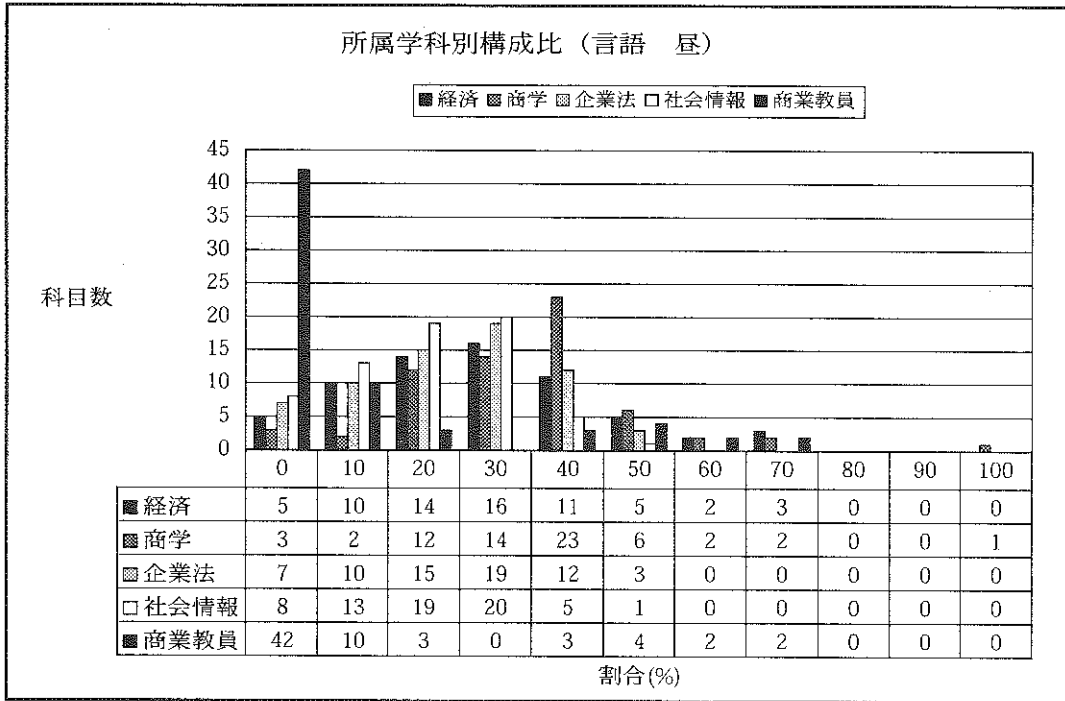


図 I - 2 - 2

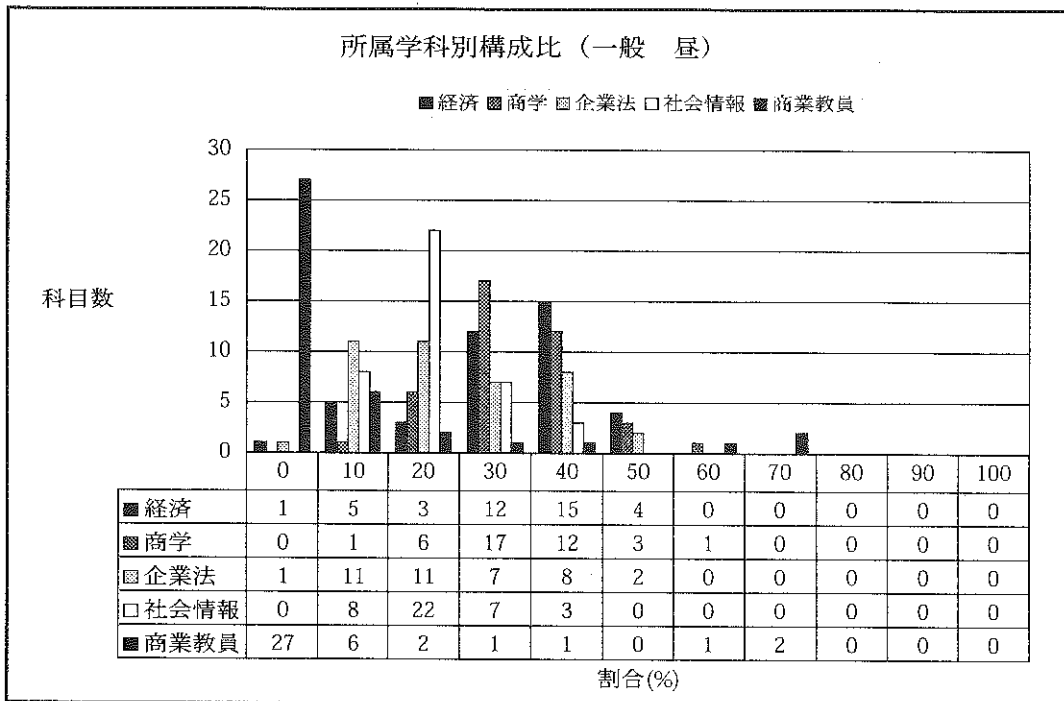


図 I - 2 - 3

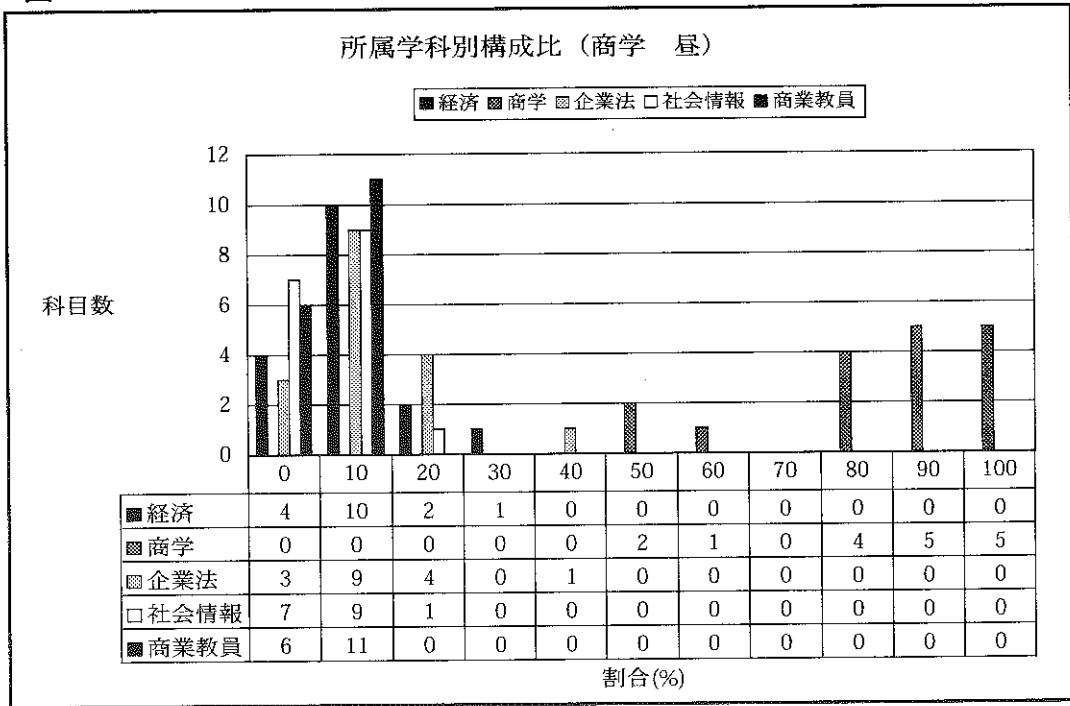


図 I - 2 - 4

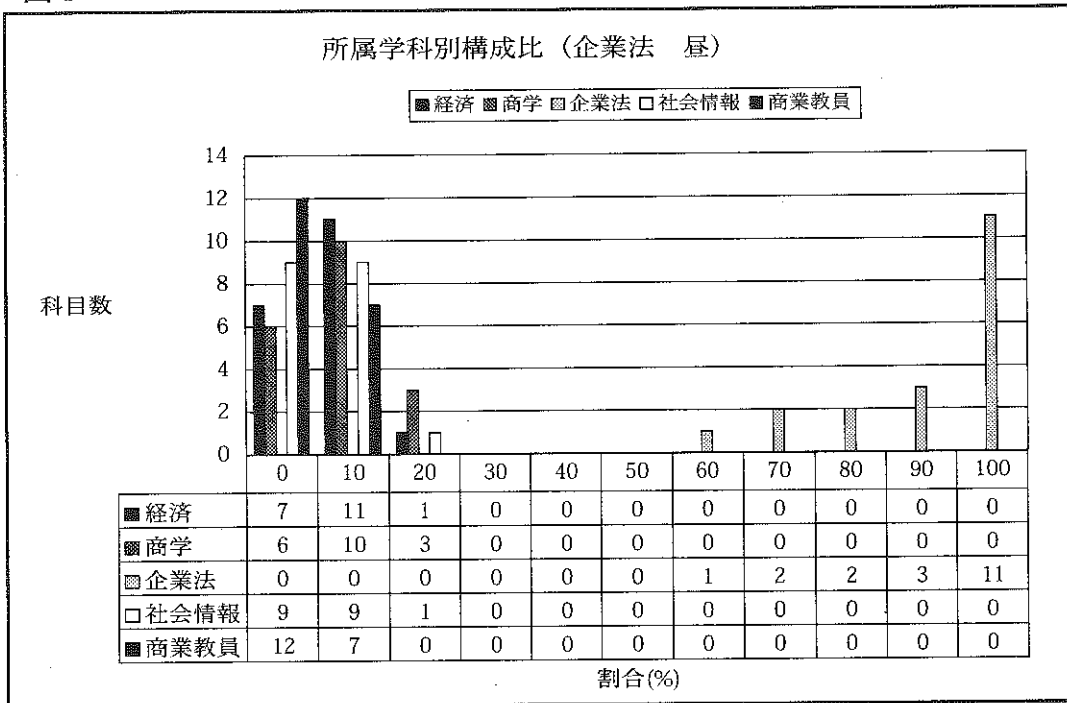


図 I - 2 - 5

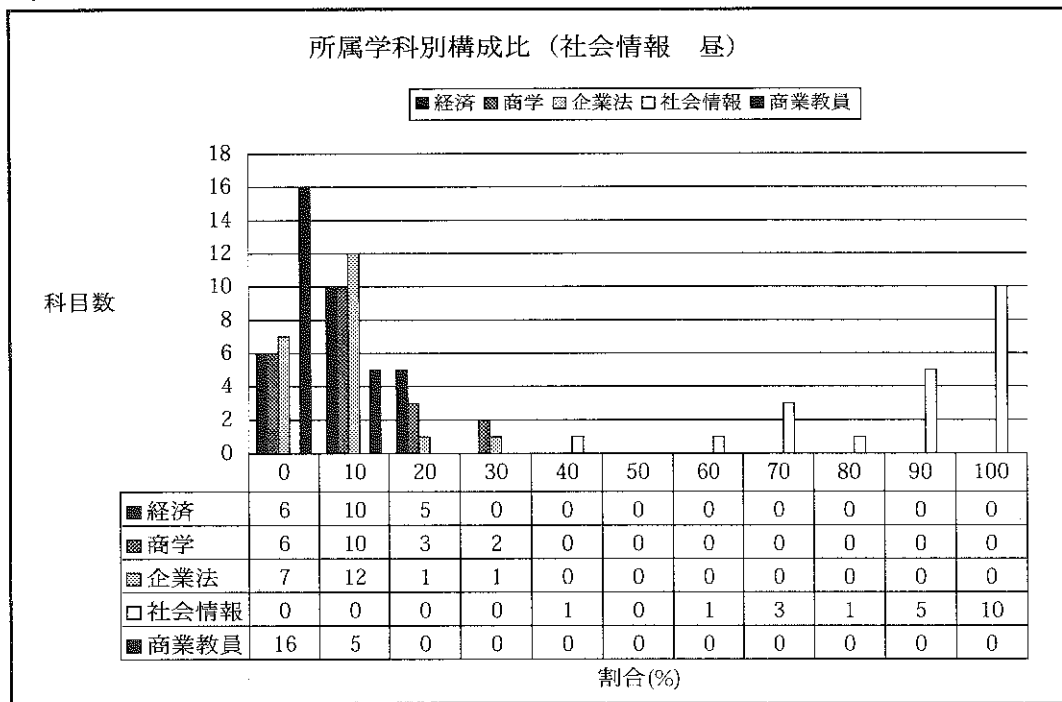


図 I - 2 - 6

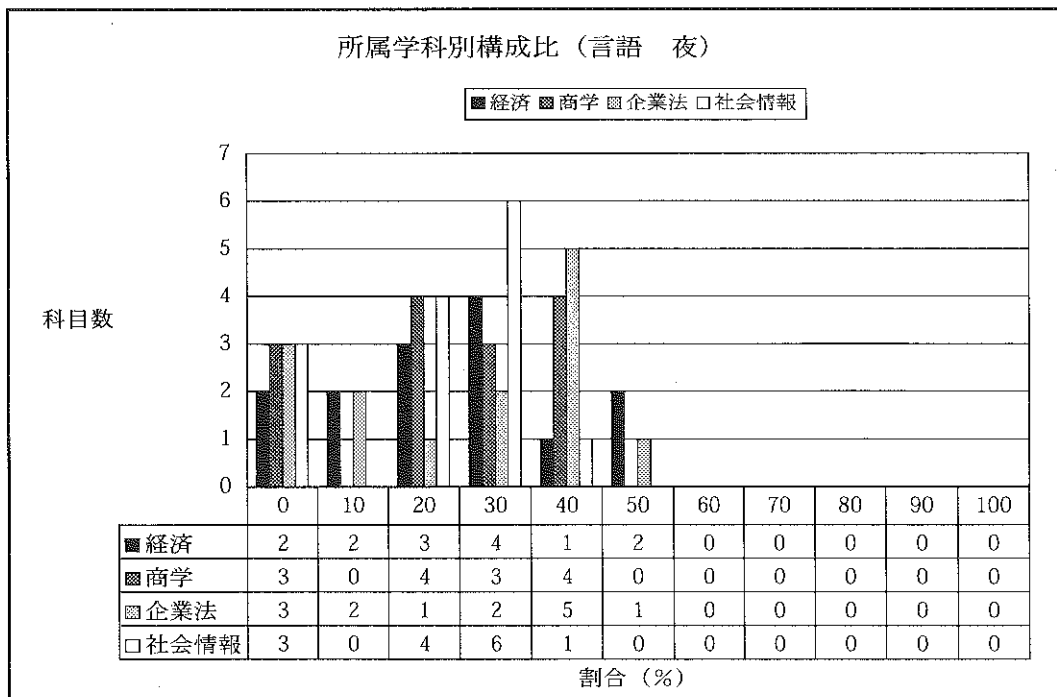


図 I - 2 - 7

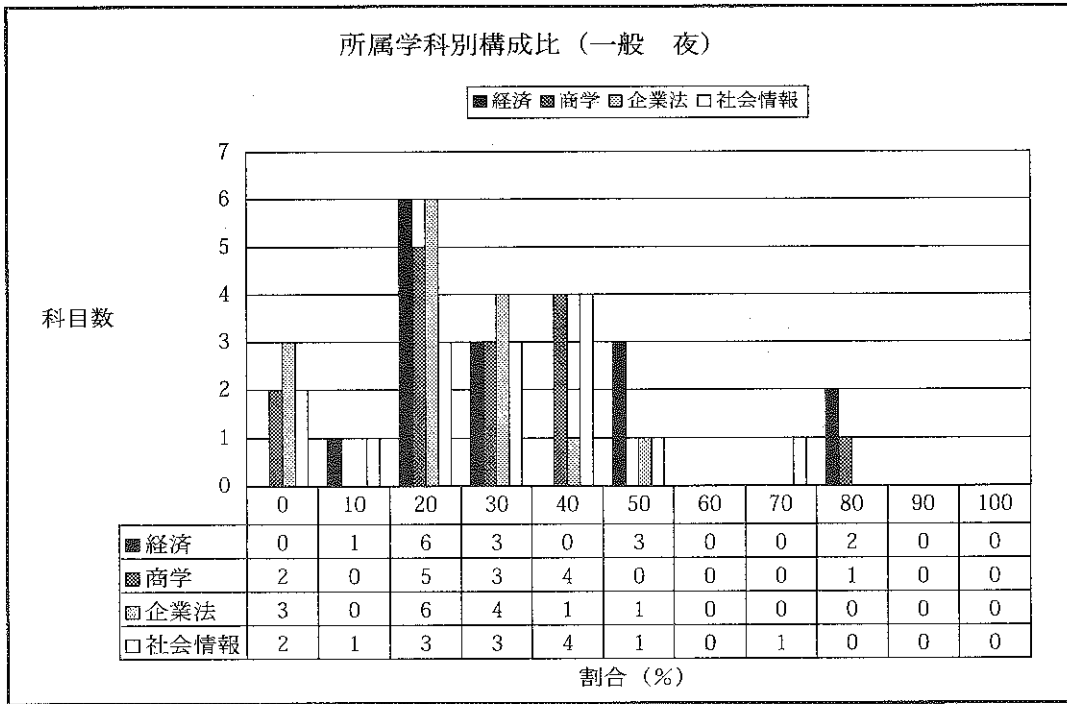


図 I - 2 - 8

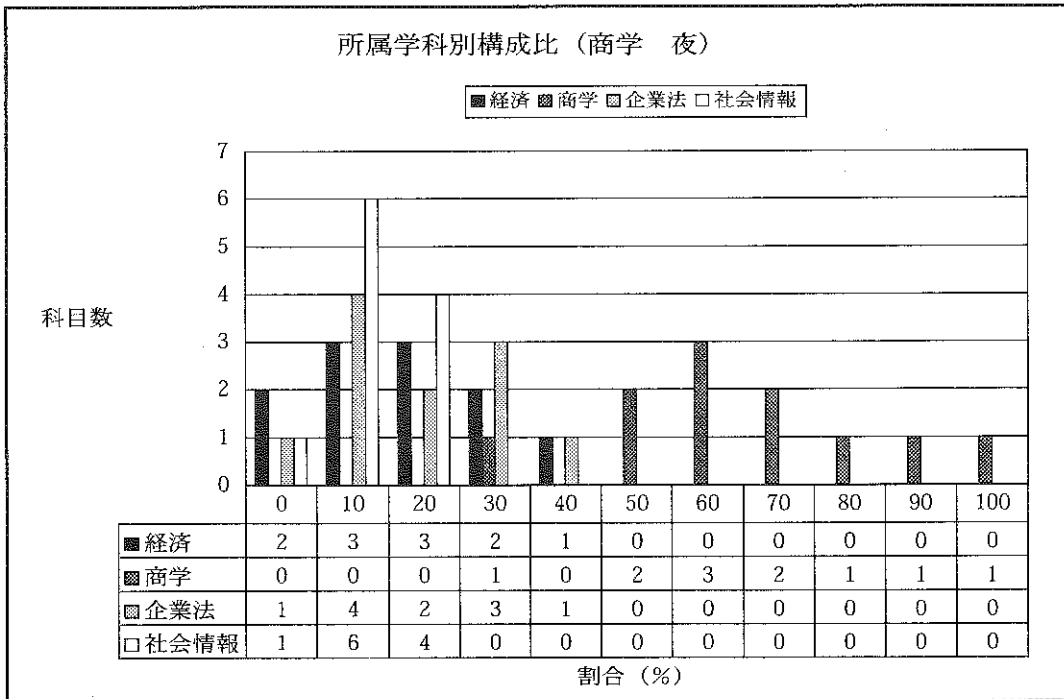


図 I - 2 - 9

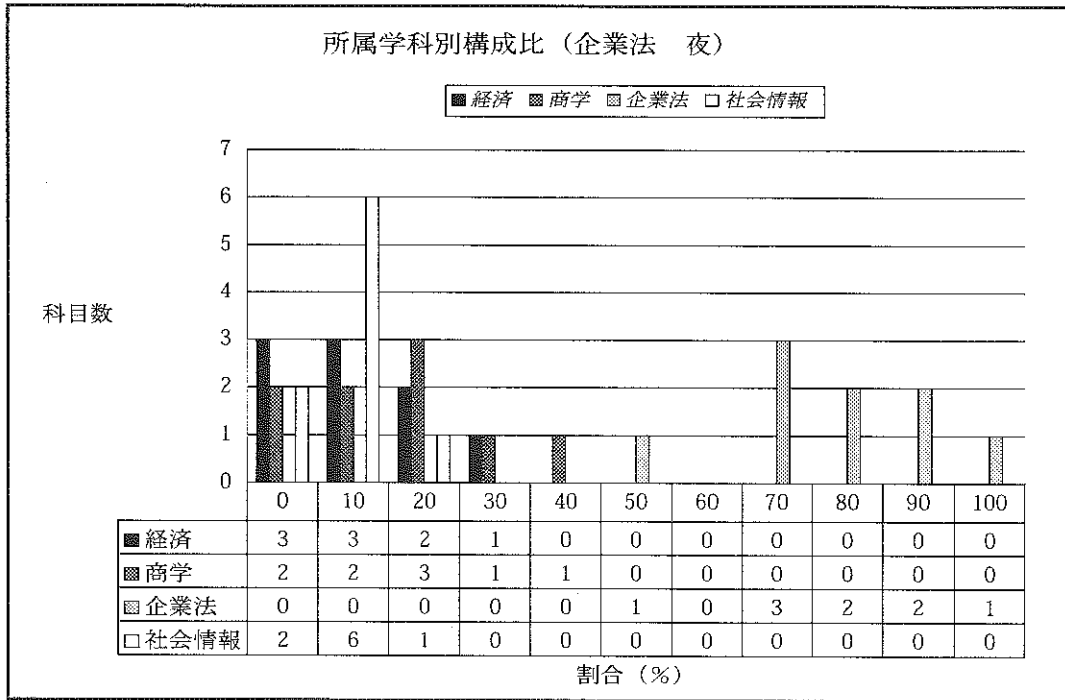
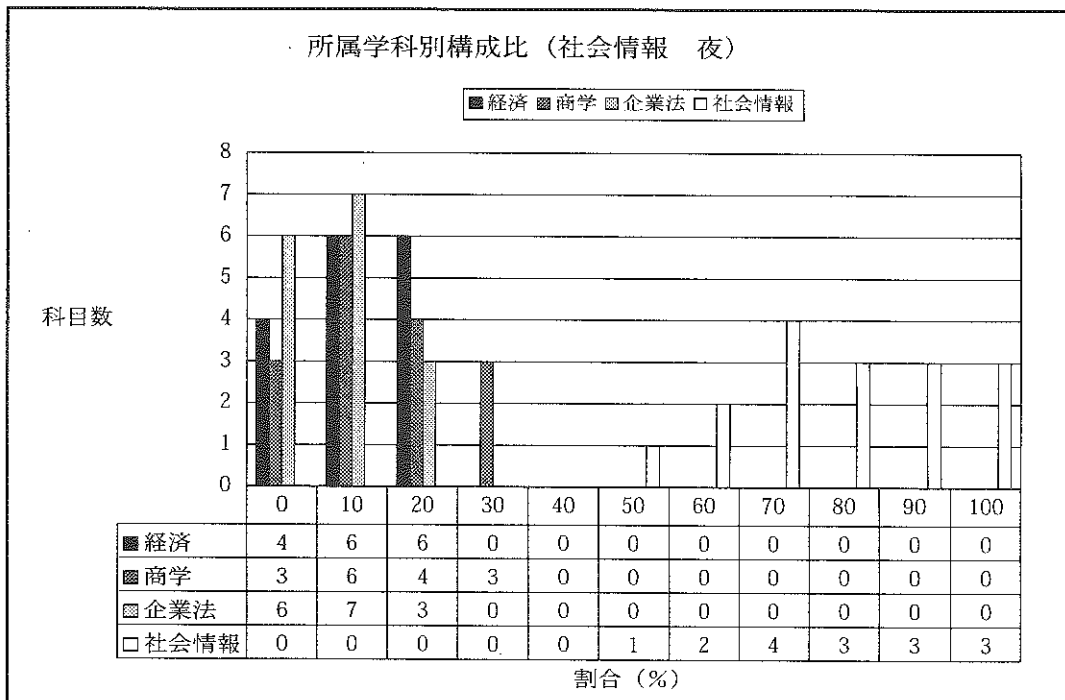
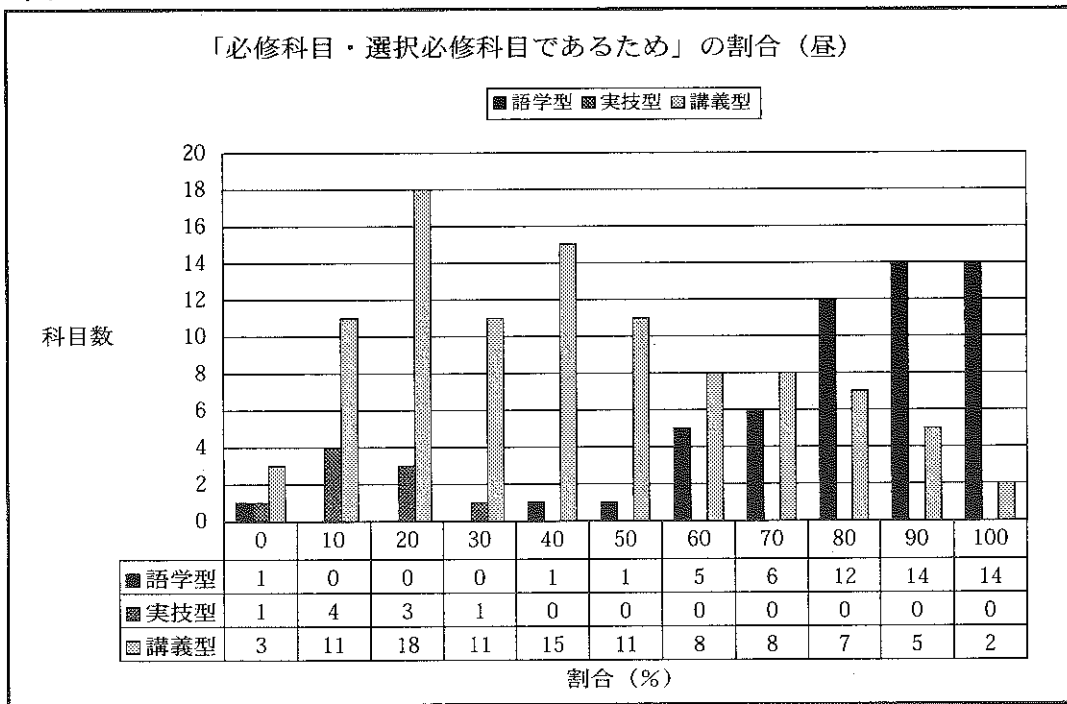


図 I - 2 - 10

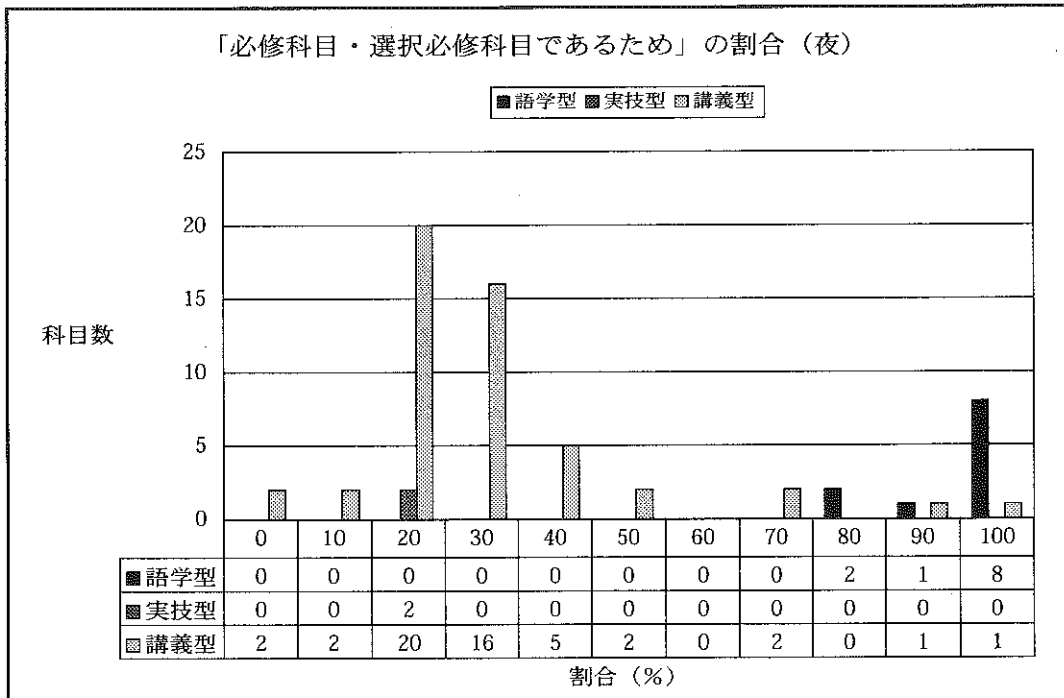


図Ⅱ-1-1



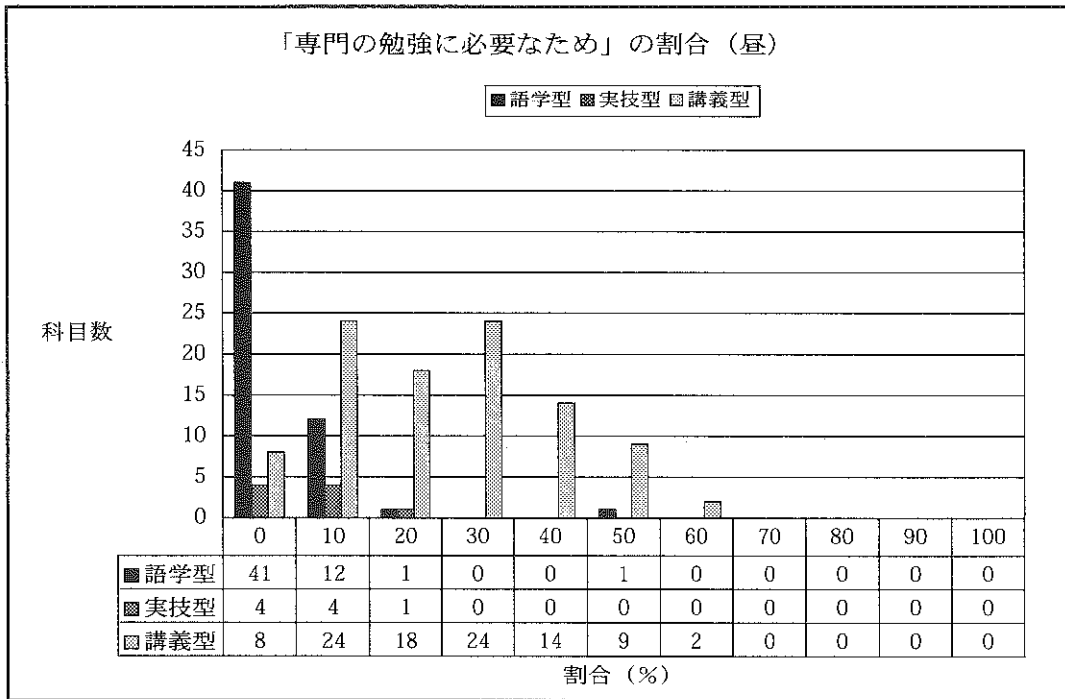
平均 語学型 77.75% 実技型 10.85% 講義型 38.03%

図Ⅱ-1-2



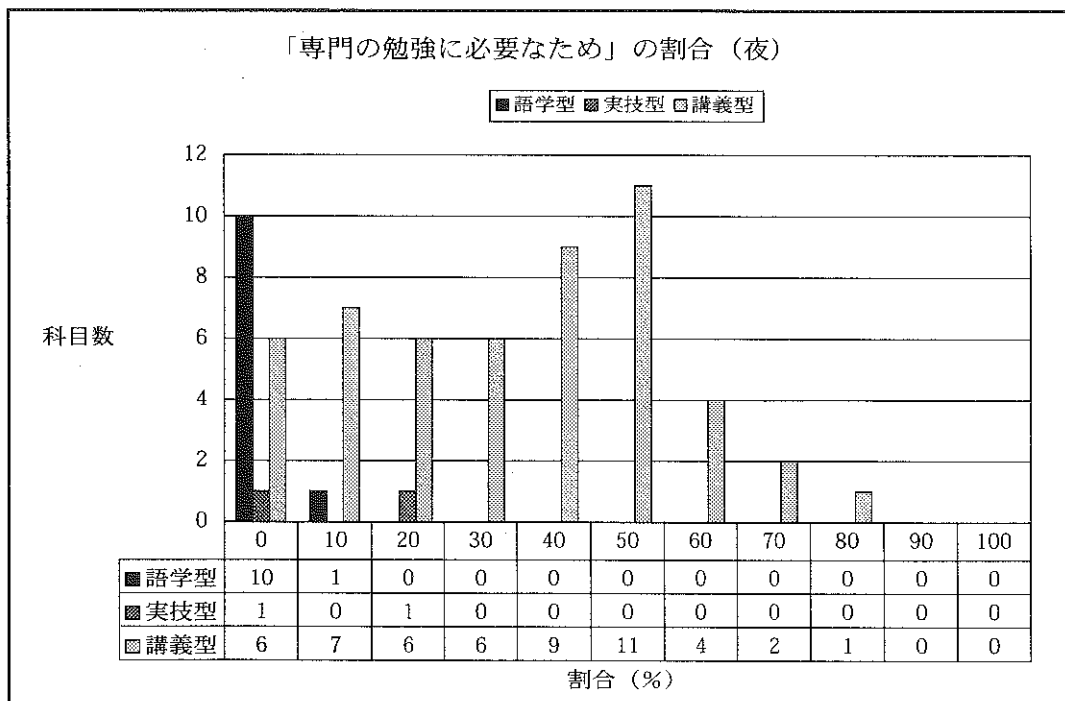
平均 語学型 91.40% 実技型 12.13% 講義型 29.42%

図Ⅱ-2-1



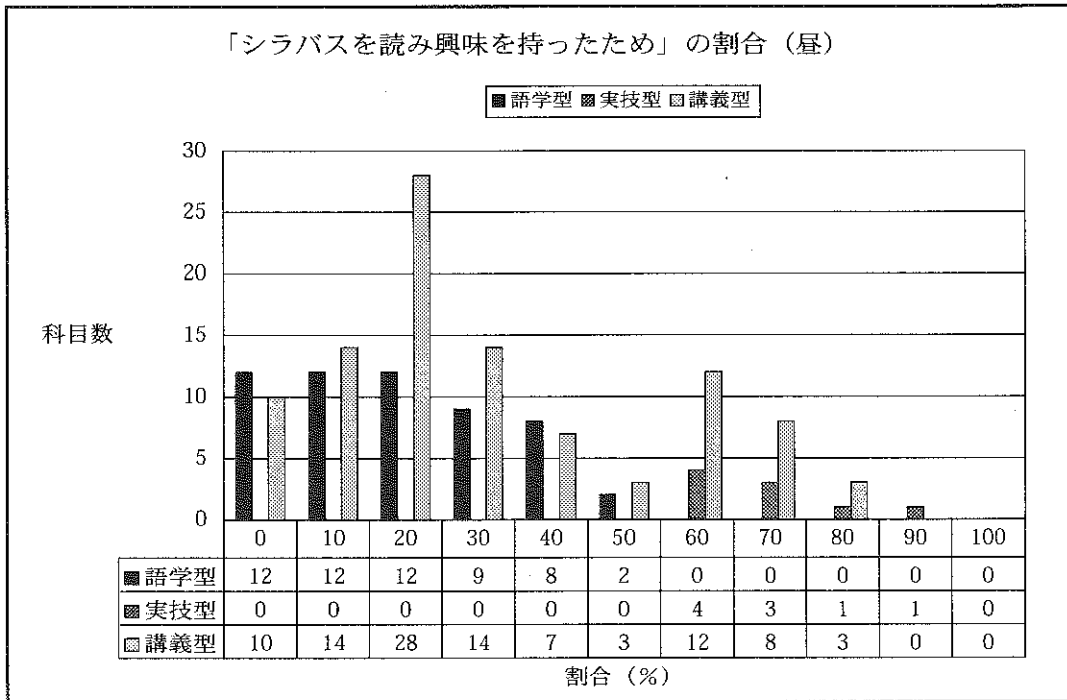
平均	語学型	1.96%	実技型	2.71%	講義型	19.55%
----	-----	-------	-----	-------	-----	--------

図Ⅱ-2-2



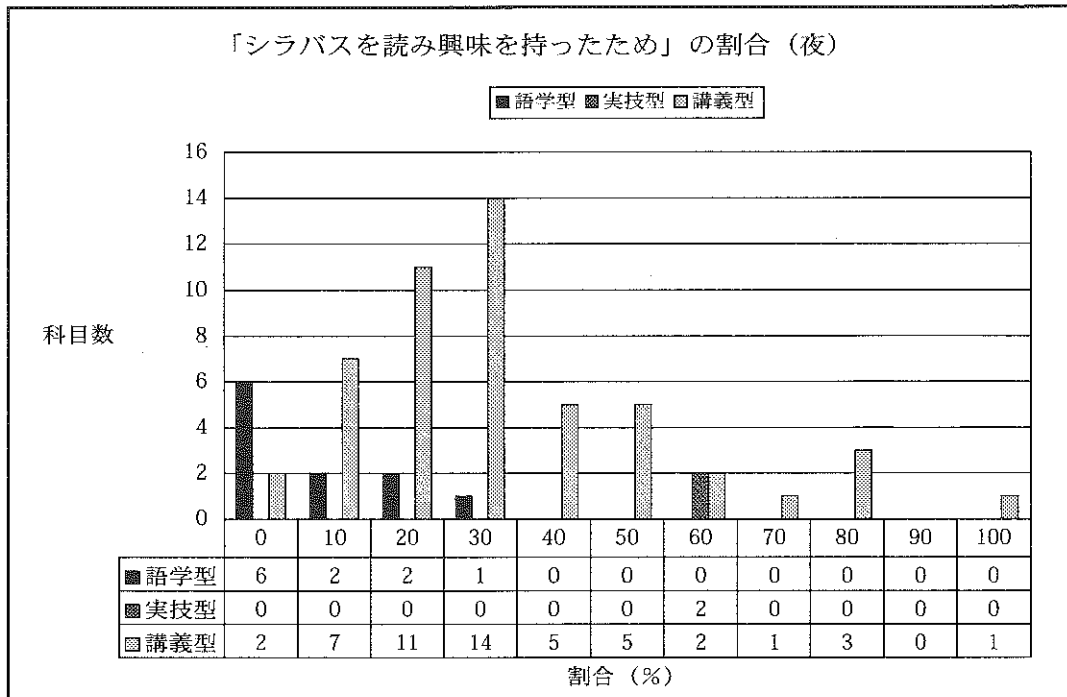
平均	語学型	0.57%	実技型	5.88%	講義型	29.01%
----	-----	-------	-----	-------	-----	--------

図Ⅱ-3-1



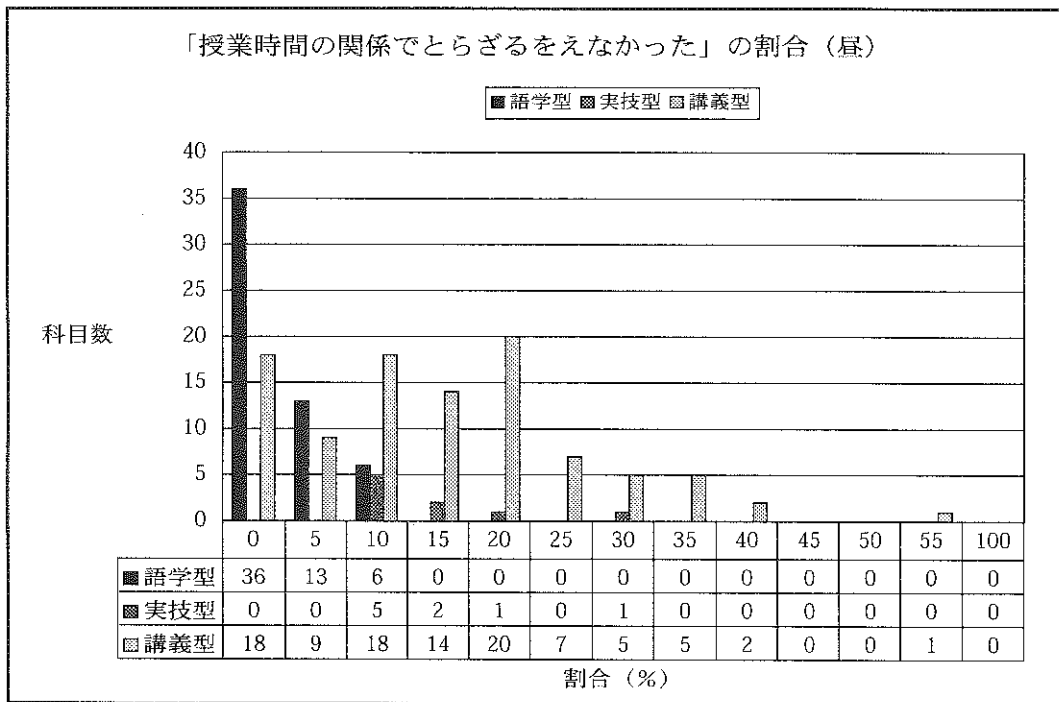
平均 語学型 15.46% 実技型 63.39% 講義型 26.43%

図Ⅱ-3-2



平均 語学型 7.08% 実技型 54.60% 講義型 37.94%

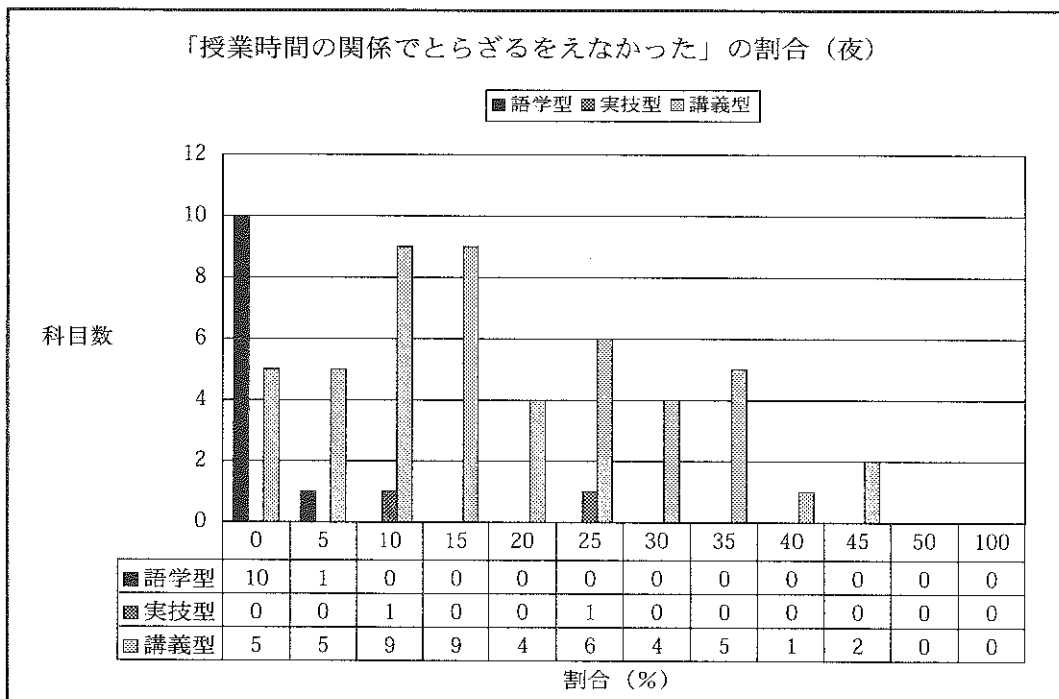
図Ⅱ-4-1



平均

語学型	1.43%	実技型	11.82%	講義型	12.85%
-----	-------	-----	--------	-----	--------

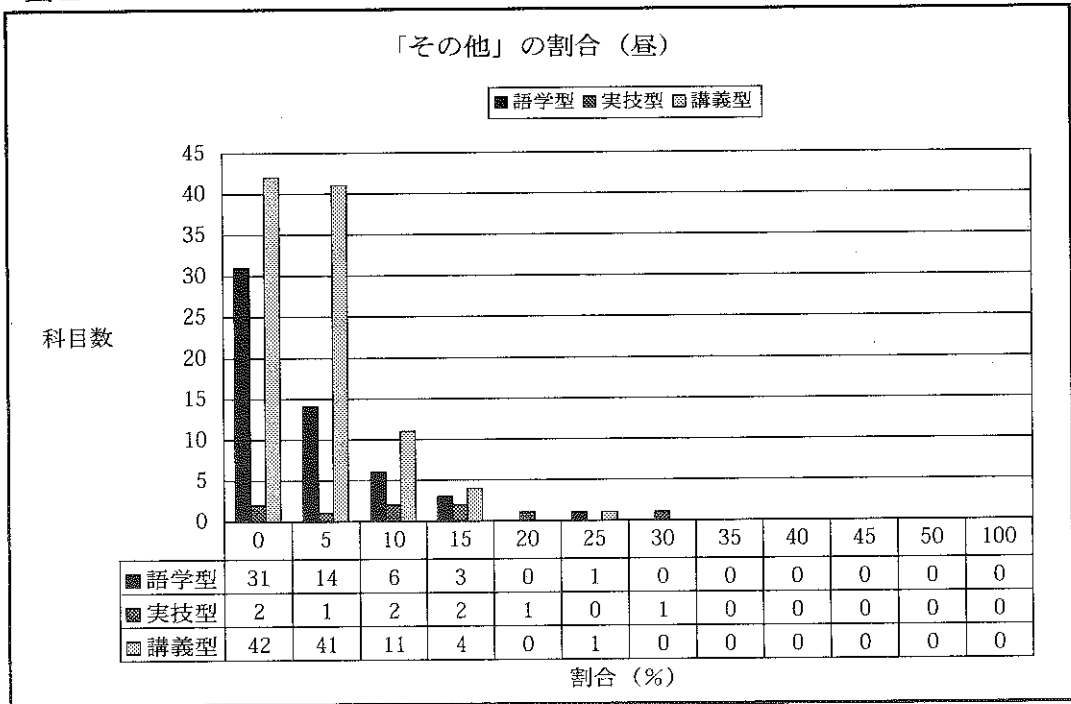
図Ⅱ-4-2



平均

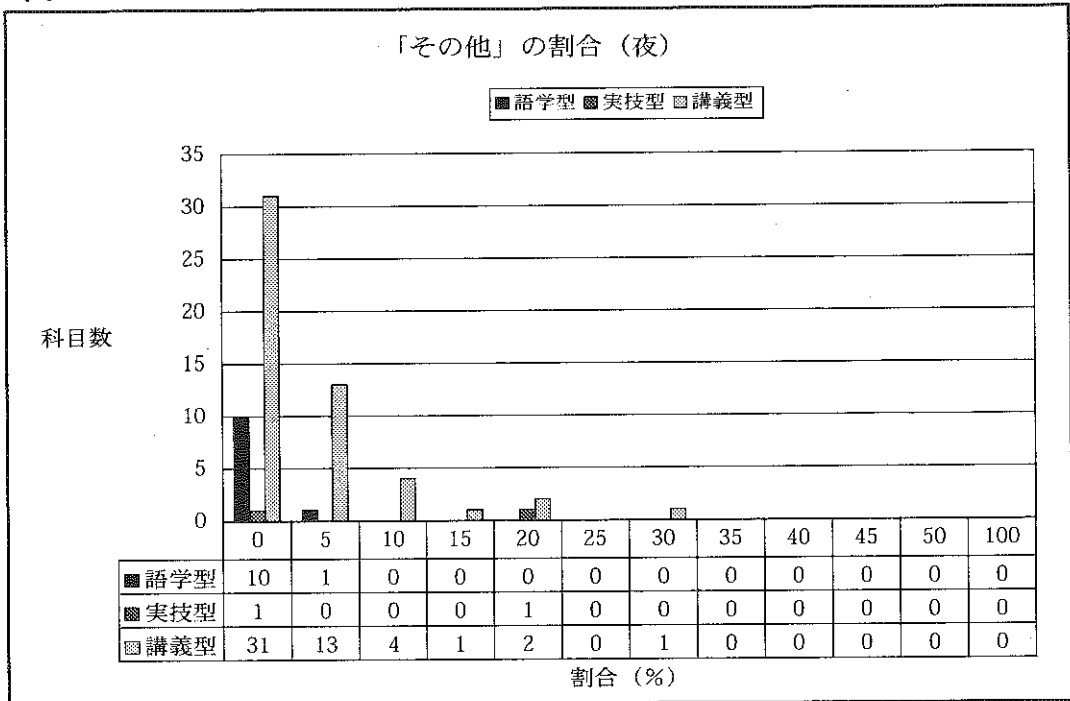
語学型	0.32%	実技型	15.44%	講義型	20.41%
-----	-------	-----	--------	-----	--------

図Ⅱ-5-1



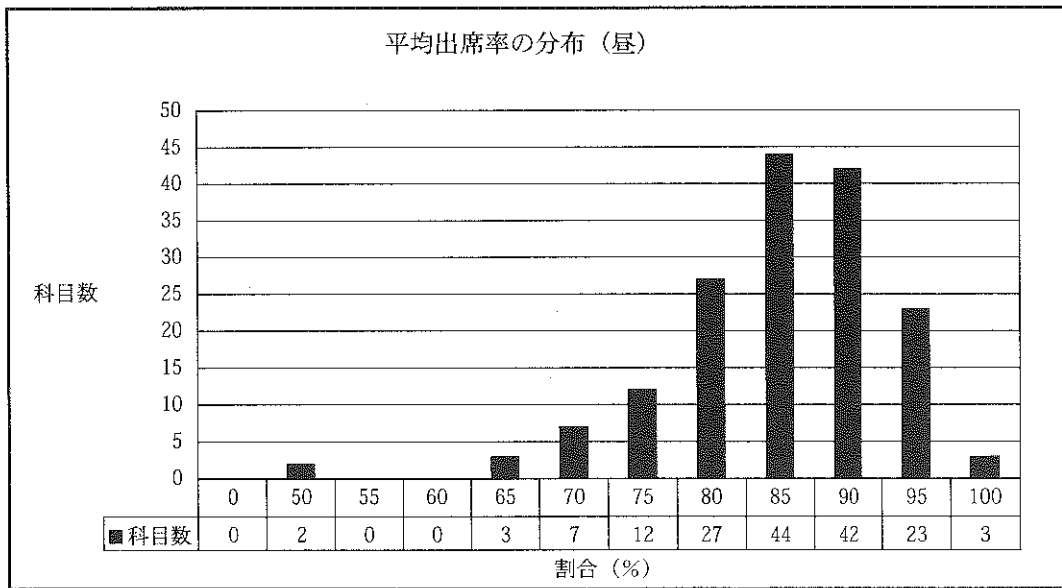
平均	語学型	2.46%	実技型	9.81%	講義型	2.47%
----	-----	-------	-----	-------	-----	-------

図Ⅱ-5-2



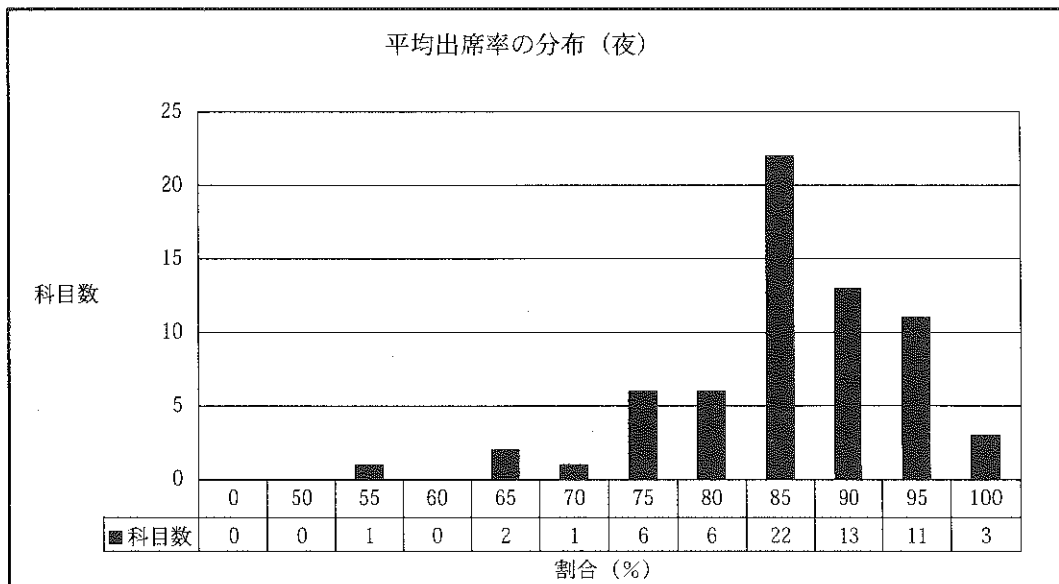
平均	語学型	0.30%	実技型	8.82%	講義型	2.80%
----	-----	-------	-----	-------	-----	-------

図III-1(a)



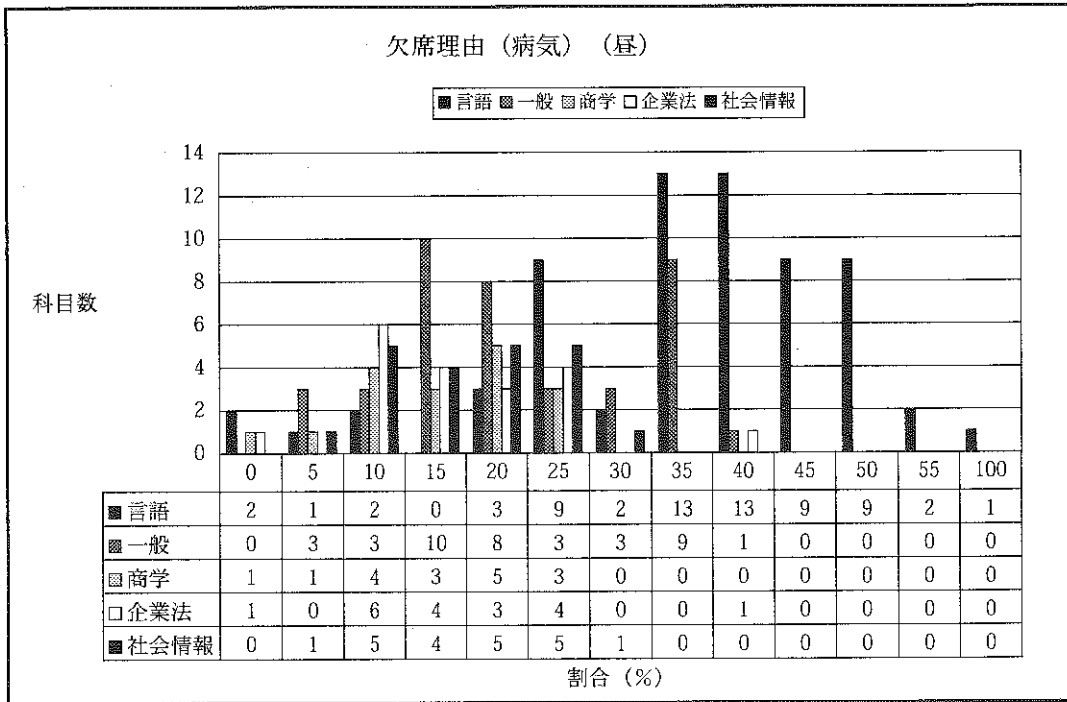
	中央値	最大値	最小値
言語	87.25	96.84	61.45
一般	85.11	97.89	64.35
商学	80.64	90.32	66.61
企業法	79.50	95.00	64.07
社会情報	78.33	86.41	38.33

図III-1(b)



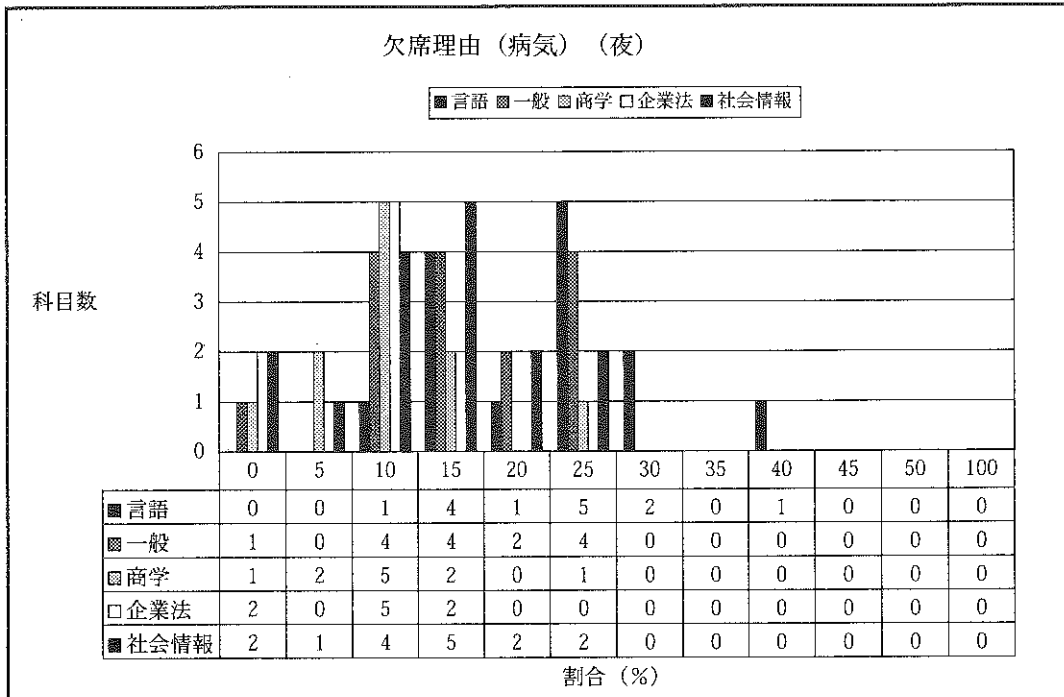
	中央値	最大値	最小値
言語	89.24	93.04	81.74
一般	85.00	100.00	69.50
商学	80.45	92.67	71.22
企業法	83.45	87.78	70.67
社会情報	83.23	92.78	83.59

図III-2-1(a)



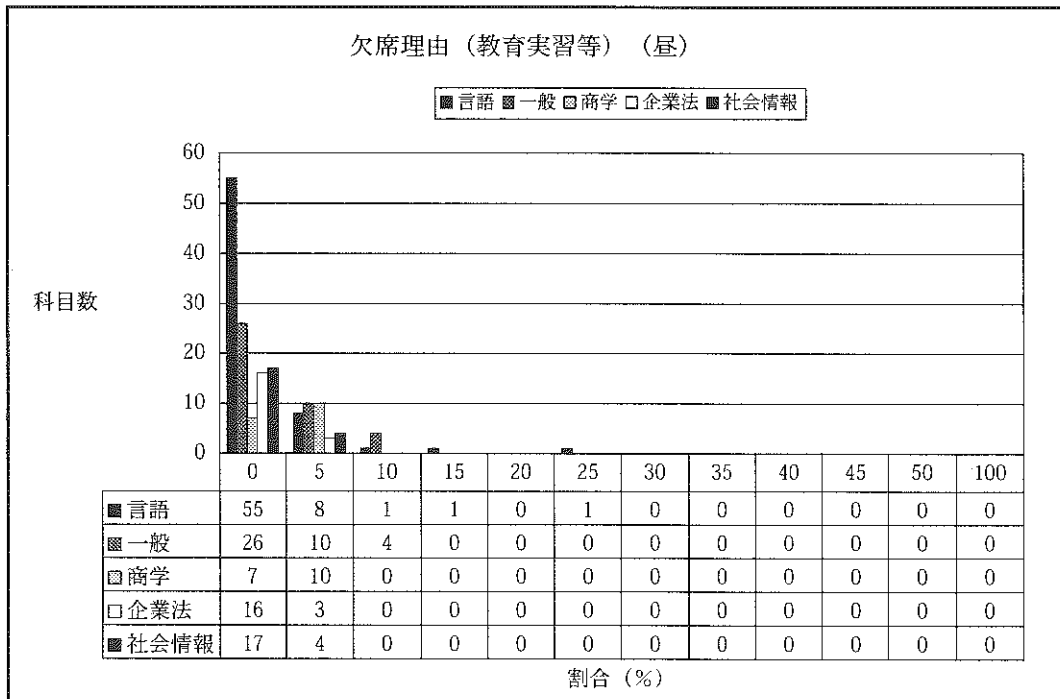
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	33.63	19.31	13.46	14.21	15.52

図III-2-1(b)



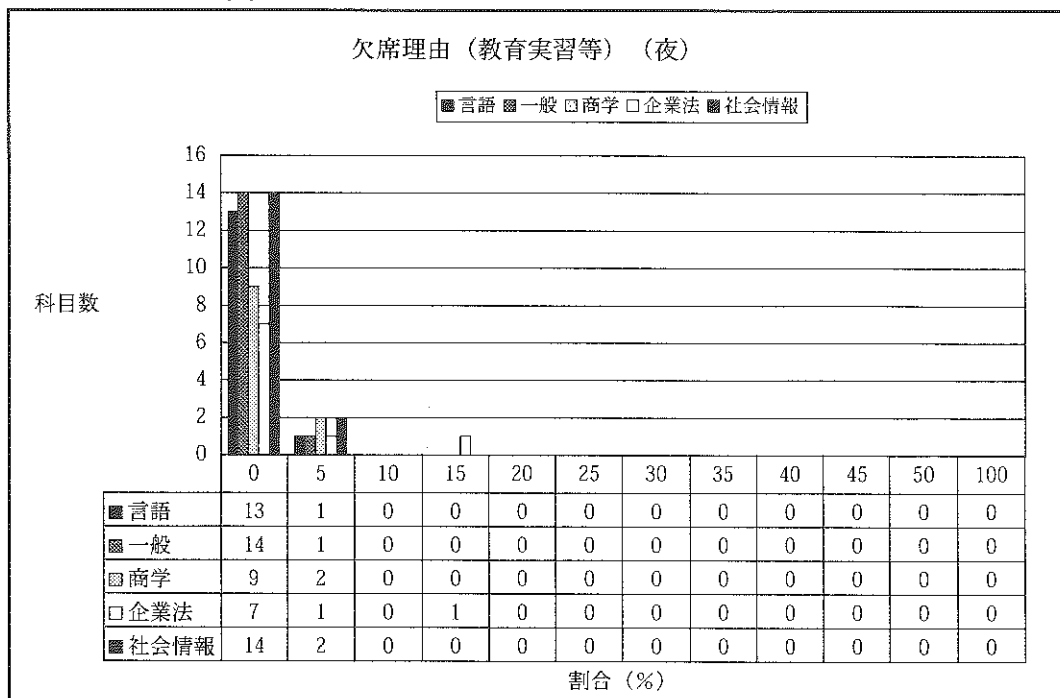
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	21.09	14.14	8.27	6.70	10.56

図Ⅲ-2-2(a)



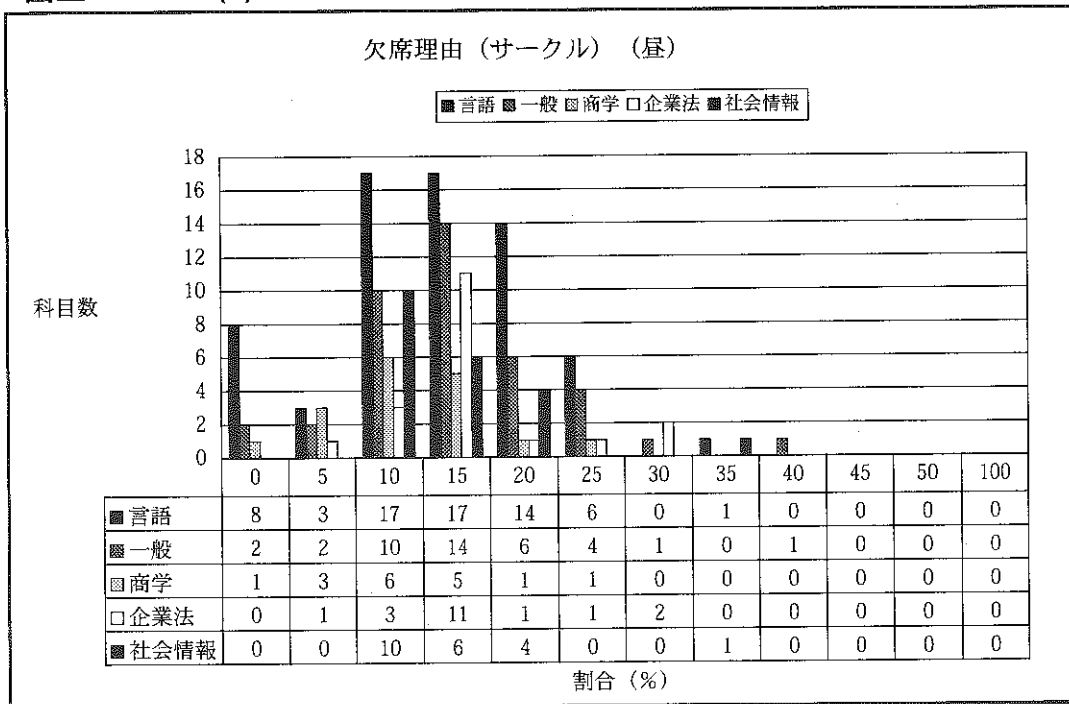
	言 語	一 般	商 学	企 業 法	社会情報
平均 (%)	0.99	1.24	1.21	0.33	0.34

図Ⅲ-2-2(b)



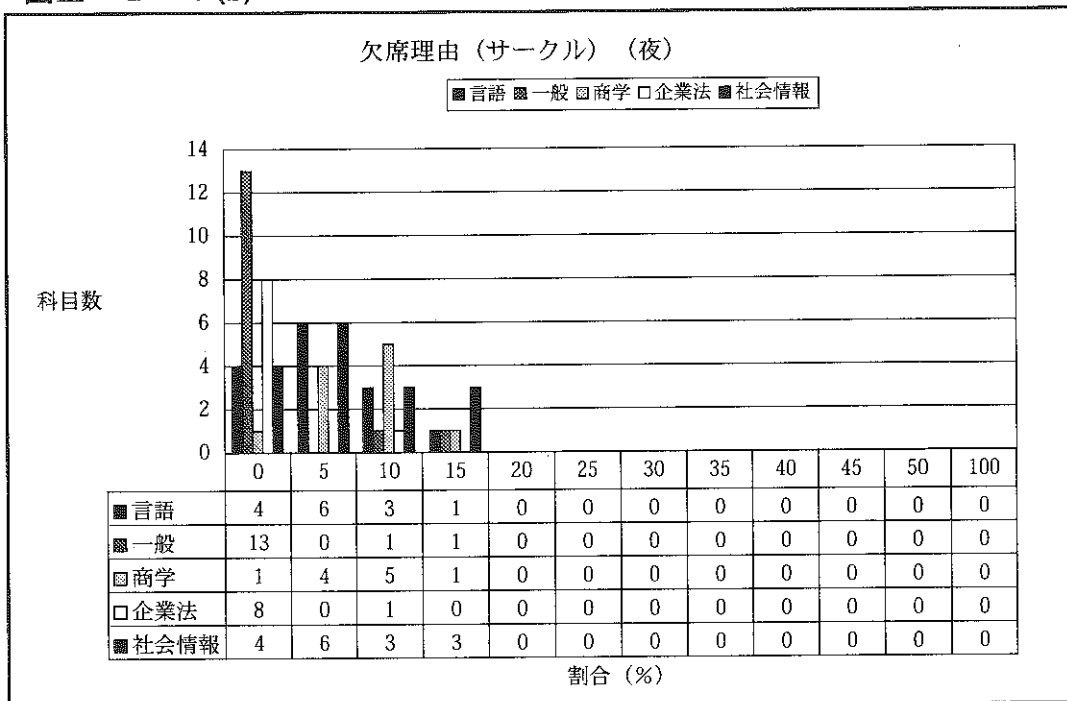
	言 語	一 般	商 学	企 業 法	社会情報
平均 (%)	0.22	0.17	0.56	1.87	0.27

図Ⅲ-2-3(a)



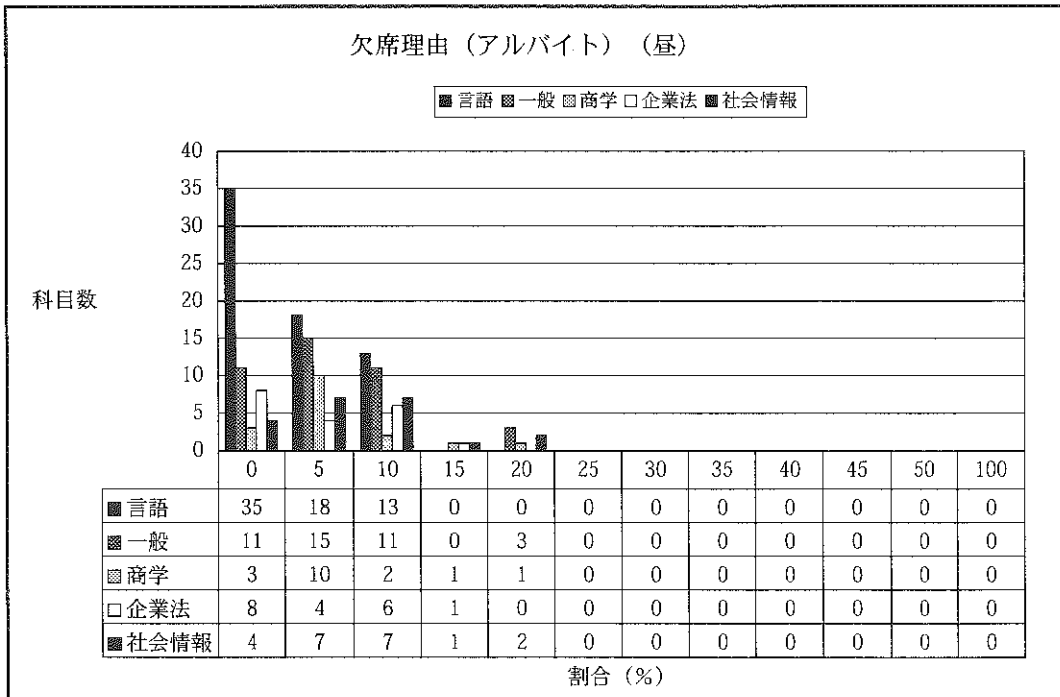
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	11.73	12.76	8.79	14.03	12.44

図Ⅲ-2-3(b)



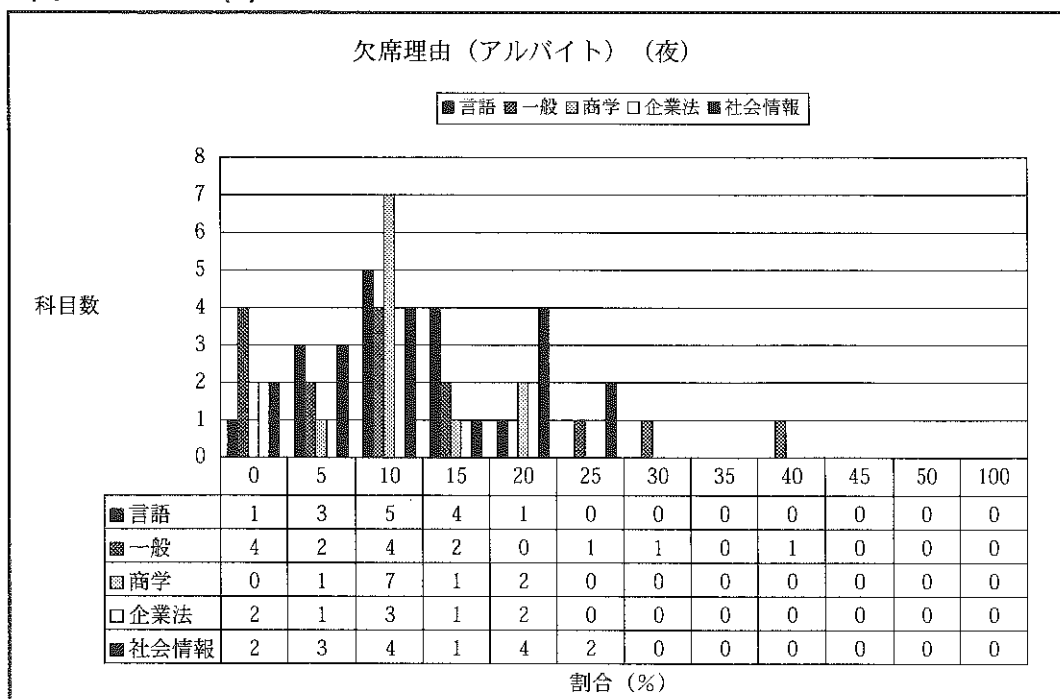
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	4.30	1.27	6.15	0.67	4.74

図Ⅲ-2-4(a)



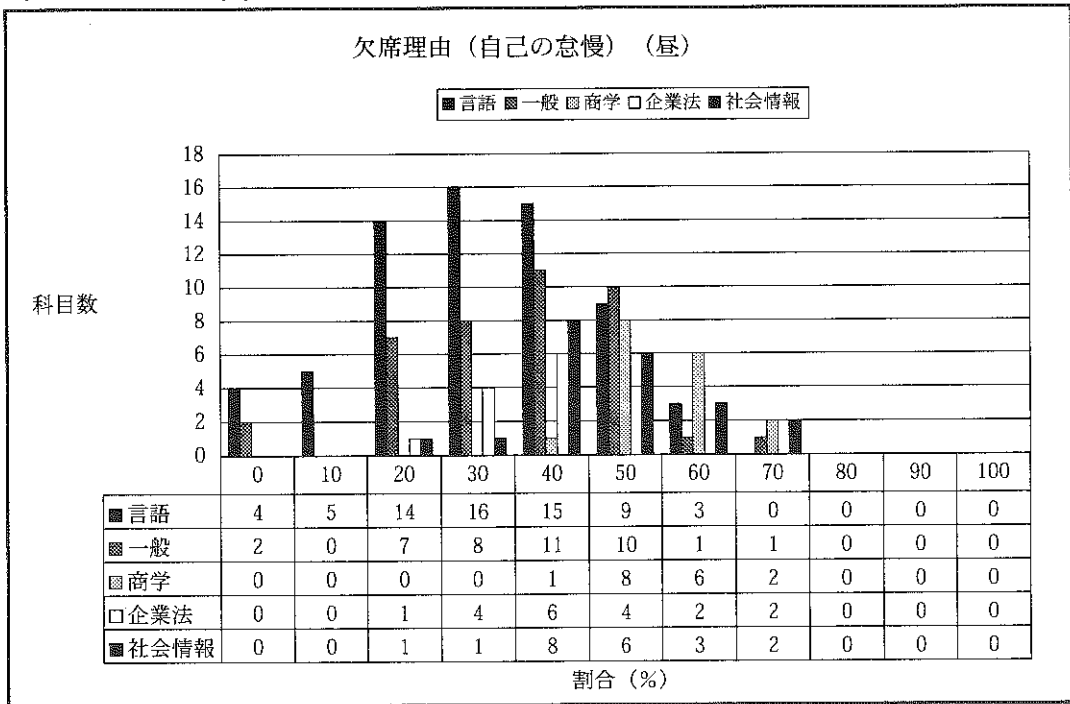
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	2.28	4.11	4.10	3.63	5.95

図Ⅲ-2-4(b)



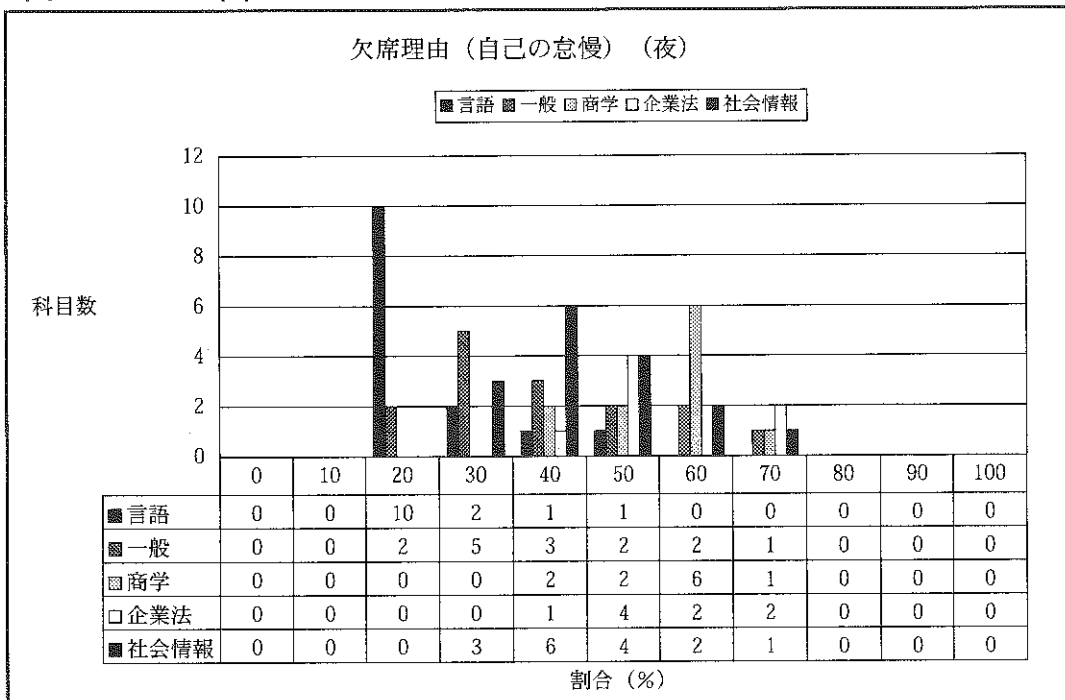
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	8.96	9.87	9.19	7.49	10.44

図Ⅲ-2-5(a)



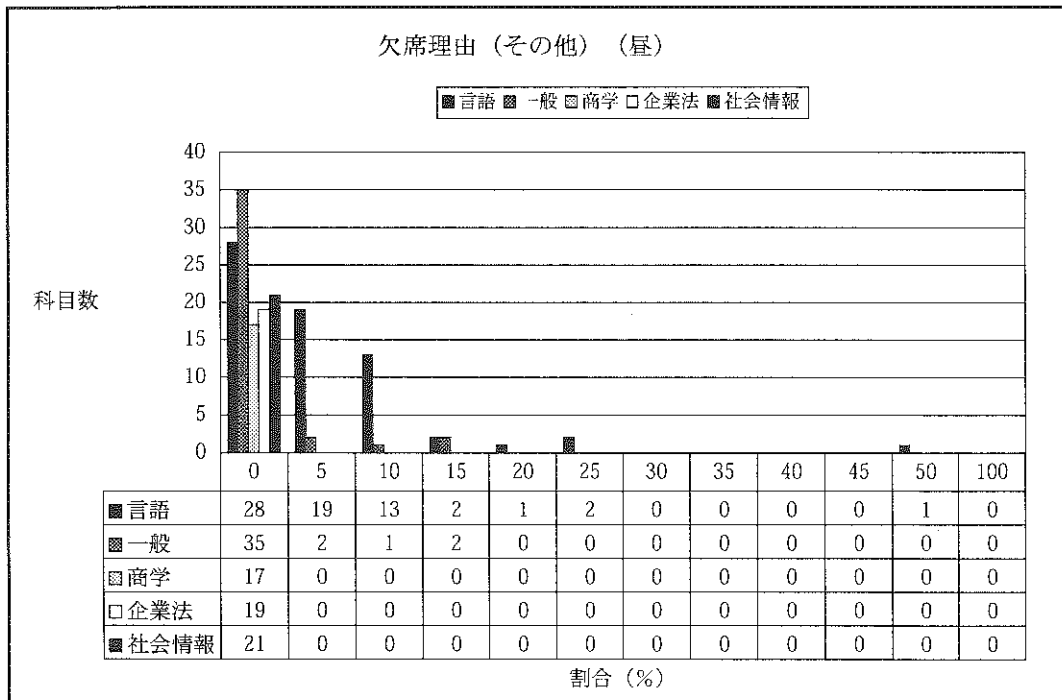
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	26.58	31.24	49.67	39.93	42.21

図Ⅲ-2-5(b)



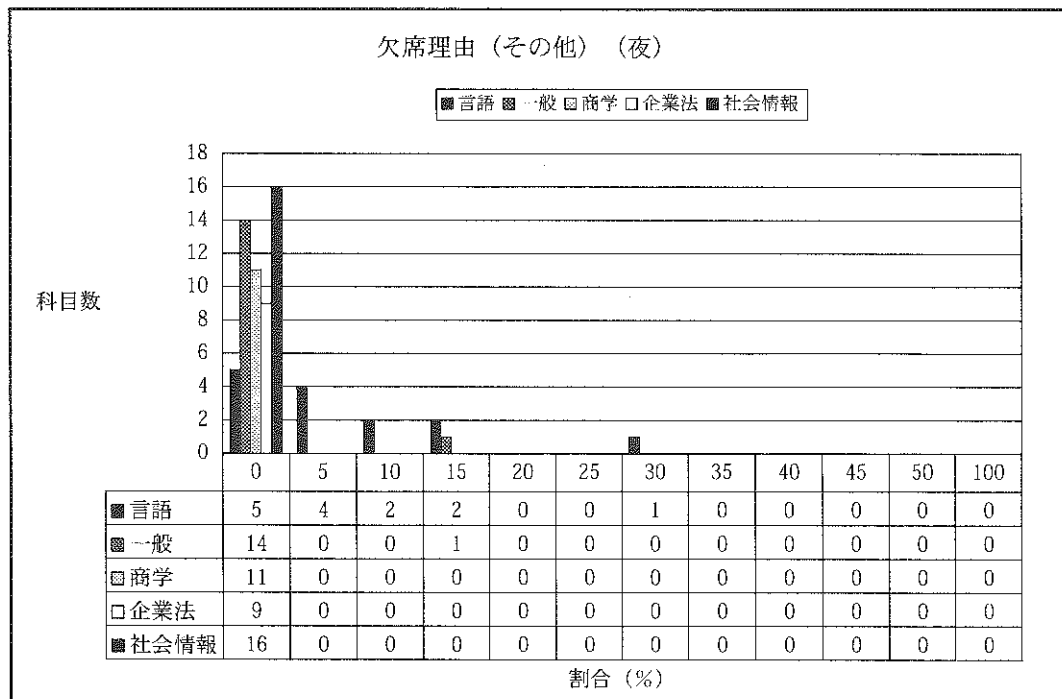
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	21.14	35.27	51.52	51.31	40.40

図Ⅲ-2-6(a)



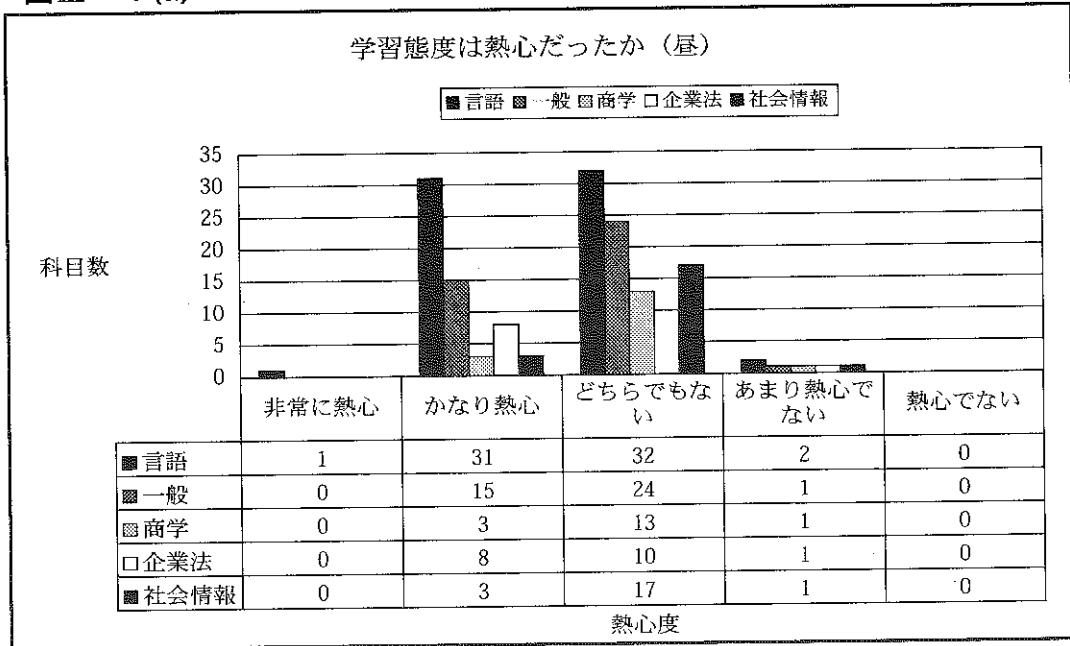
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	4.53	0.87	0.00	0.00	0.00

図Ⅲ-2-6(b)



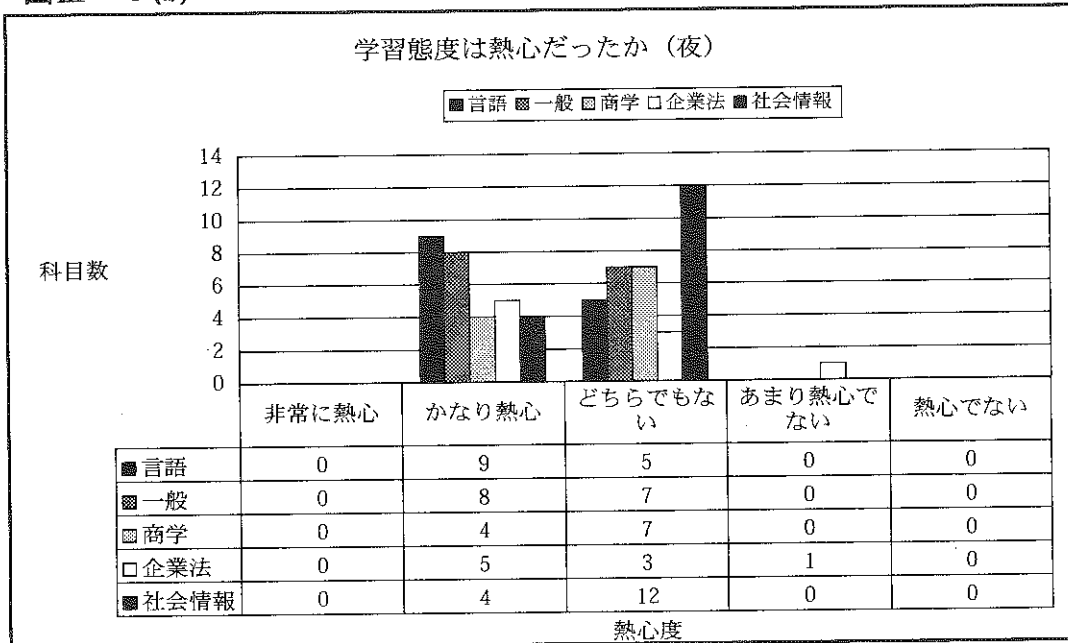
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	6.24	0.78	0.00	0.00	0.00

図Ⅲ-3(a)



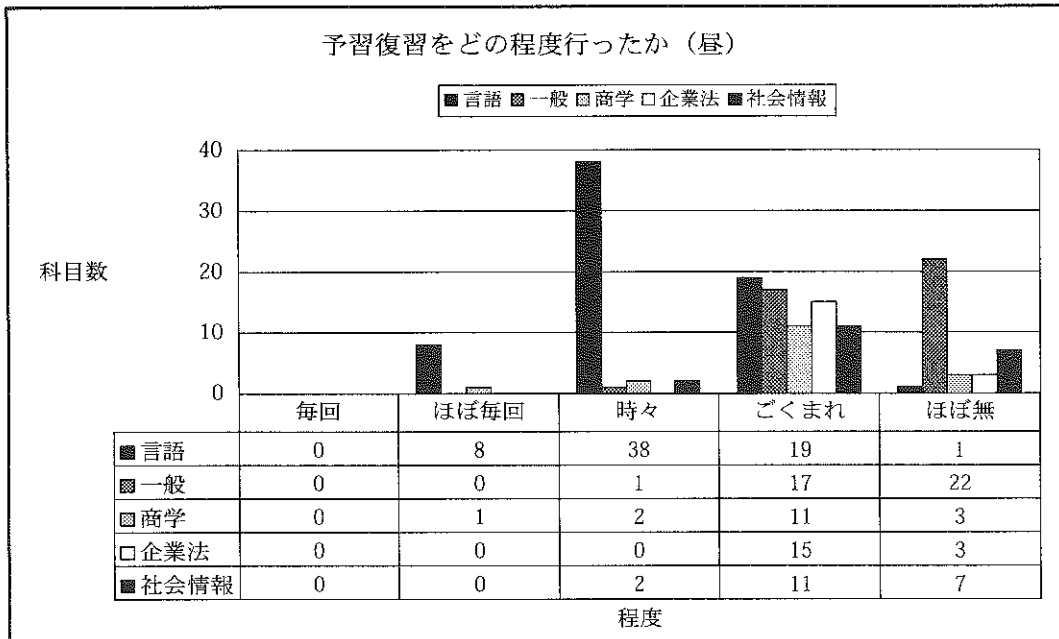
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.43	3.14	3.20	3.43	3.11
最大値	4.50	4.48	3.90	4.13	3.67
最小値	2.35	2.28	2.46	2.39	2.24

図Ⅲ-3(b)



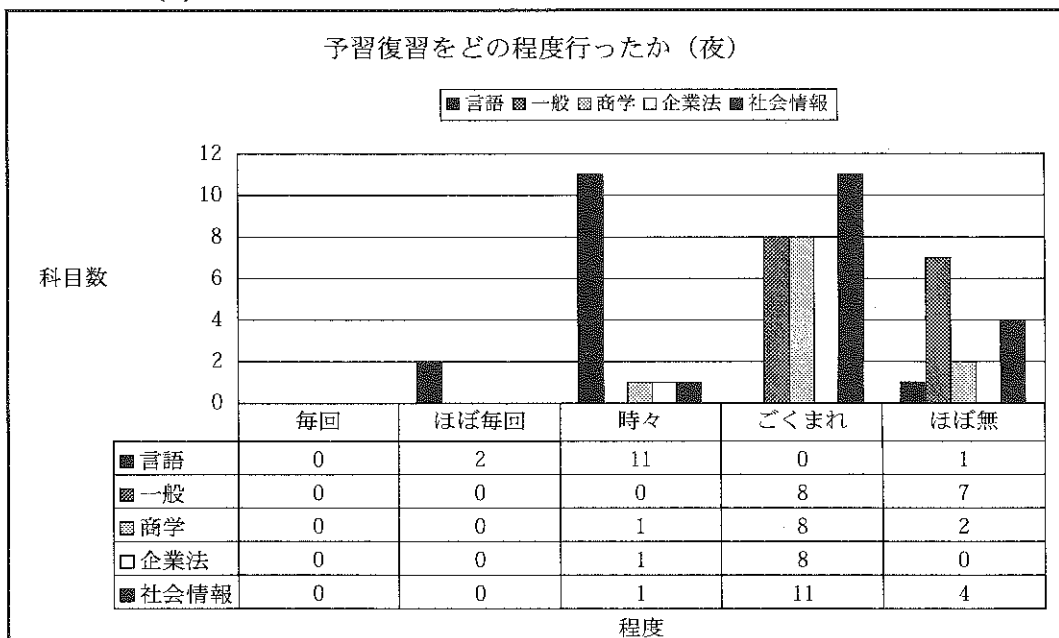
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.68	3.75	3.41	3.53	3.17
最大値	4.21	4.38	3.91	4.10	4.00
最小値	3.00	2.77	2.69	2.48	2.64

図Ⅲ-4(a)



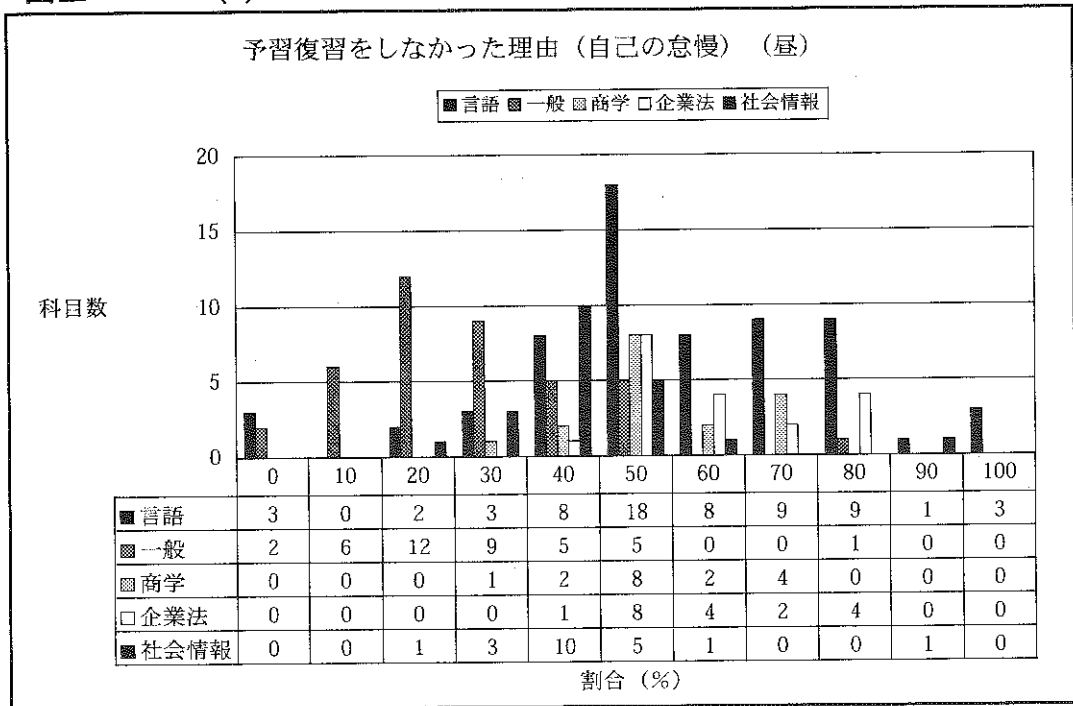
	言 語	一 般	商 学	企 業 法	社会情報
中 央 値	2.75	1.42	1.62	1.77	1.54
最 大 値	4.08	2.74	3.94	2.33	3.29
最 小 値	1.41	1.15	1.13	1.42	1.24

図Ⅲ-4(b)



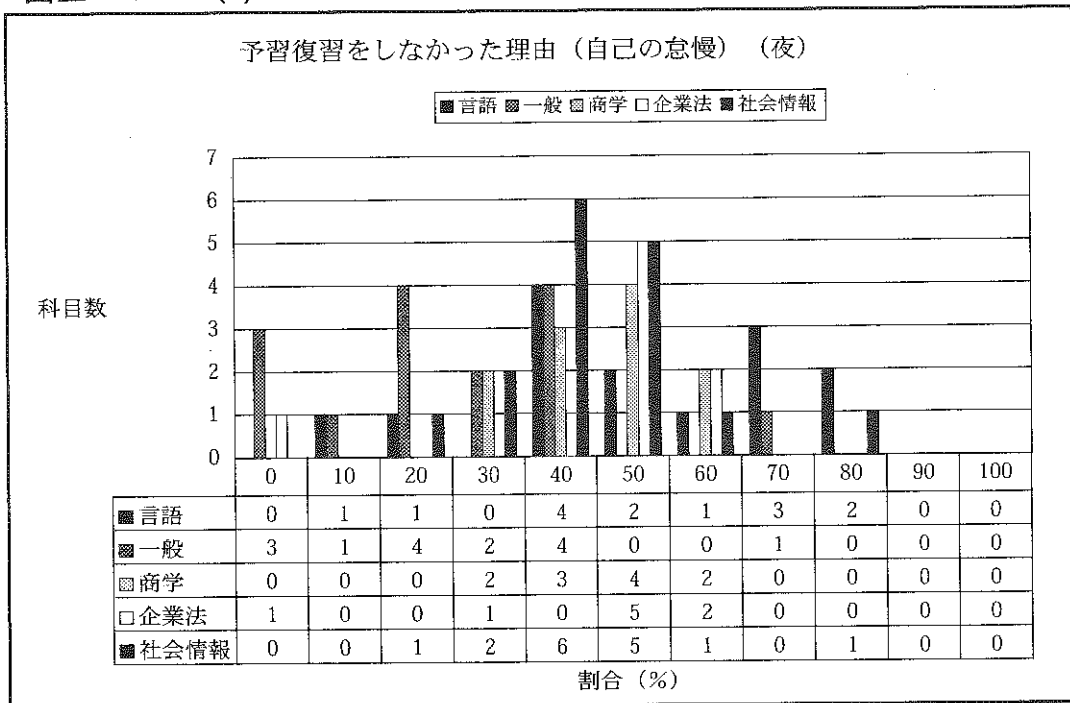
	言 語	一 般	商 学	企 業 法	社会情報
中 央 値	2.83	1.63	1.75	2.00	1.79
最 大 値	3.86	2.42	2.63	2.63	2.79
最 小 値	1.41	1.24	1.37	1.61	1.34

図III-5-1(a)



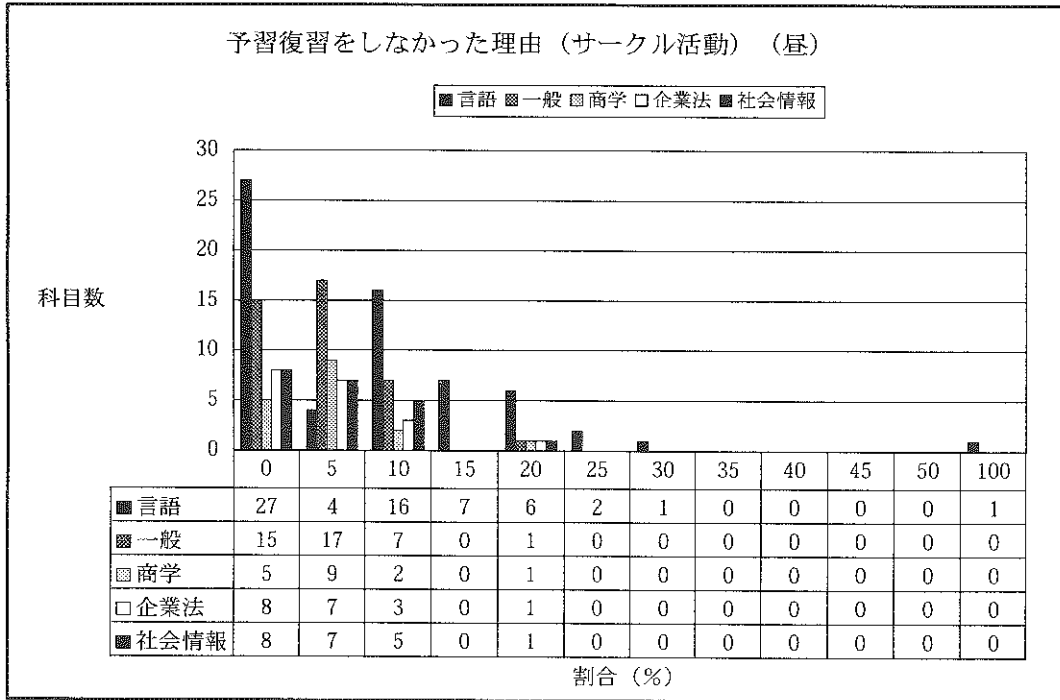
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	52.43	22.96	48.41	56.22	38.79

図III-5-1(b)



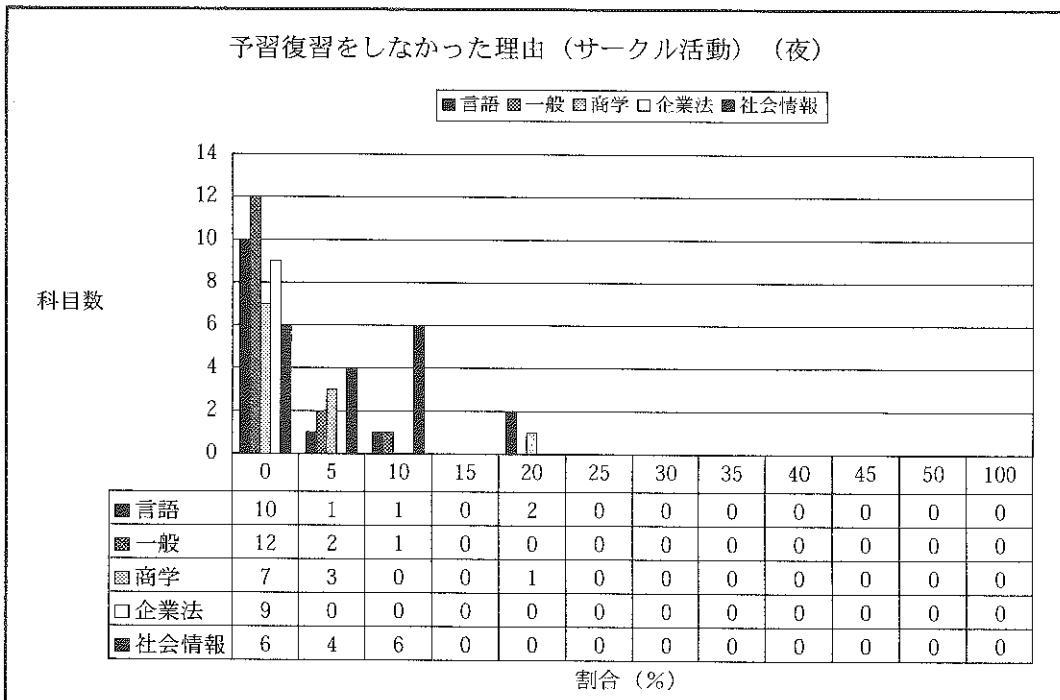
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	45.74	22.20	41.94	39.93	40.03

図Ⅲ-5-2(a)



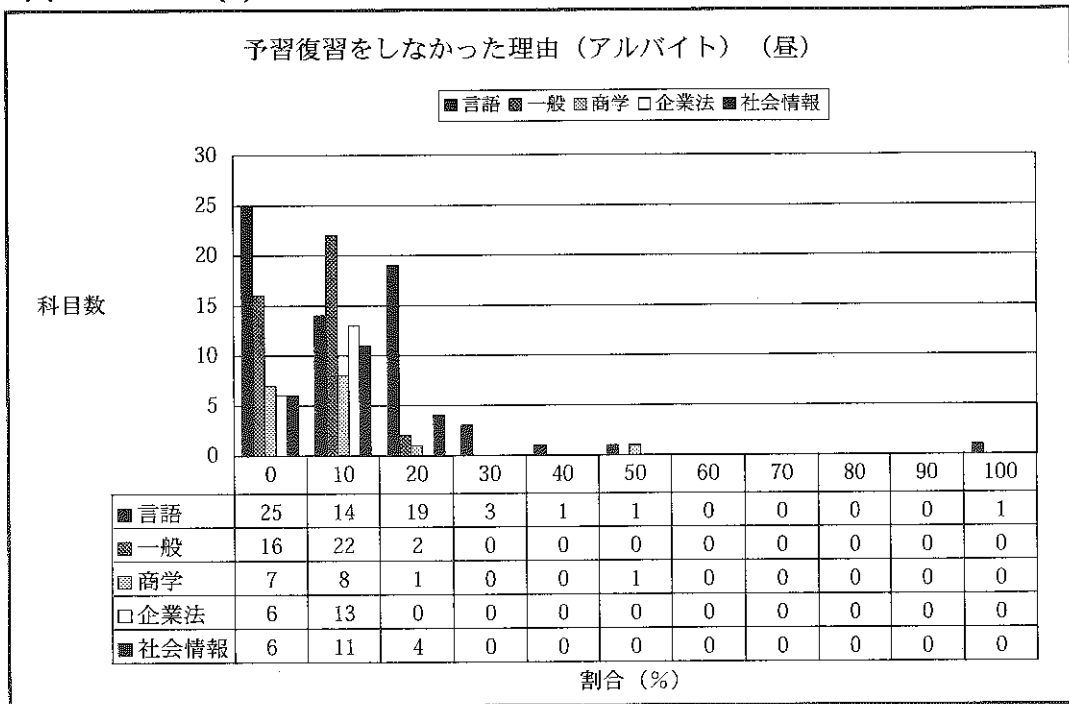
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	7.80	2.96	3.28	3.02	3.88

図Ⅲ-5-2(b)



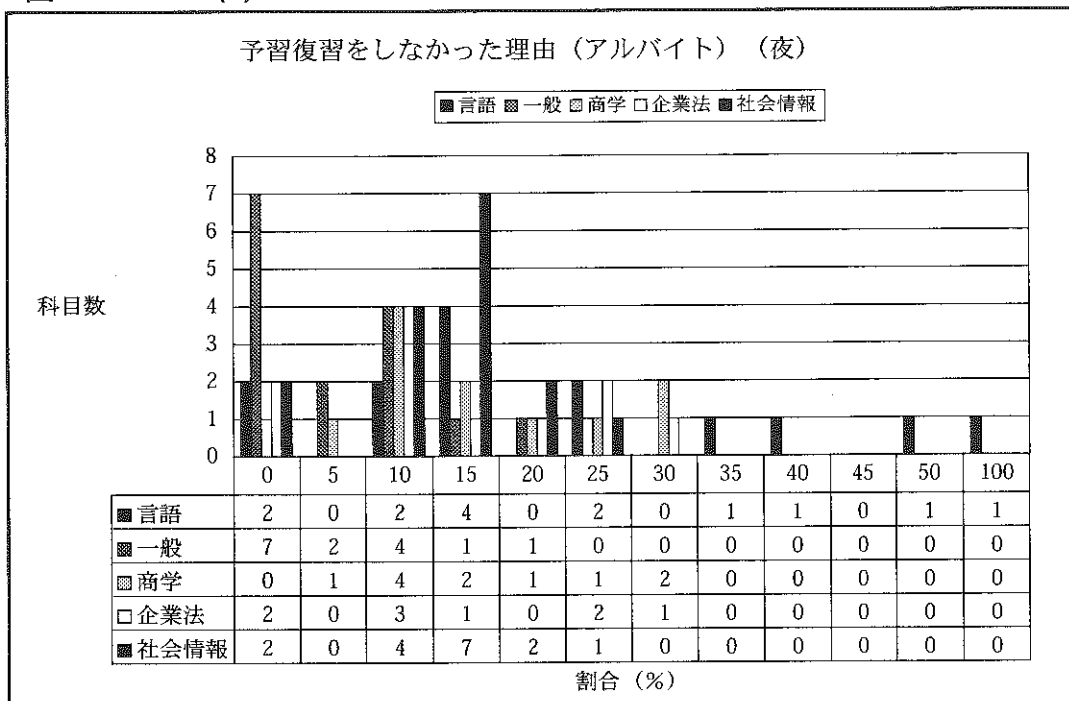
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	3.22	0.88	2.59	0.00	3.14

図Ⅲ-5-3(a)



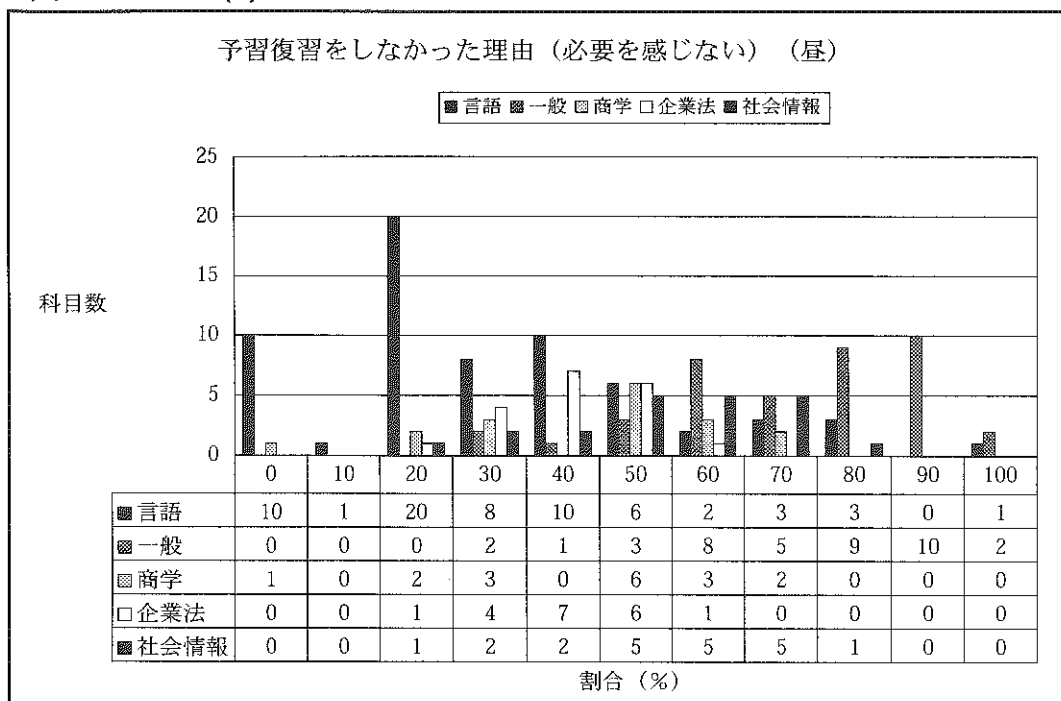
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	9.83	2.89	5.47	3.08	5.88

図Ⅲ-5-3(b)



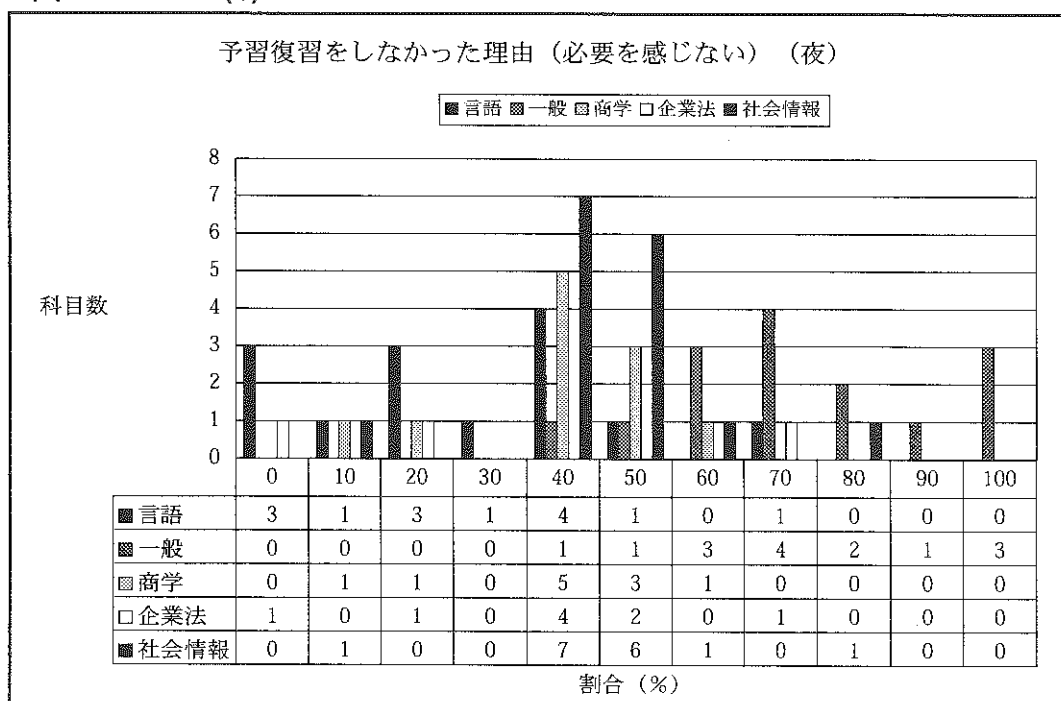
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	21.13	4.80	14.24	11.34	11.22

図Ⅲ-5-4(a)



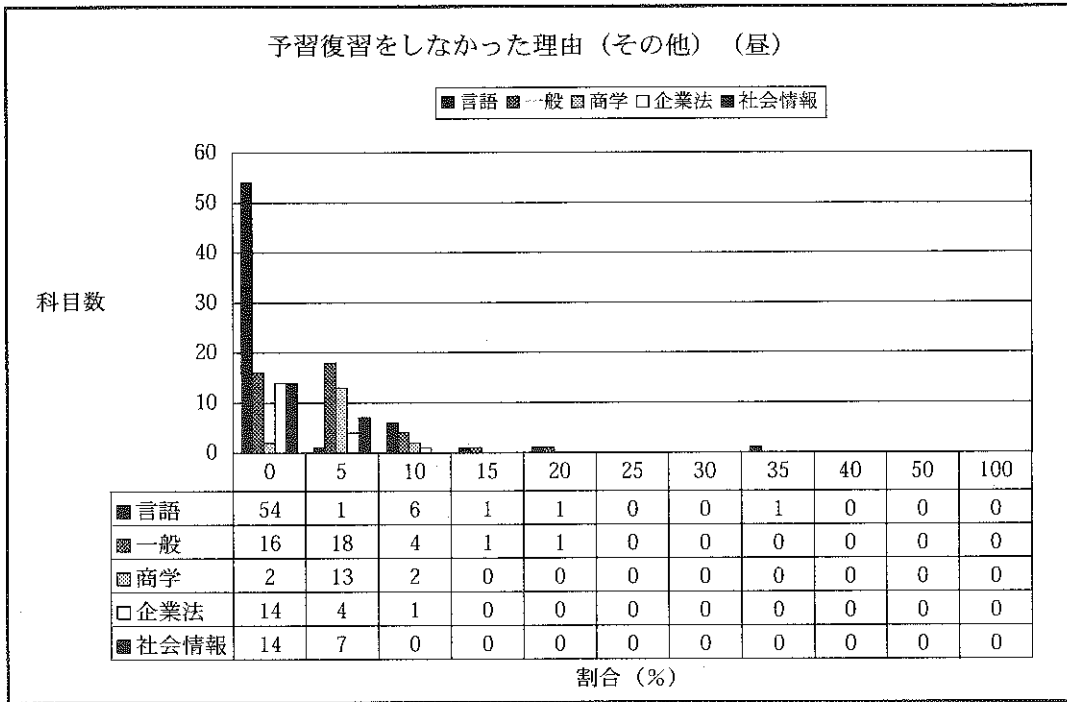
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均（％）	28.07	68.48	40.37	36.70	50.58

図Ⅲ-5-4(b)



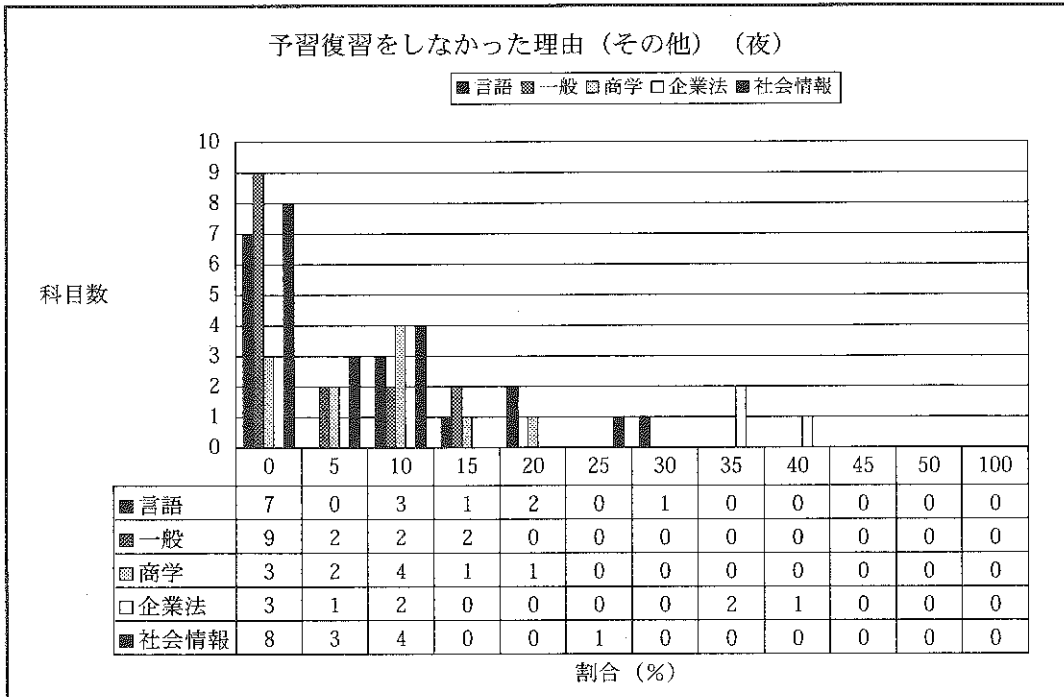
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均（％）	22.77	69.02	34.45	35.02	41.73

図III-5-5(a)



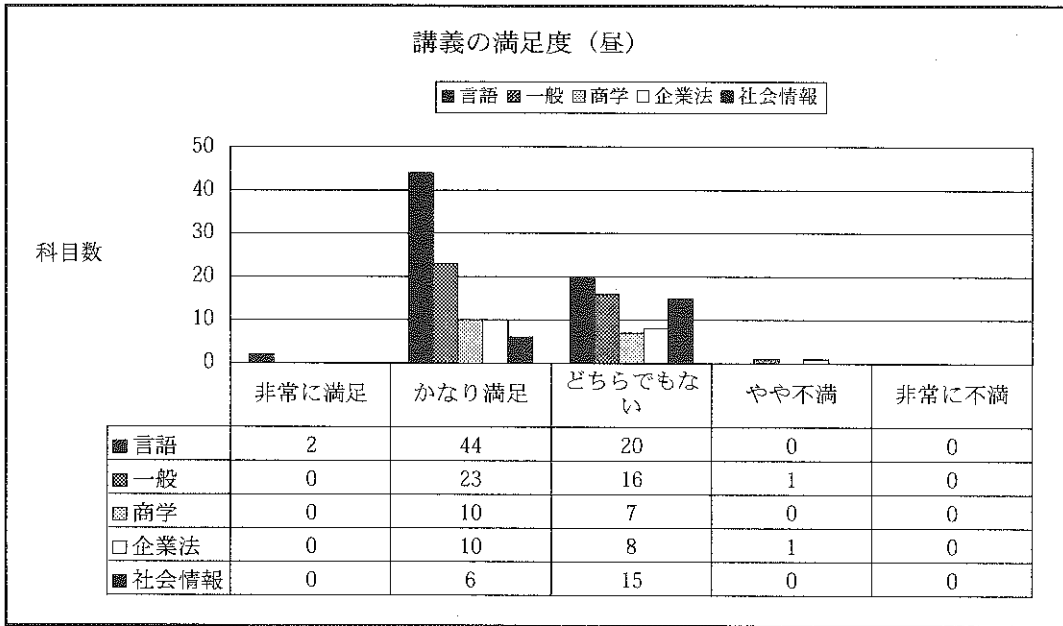
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	1.87	2.71	2.47	0.99	0.87

図III-5-5(b)



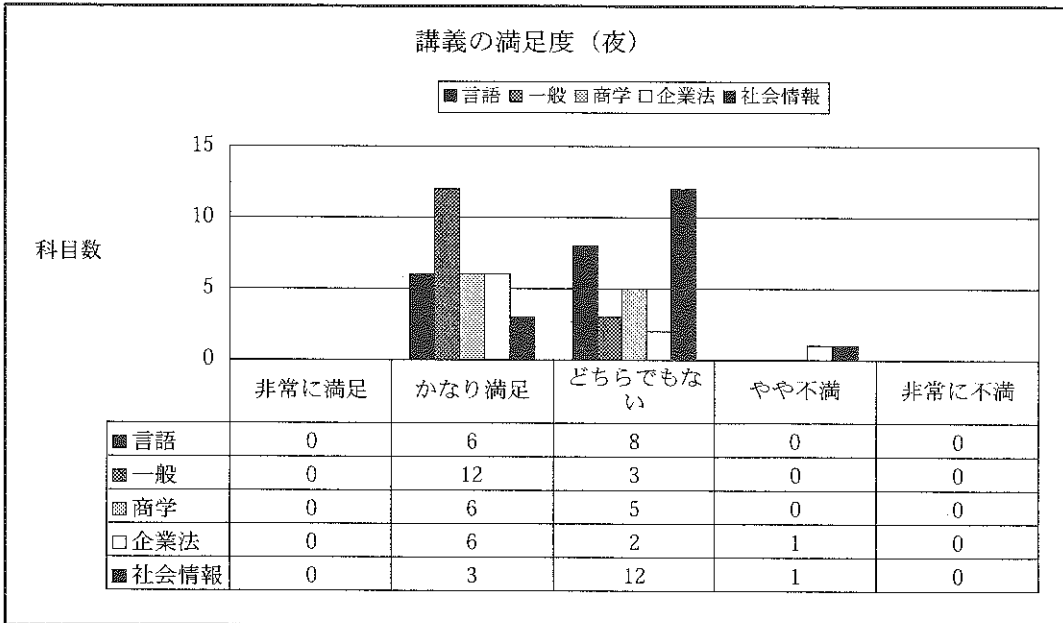
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	7.14	3.09	6.78	13.71	3.88

図IV-1-1



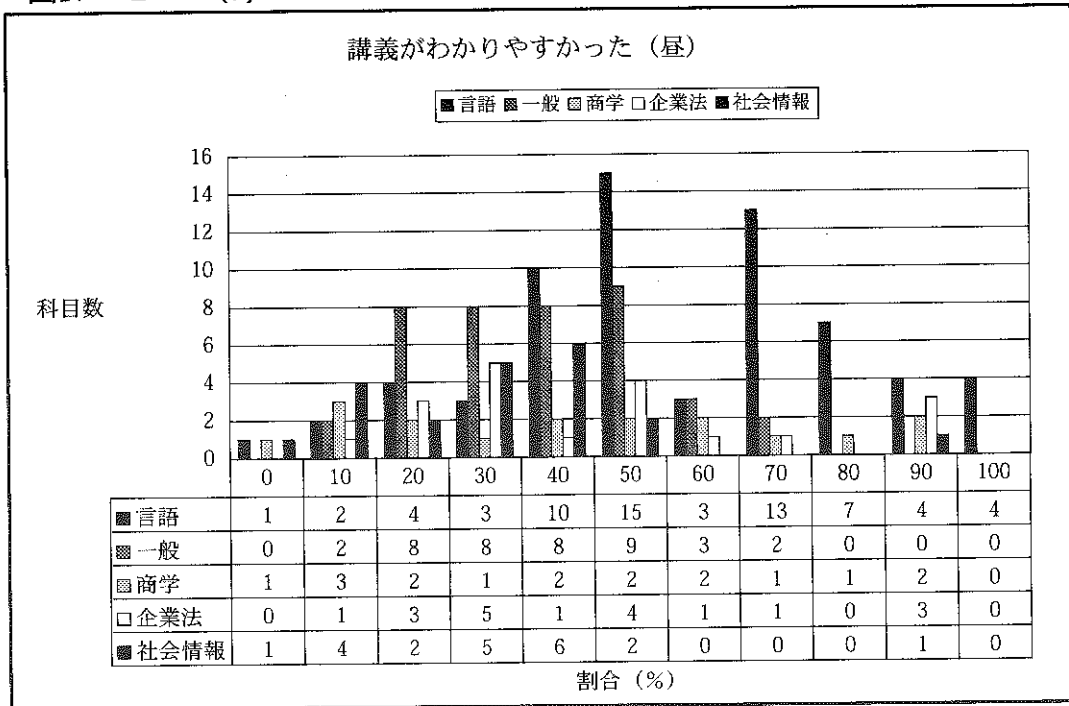
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.70	3.61	3.51	3.51	3.33
最大値	4.61	4.45	4.24	4.38	3.94
最小値	2.62	2.22	2.63	2.13	2.57

図IV-1-2



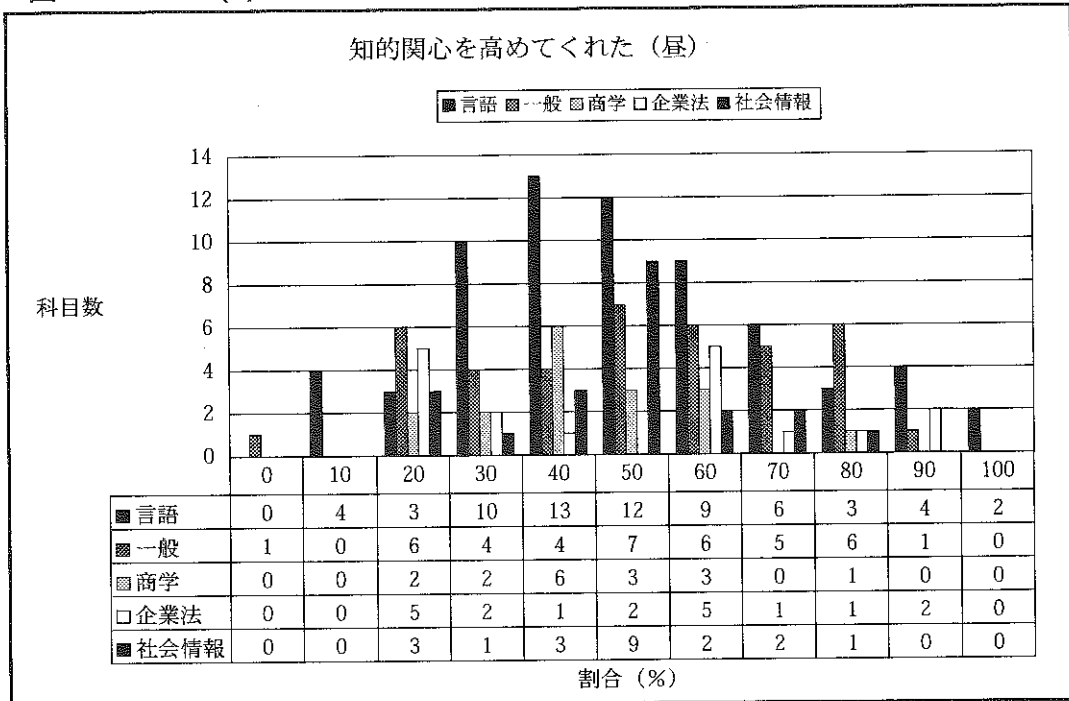
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.34	3.70	3.61	3.52	3.27
最大値	4.36	4.44	4.37	4.38	3.84
最小値	3.00	2.60	2.97	2.04	2.43

図IV-2-1(a)



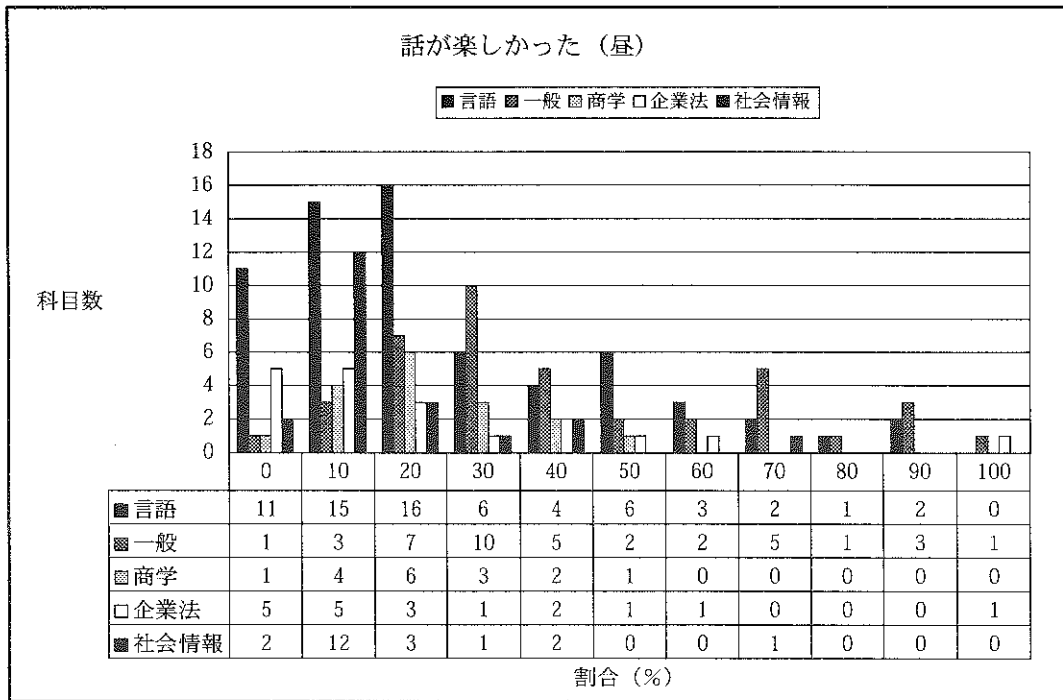
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	52.07	32.13	38.30	40.98	26.68

図IV-2-1(b)



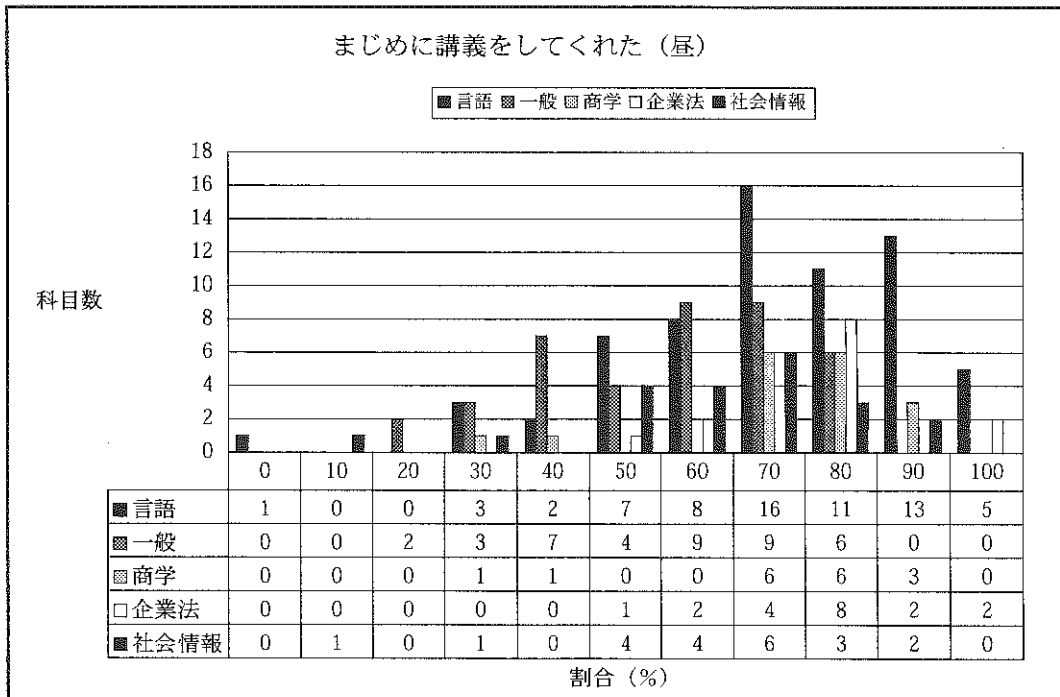
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	45.03	46.30	39.75	45.24	43.45

図IV-2-1(c)



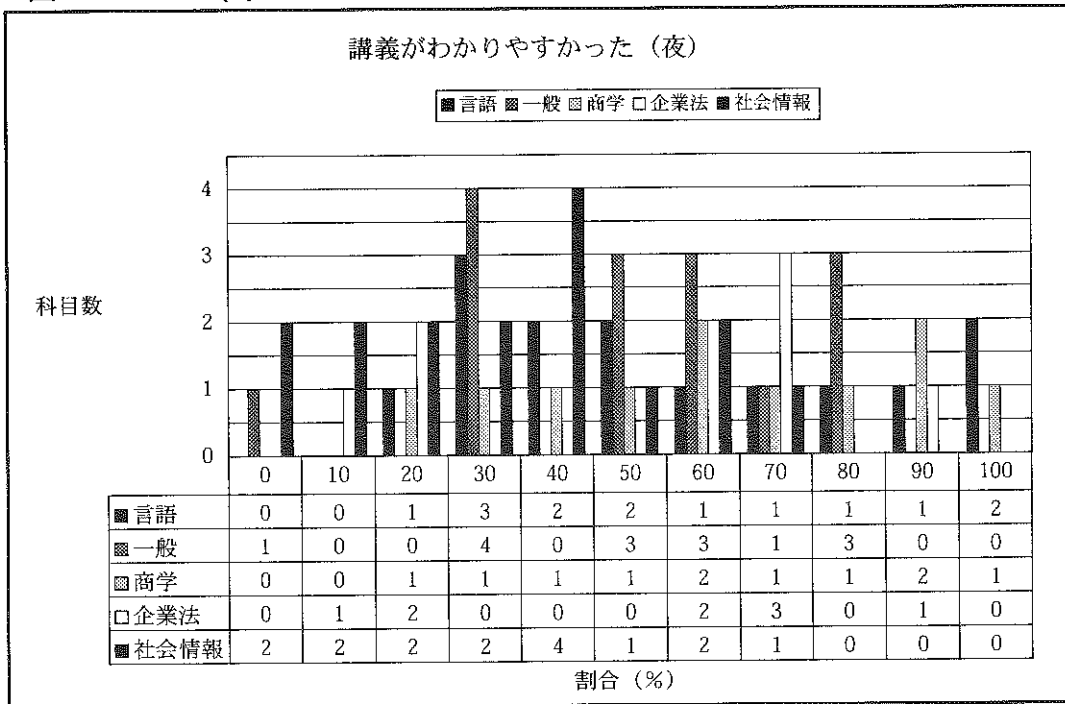
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	21.55	37.19	18.70	18.62	12.76

図IV-2-1(d)



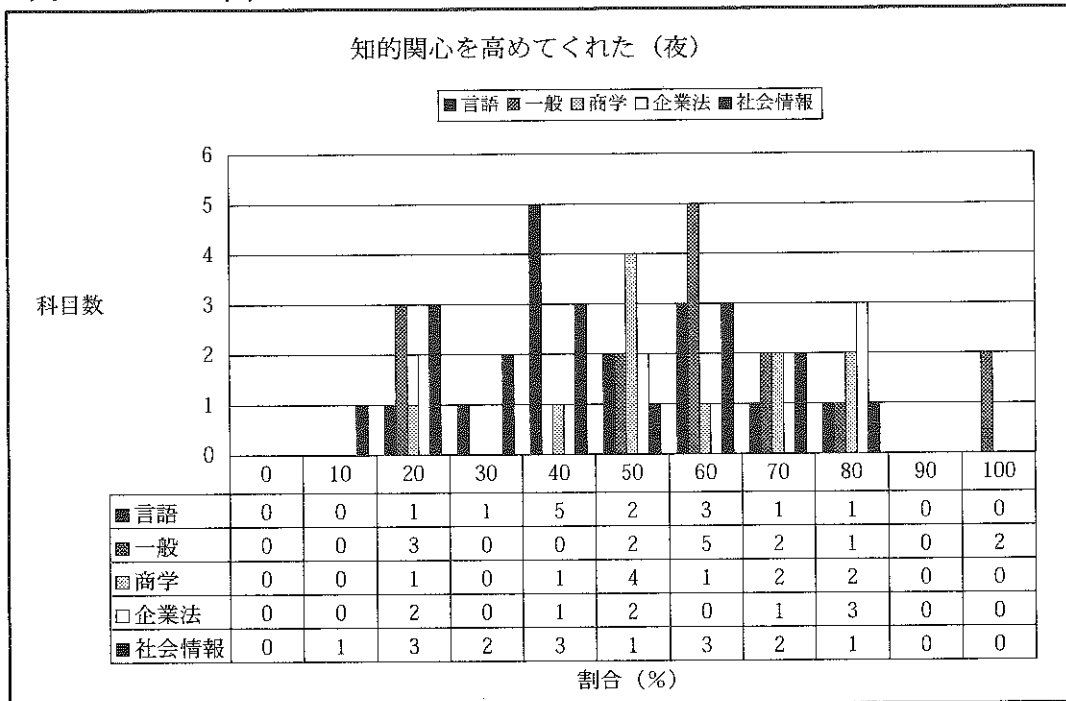
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	66.23	51.84	68.26	72.80	58.99

図IV-2-2(a)



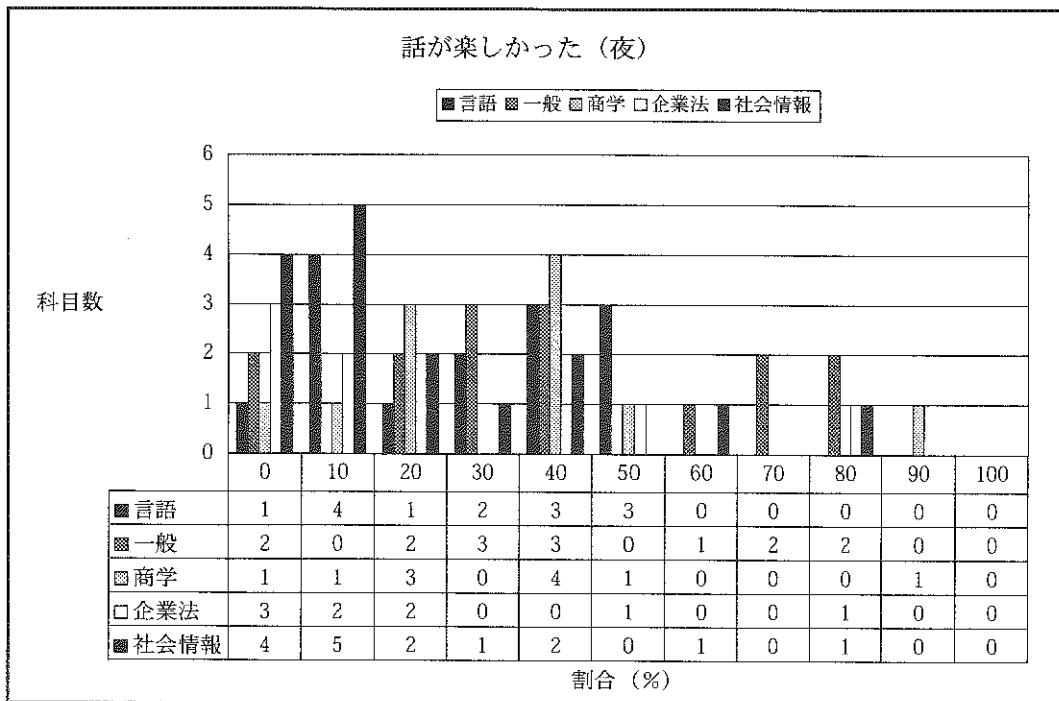
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	52.41	45.87	58.05	46.14	28.26

図IV-2-2(b)



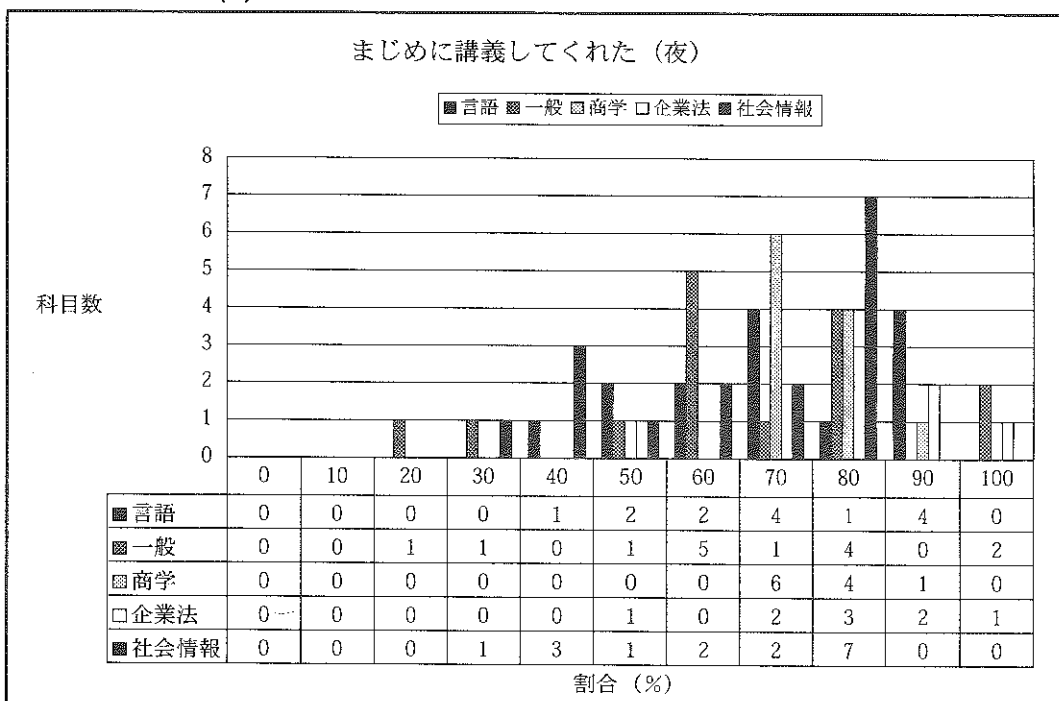
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	44.86	55.08	52.13	50.97	40.50

図IV-2-2(c)



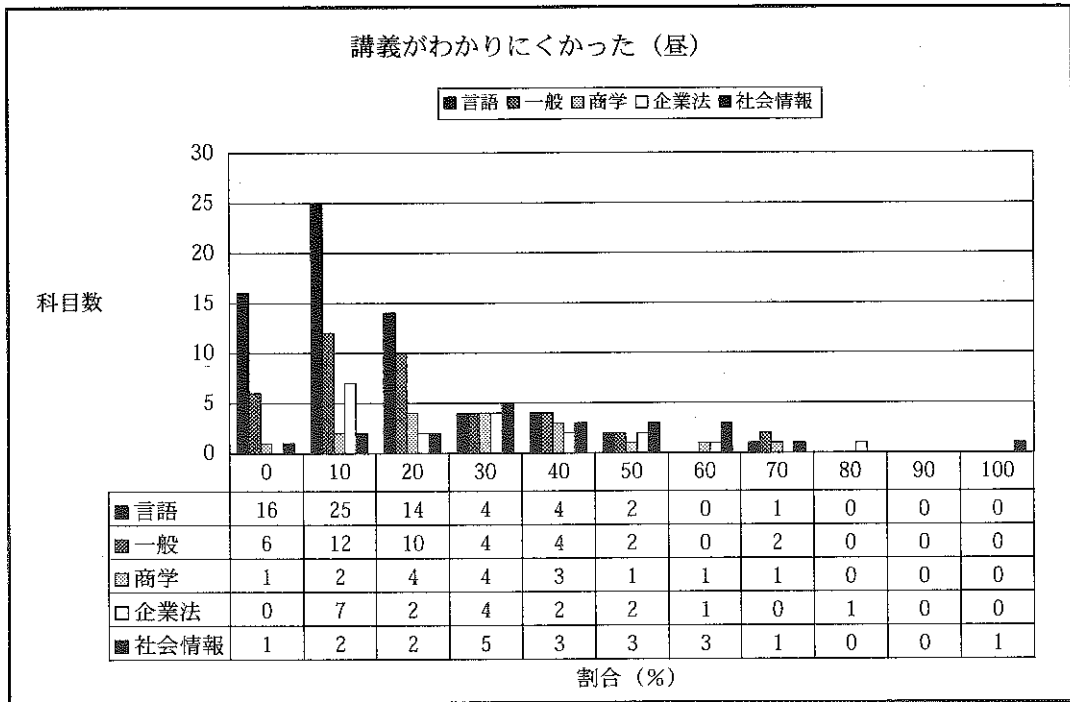
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	24.23	36.18	27.95	18.37	17.50

図IV-2-2(d)



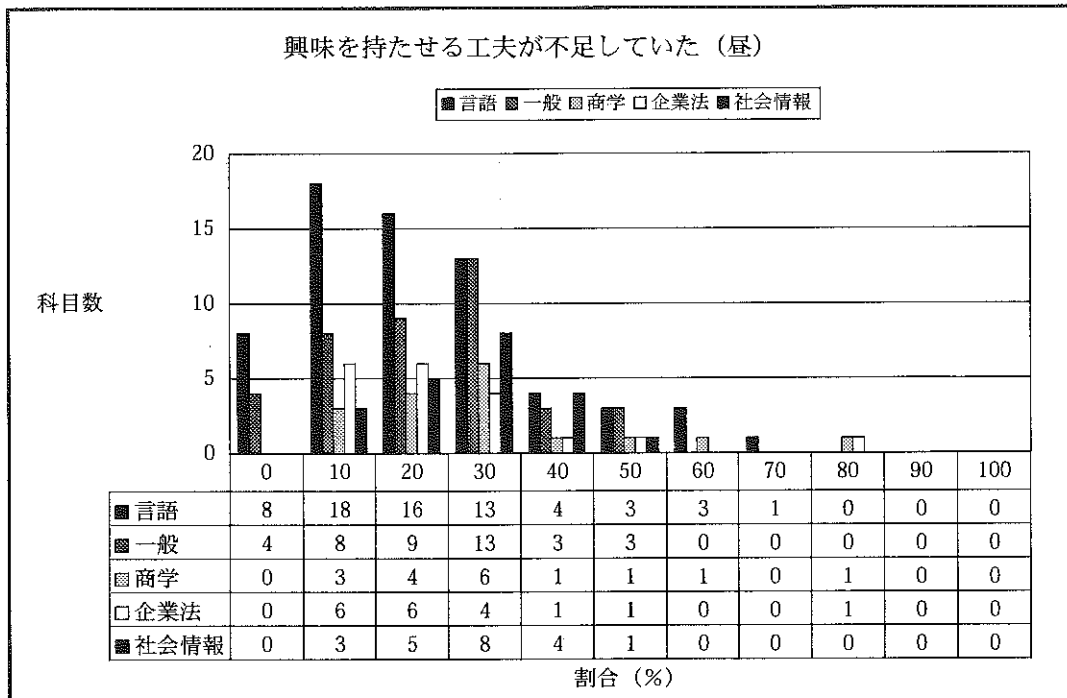
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	66.62	63.63	72.15	74.45	60.35

図IV-3-1(a)



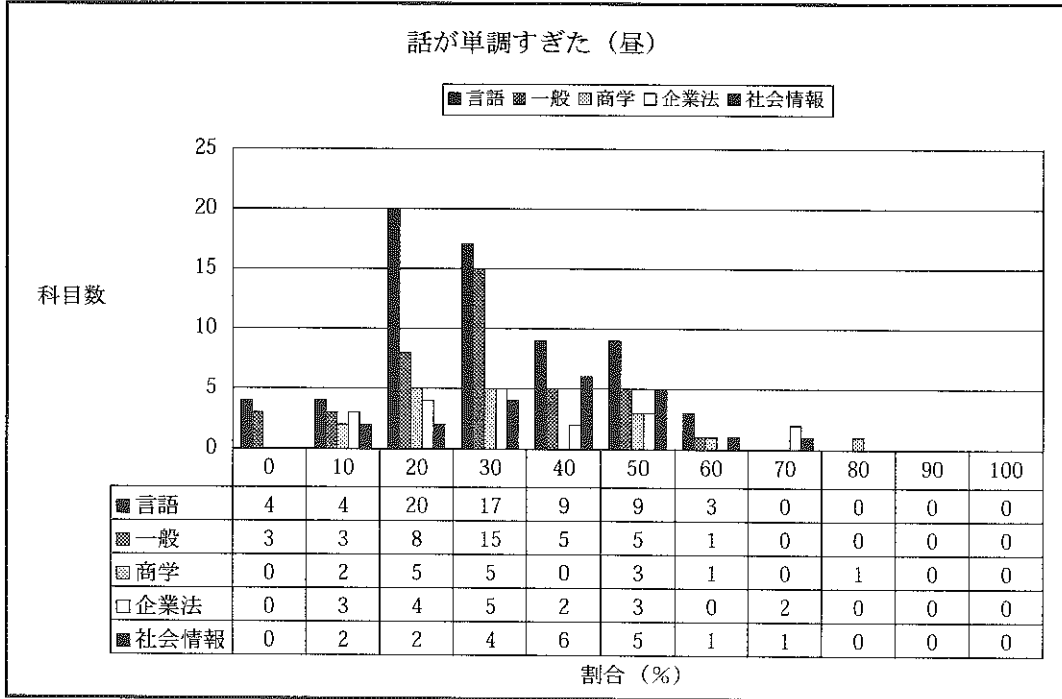
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	11.67	16.79	25.77	23.35	35.09

図IV-3-1(b)



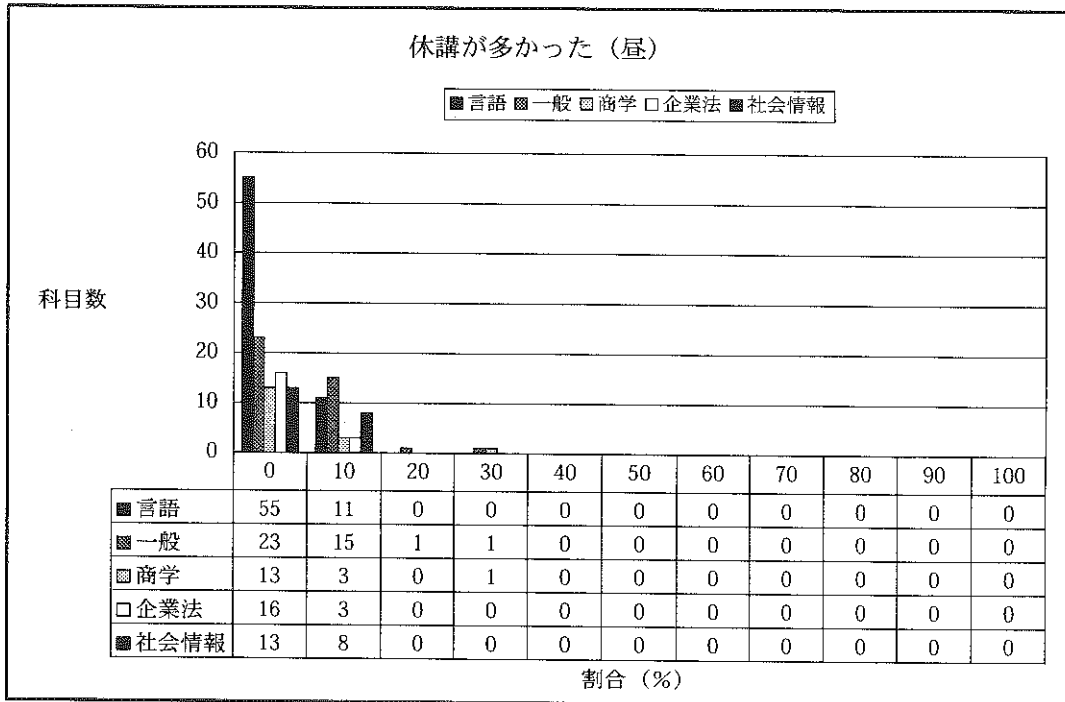
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	17.99	18.89	25.92	20.40	24.01

図IV-3-1(c)



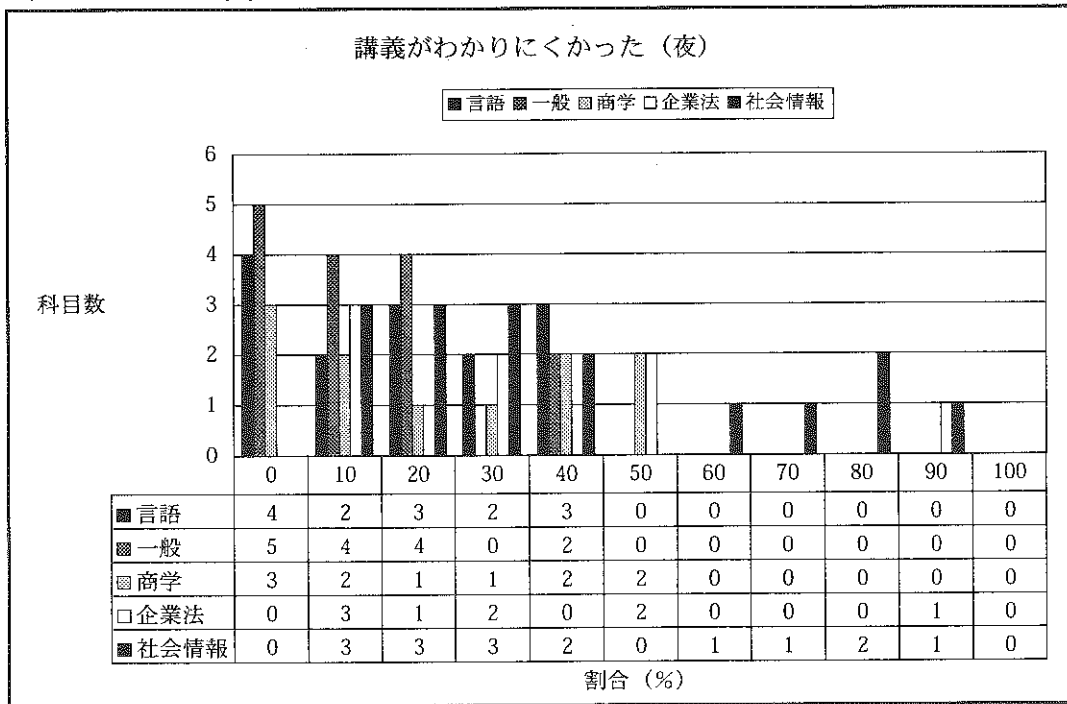
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	24.68	23.78	28.92	29.15	33.59

図IV-3-1(d)



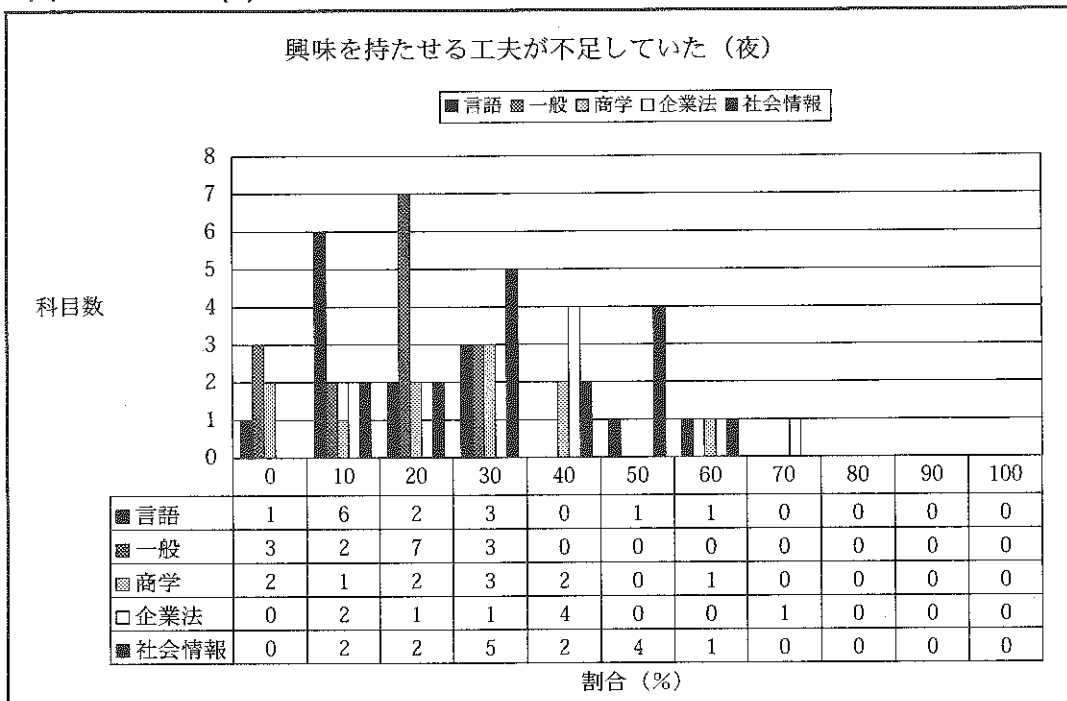
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	0.59	1.84	1.85	0.72	0.99

図IV-3-2(a)



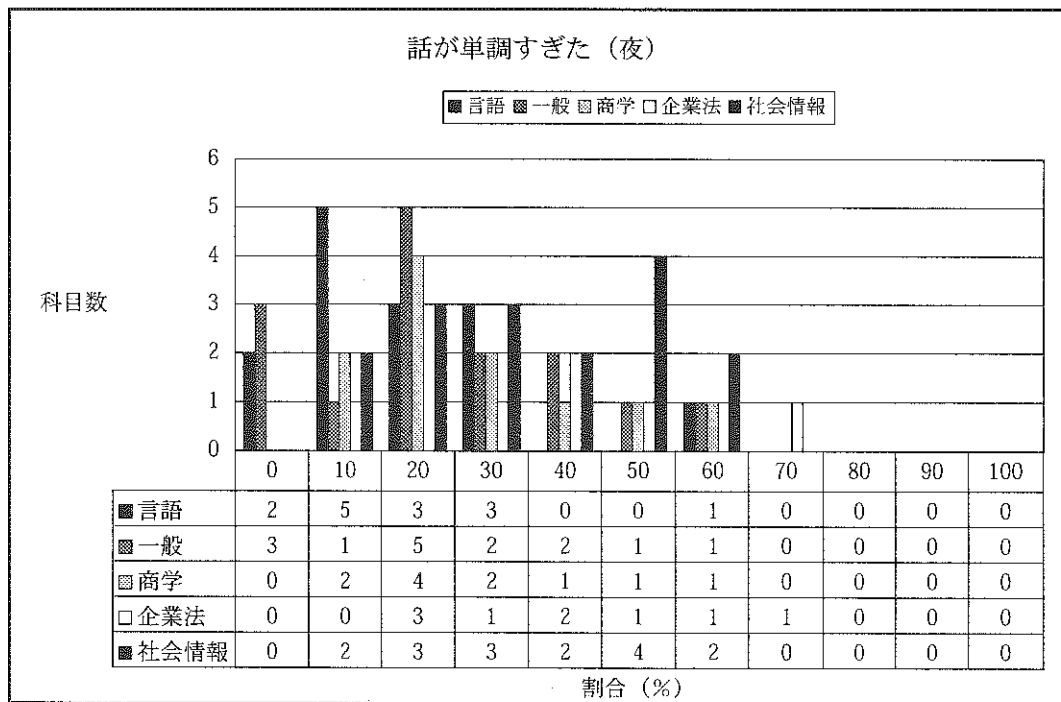
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	15.22	9.98	18.98	27.95	35.94

図IV-3-2(b)



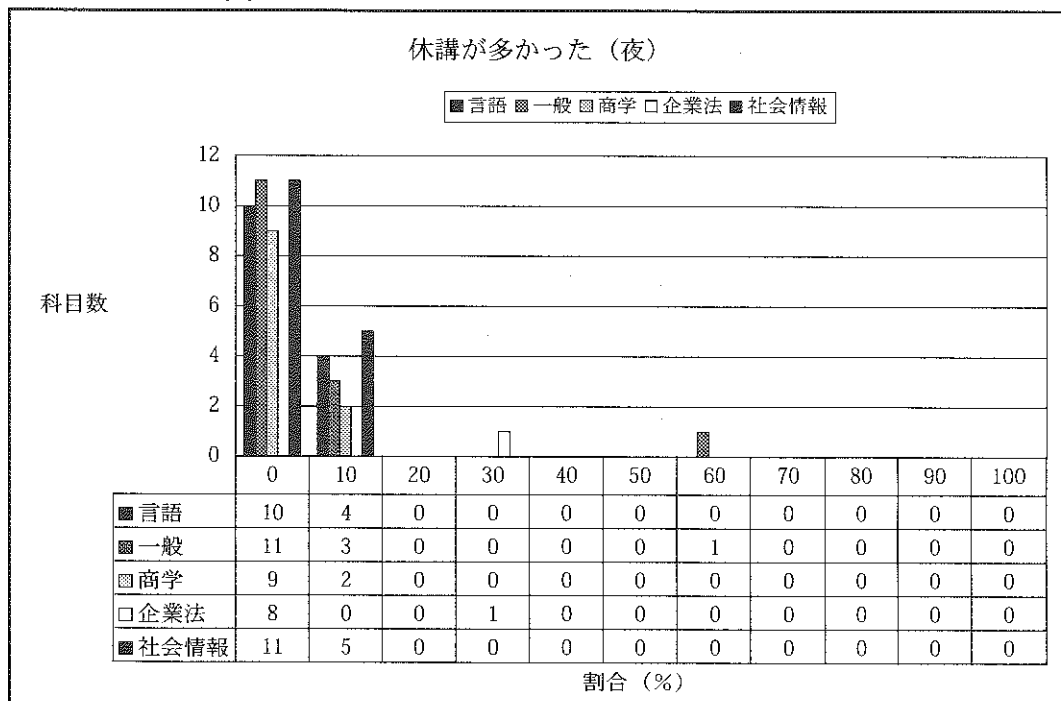
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	17.58	12.72	21.68	29.42	29.75

図IV-3-2(c)



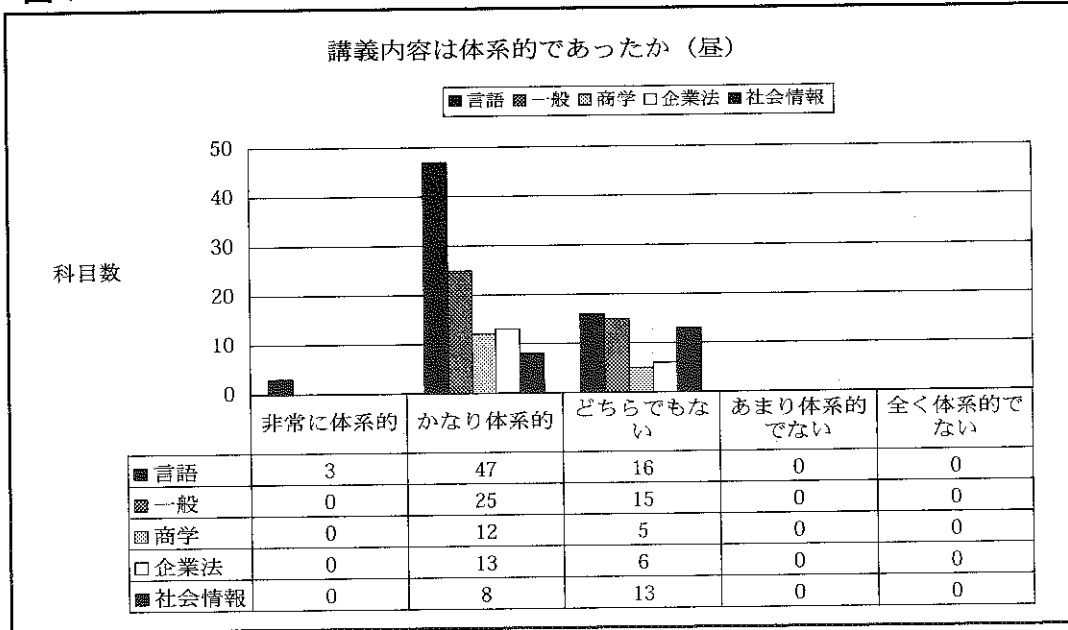
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	15.76	20.95	24.15	34.18	31.89

図IV-3-2(d)



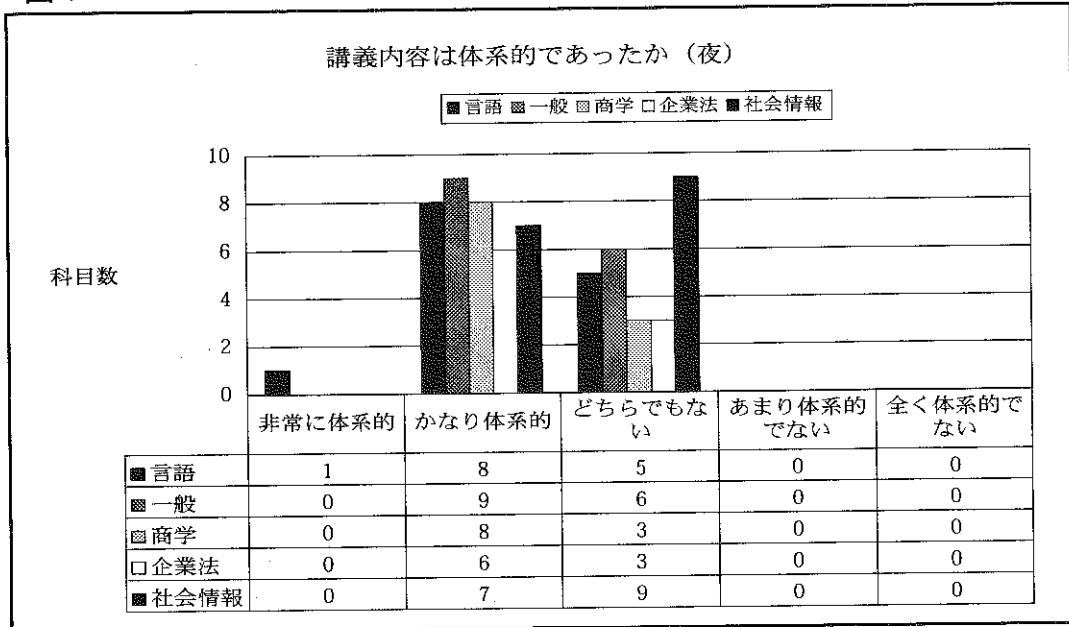
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
平均 (%)	1.07	4.16	1.15	2.42	1.54

図V-1-1



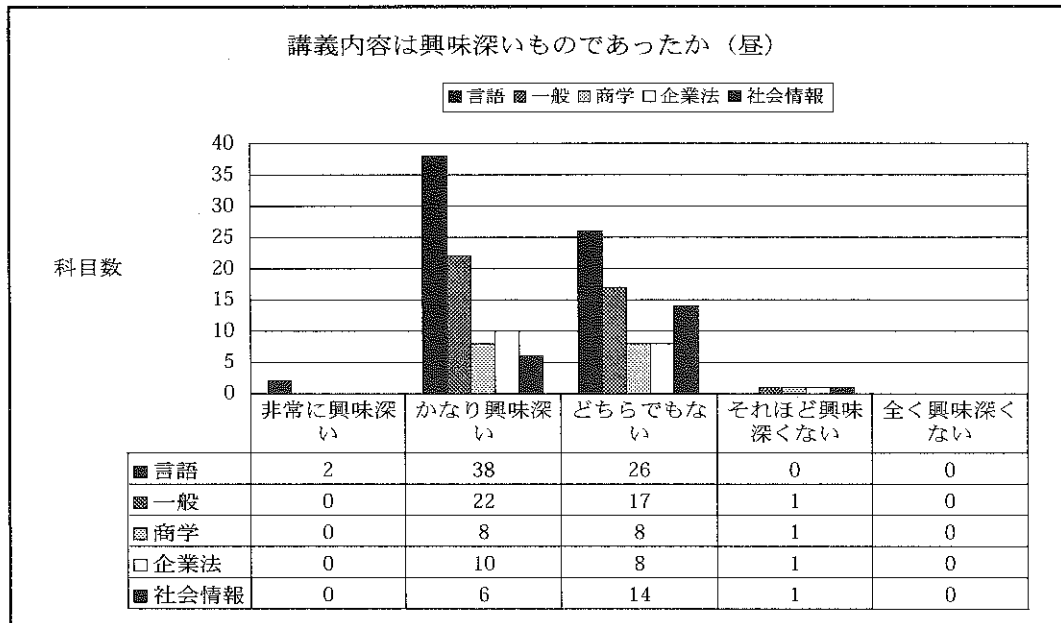
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.80	3.67	3.74	3.89	3.38
最大値	4.88	4.43	4.33	4.33	4.20
最小値	2.75	2.65	2.63	2.89	2.86

図V-1-2



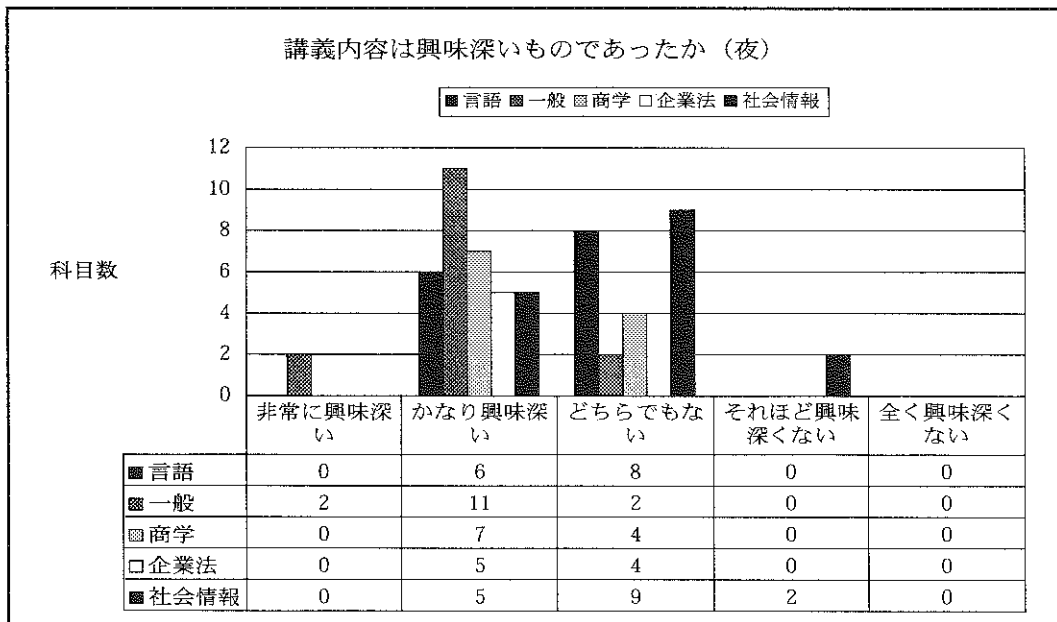
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.64	3.68	3.66	3.75	3.46
最大値	4.60	4.43	4.33	4.00	4.09
最小値	3.00	3.00	3.10	2.65	2.95

図V-2-1



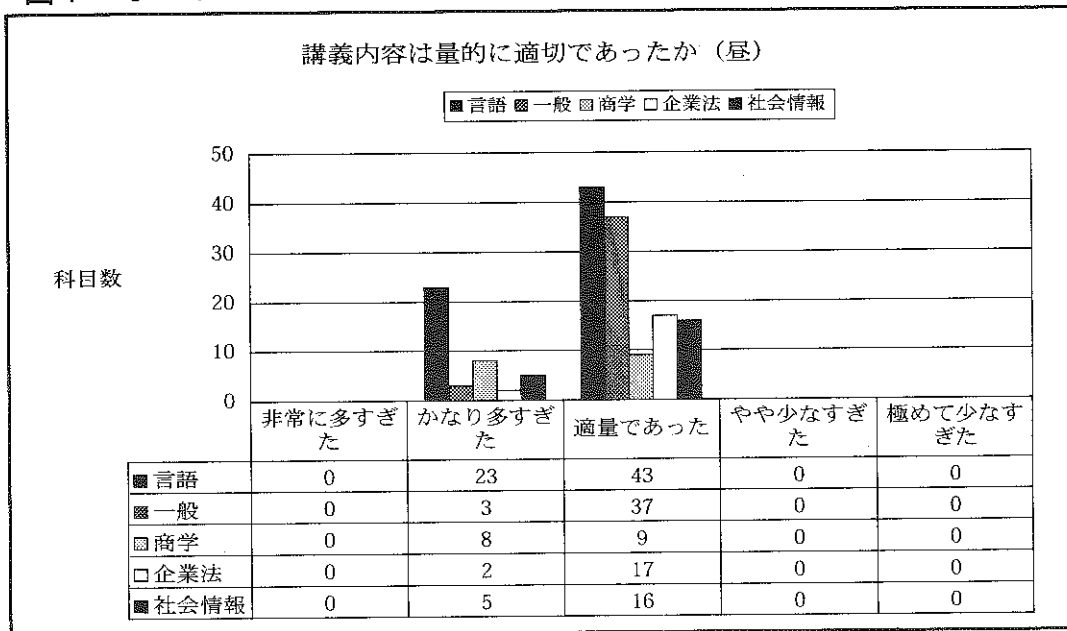
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.64	3.63	3.41	3.58	3.34
最大値	4.67	4.44	4.16	4.43	4.03
最小値	2.43	2.30	2.39	2.46	2.22

図V-2-2



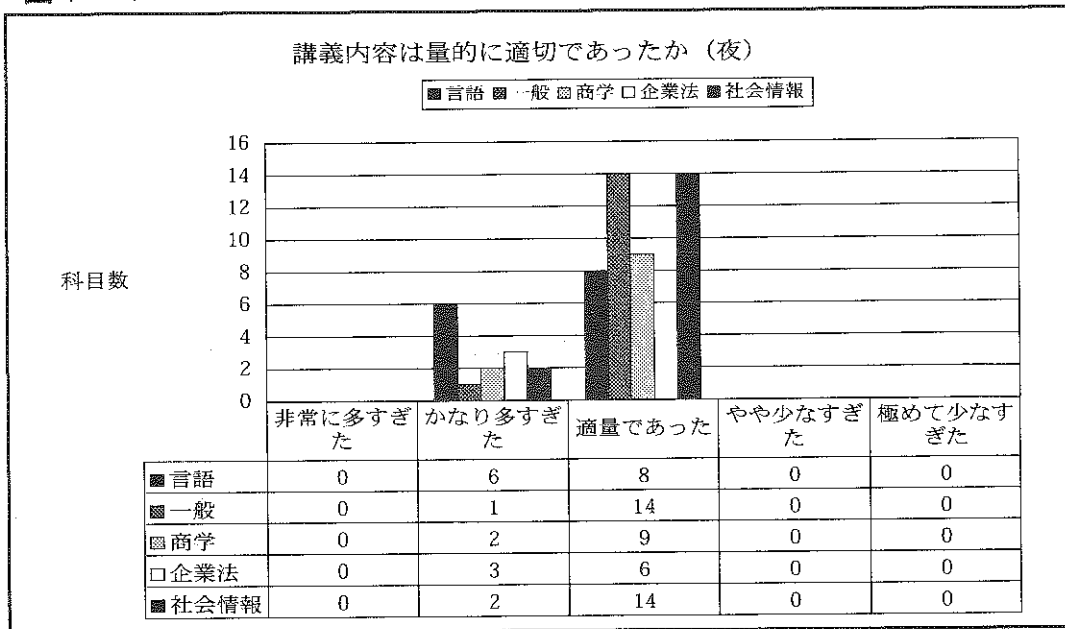
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.36	3.94	3.64	3.67	3.16
最大値	4.16	4.67	4.26	4.34	4.11
最小値	2.87	3.20	3.07	2.70	2.21

図V-3-1



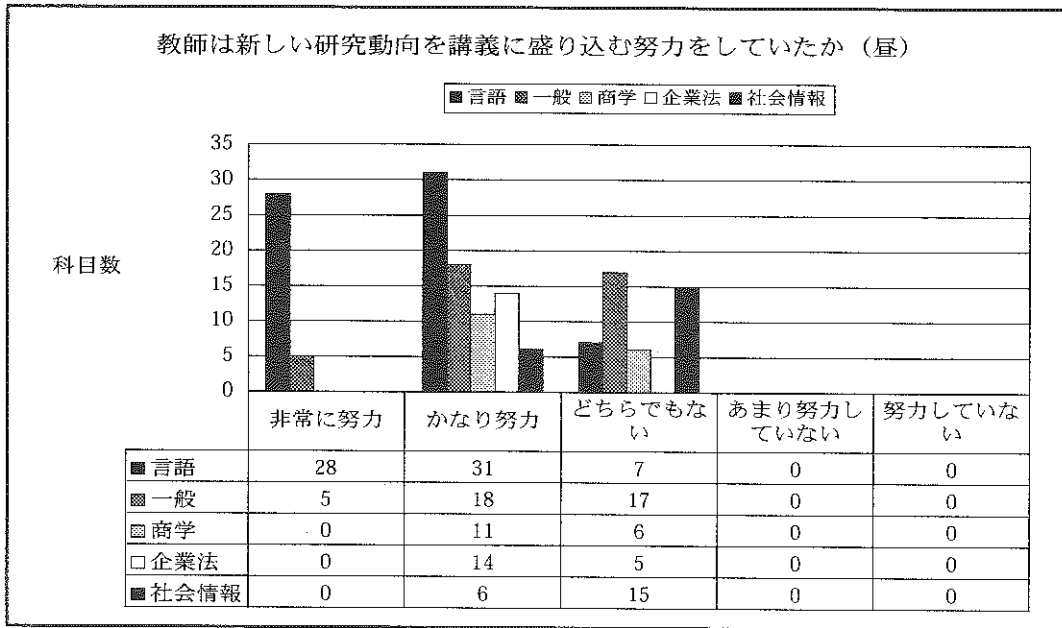
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.37	3.19	3.38	3.21	3.25
最大値	4.15	4.00	4.17	3.63	3.96
最小値	2.76	2.70	3.04	2.76	2.89

図V-3-2



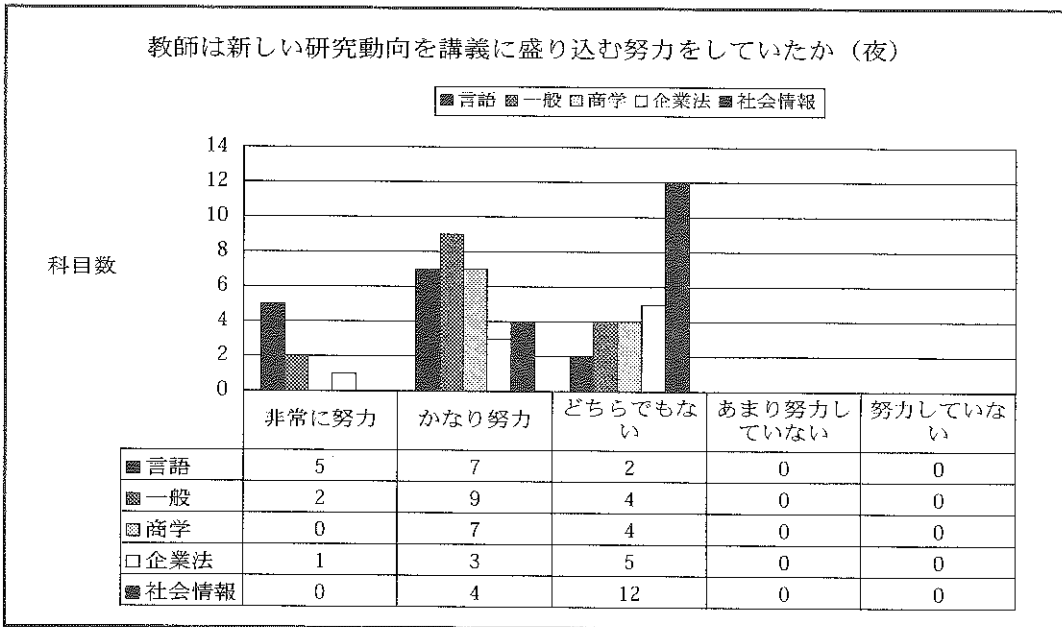
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.42	2.92	3.10	3.22	3.12
最大値	3.72	3.50	3.88	4.22	4.03
最小値	2.60	2.56	2.73	2.63	2.95

図 V-4-1



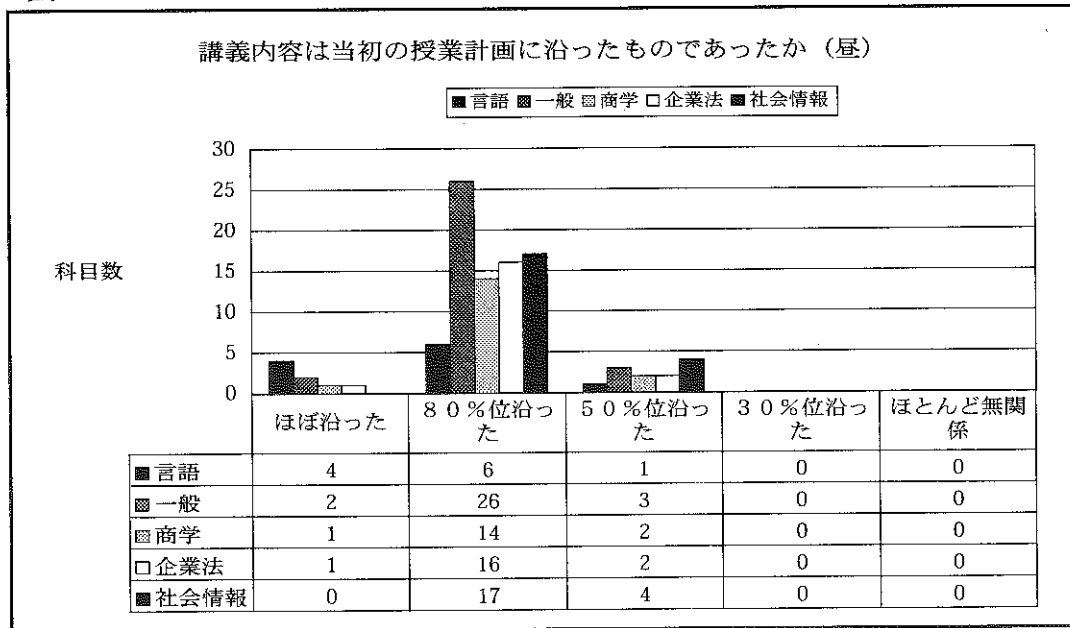
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	4.44	3.67	3.67	3.59	3.31
最大値	4.93	4.81	4.40	4.46	4.20
最小値	3.14	2.96	2.53	3.06	2.89

図 V-4-2



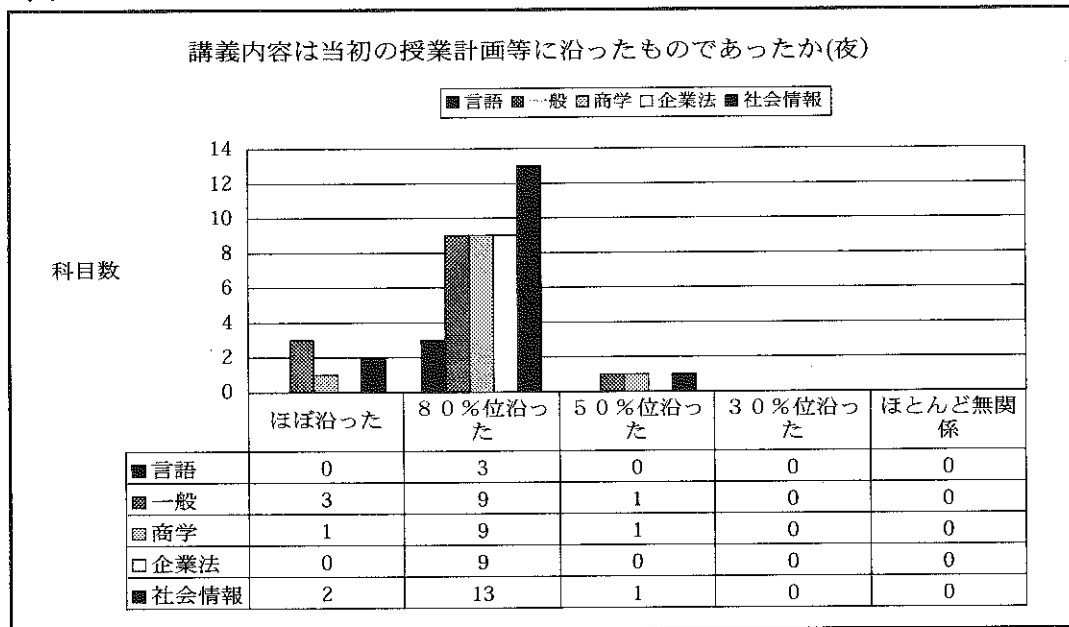
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	4.23	4.00	3.65	3.43	3.29
最大値	4.80	4.56	4.00	4.67	4.11
最小値	3.24	3.11	3.07	2.61	2.60

図V-5-1



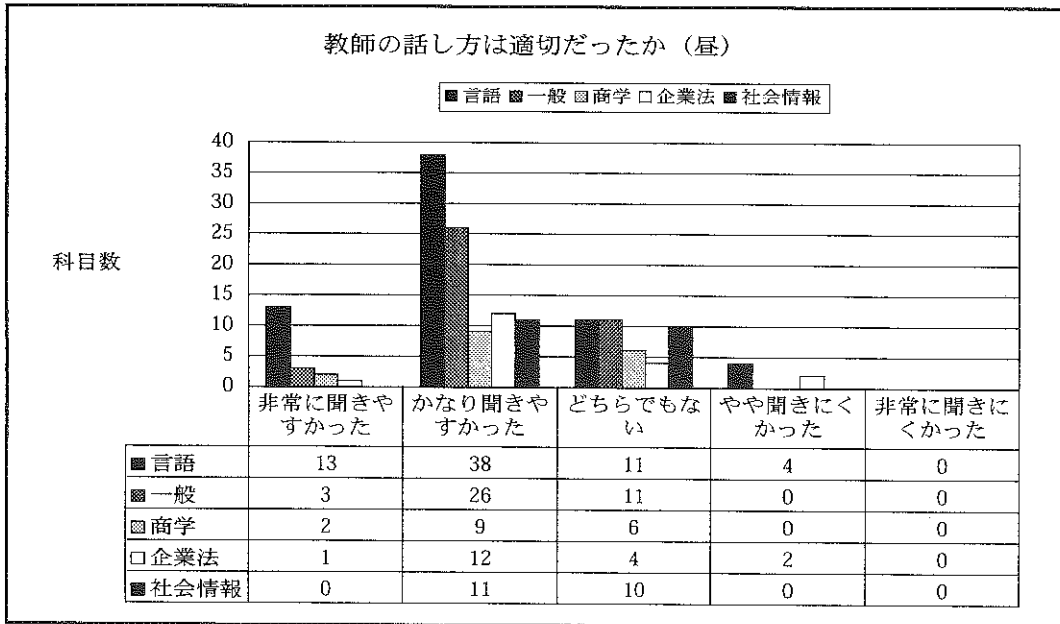
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	4.33	4.07	3.99	4.15	4.00
最大値	5.00	4.70	4.69	4.58	4.36
最小値	3.25	3.13	3.32	3.15	3.37

図V-5-2



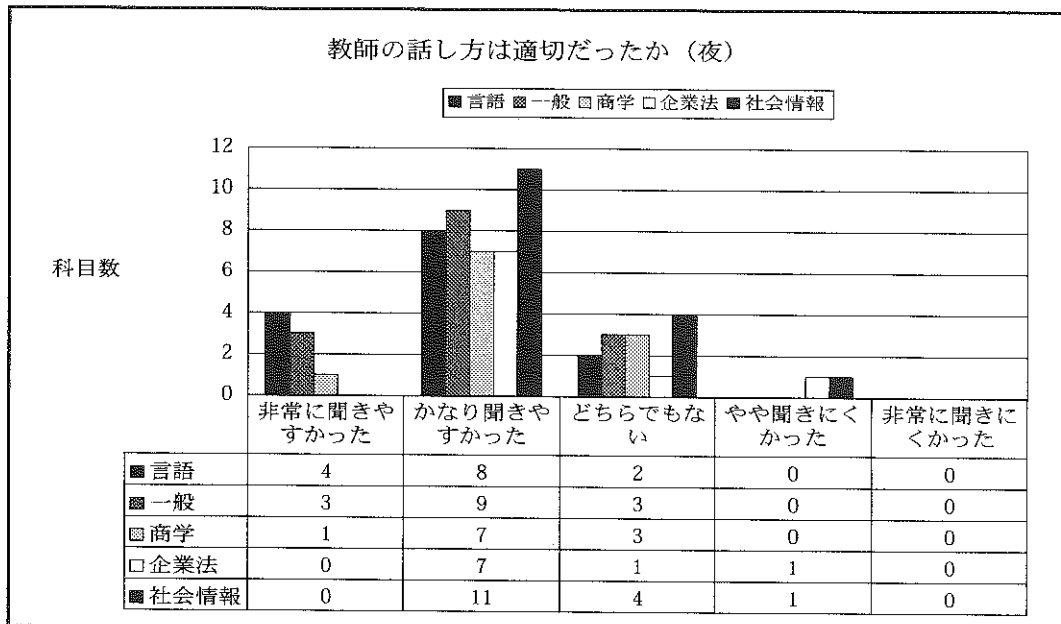
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.95	4.06	3.93	3.97	3.97
最大値	4.23	4.8	4.53	4.38	4.53
最小値	3.7	3.28	3.14	3.57	3.07

図VI-1-1



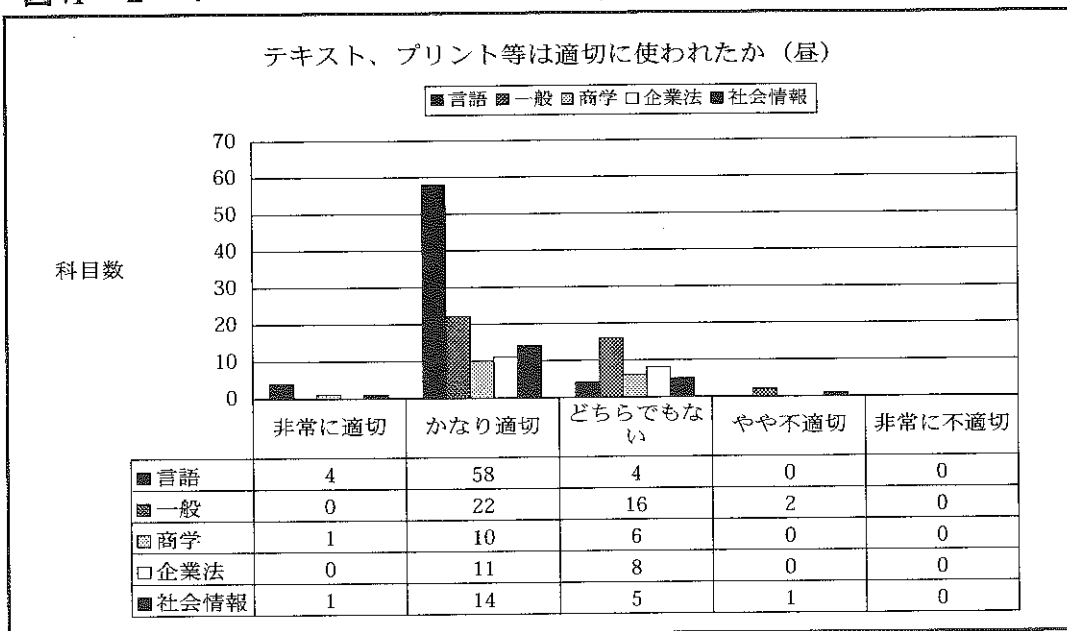
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	4.12	3.77	3.76	3.85	3.53
最大値	4.76	4.64	4.69	4.64	4.33
最小値	2.31	2.73	2.61	2.05	2.59

図VI-1-2



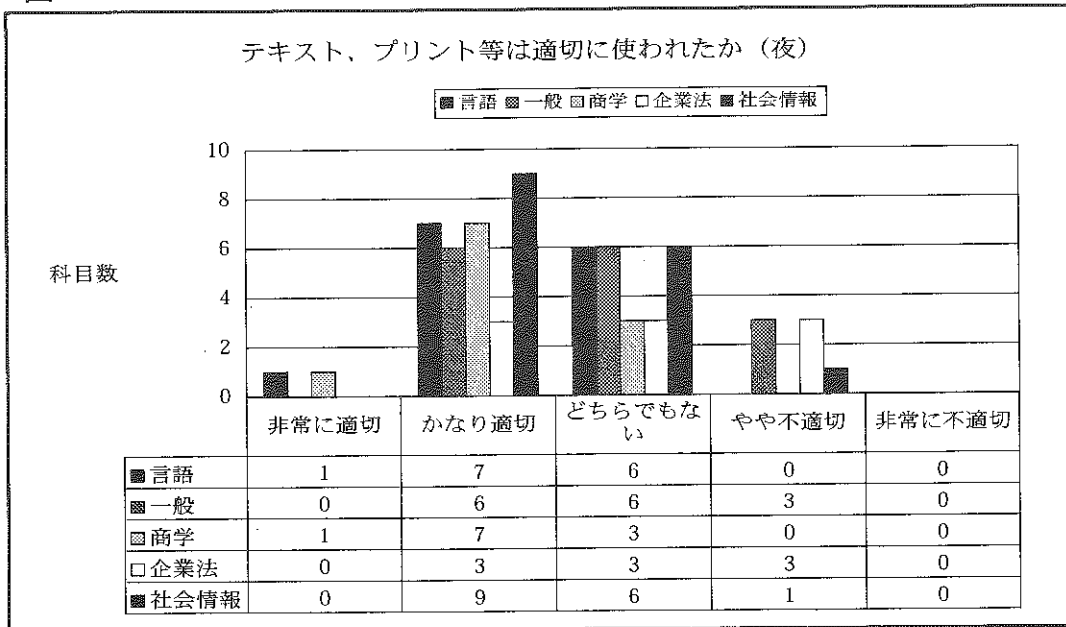
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	4.02	4.13	3.86	3.75	3.71
最大値	4.84	4.67	4.50	4.41	4.36
最小値	3.03	3.03	3.14	1.78	2.43

図VI-2-1



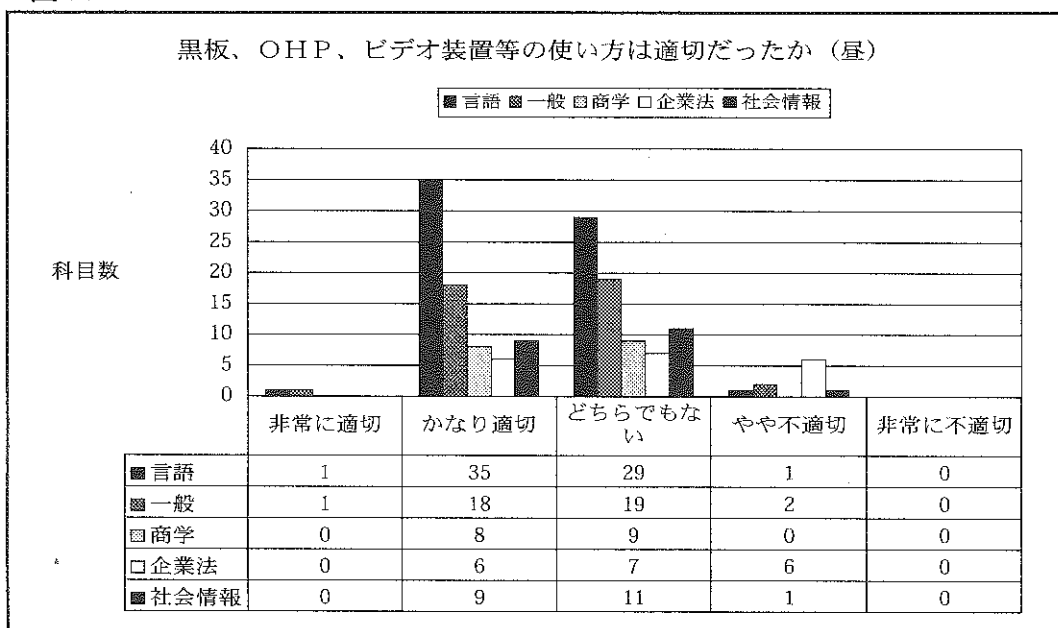
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	4.00	3.68	3.88	3.77	3.73
最大値	4.67	4.44	4.79	4.46	4.60
最小値	2.96	1.91	2.76	2.73	1.67

図VI-2-2



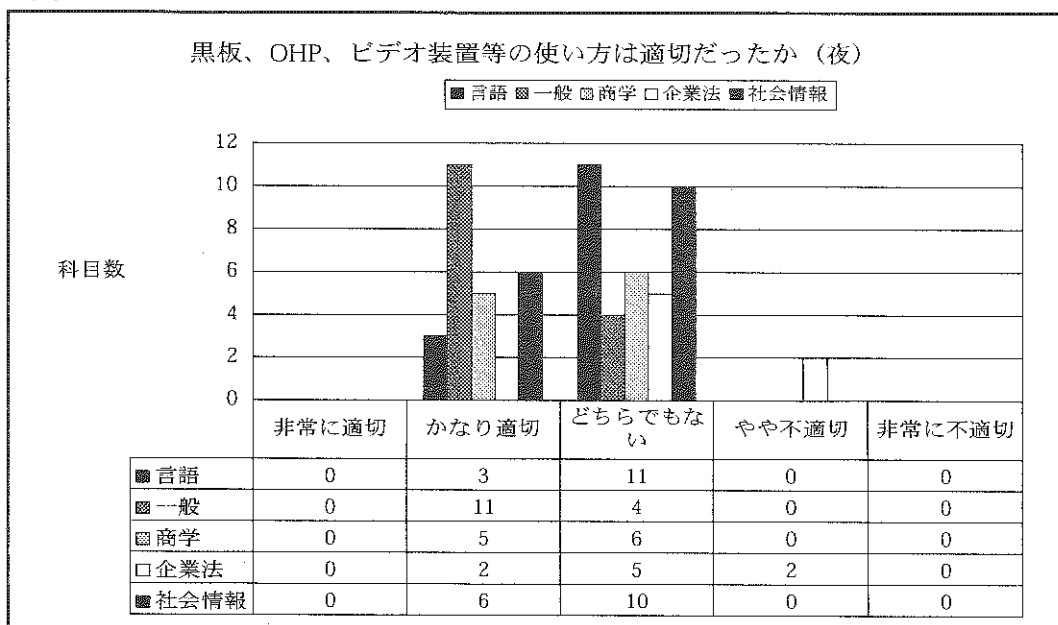
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.57	3.43	3.89	3.11	3.50
最大値	4.60	4.25	4.63	4.47	4.45
最小値	2.51	2.00	3.24	2.25	2.07

図VI-3-1



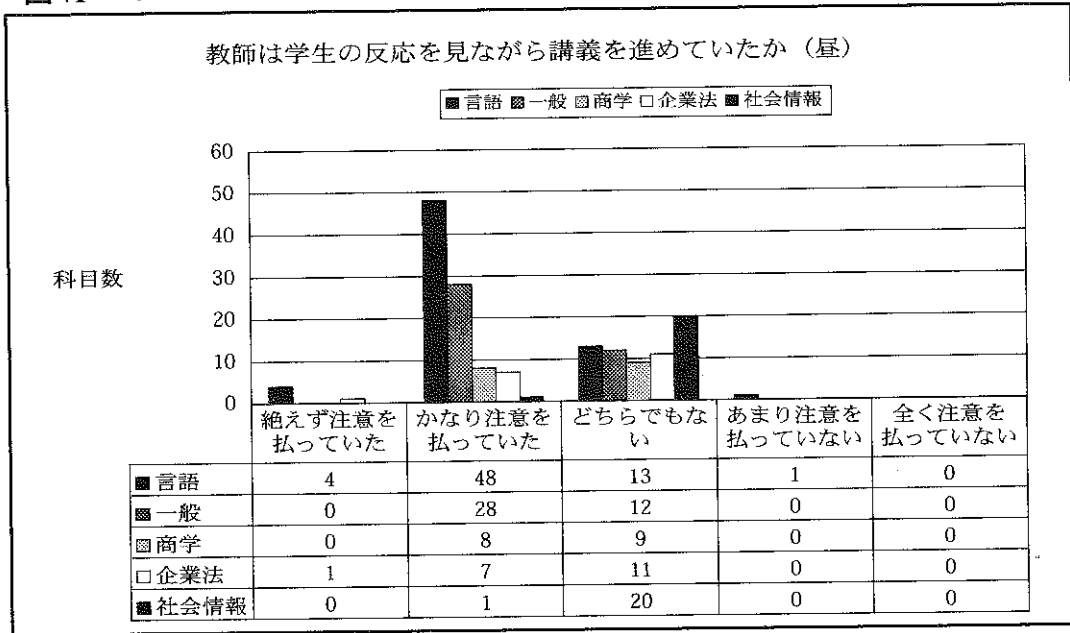
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.56	3.42	3.47	3.27	3.36
最大値	4.52	4.64	4.13	3.75	4.00
最小値	2.46	2.32	2.62	2.00	2.42

図VI-3-2



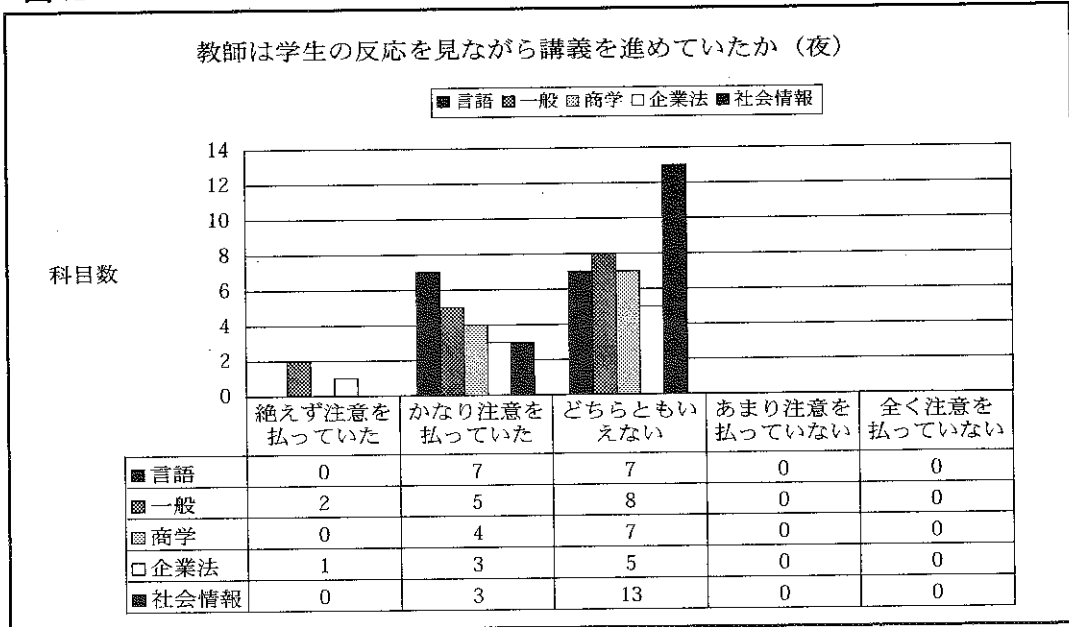
	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.16	3.69	3.41	2.67	3.32
最大値	4.16	4.25	4.32	4.11	3.9
最小値	2.5	2.5	2.55	1.75	2.53

図VI-4-1



	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.92	3.81	3.47	3.47	3.05
最大値	4.53	4.48	4.31	4.58	3.87
最小値	2.49	2.66	2.98	2.76	2.50

図VI-4-2



	言語	一般	商学	企業法	社会情報
中央値	3.57	3.49	3.44	3.33	3.14
最大値	4.36	4.67	4.09	4.58	3.80
最小値	3.09	2.77	3.07	2.50	2.57

授業改善のためのアンケート〈個別型・講義科目〉

本学の自己評価委員会ではより良い授業を目指して全学的な取り組みを始めました。このアンケートはその一環として実施するものです。回答内容は授業の改善に役立てるためのものであり、それ以外に使われることはありません。率直なご意見をお寄せ下さい。

ご回答に当たっては、丸数字の場合は□内に、具体的にご意見がある場合は下線にご記入下さい。

I あなた自身についてお尋ねします。

(1) 入学年度はいつですか。(学生番号の最初の2桁)

- ①98年 ②97年 ③96年 ④95年 ⑤94年以前

(2) どの学科・課程に所属していますか。

- ①経済学科 ②商学科 ③企業法学科 ④社会情報学科
⑤商業教員養成課程 ⑥未定

(3) どのコースに所属していますか。

- ①昼間コース ②夜間主コース

II 講義の選択理由についてお尋ねします。

(1) なぜこの講義を選択しましたか。

- ①必修科目・選択必修科目であるため ②専門の勉強に必要と考えたため
③シラバス(授業計画を記載した冊子)等を読み、興味をもったため
④授業時間割の関係でとらざるをえなかったため
⑤その他

III 学習態度についてお尋ねします。

(1) あなたはこの講義にどの位出席しましたか。

- ①ほぼ100%出席した ②80%位出席した ③50%位出席した
④30%位出席した ⑤ほとんど出席しなかった

(2) 欠席した主な理由は何ですか。

- ①病気のため ②教育実習・短期海外留学のため ③サークル活動のため
④アルバイトのため ⑤自己の怠惰のため
⑤その他

(3) 学生(あなた自身および他の学生)の学習態度は全体として熱心であったと思いますか。

- ①非常に熱心であった ②かなり熱心であった ③どちらともいえない
④あまり熱心でなかった ⑤熱心でなかった

(4) 学生の学習態度について、どのような点を改善すべきであると思いますか。

(5) 授業の予習または復習として、授業時間外の学習を行いましたか。

- ①毎回、十分に行った ②ほぼ毎回、行った ③ときどき行った
④ごくまれにしか行わなかった ⑤ほとんど行わなかった

(6) 前問で④または⑤と回答した方にお尋ねします。なぜ予習または復習を行わなかったのですか。

- ①自己の怠慢のため ②サークル活動のため ③アルバイトのため
④必要を感じなかったため
⑤その他

(3) 黒板，OHP，ビデオ装置等の使い方は適切でしたか。

- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった

(4) 教師は学生の反応を見ながら講義を進めていましたか。

- ①絶えず注意を払っていた ②かなり注意を払っていた ③どちらともいえない
④あまり注意を払っていなかった ⑤まったく注意を払っていなかった

VII その他、授業等について改善して欲しい点、または良かった点等を自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

授業改善のためのアンケート〈個別型・語学科目〉

本学の自己評価委員会ではより良い授業を目指して全学的な取り組みを始めました。このアンケートはその一環として実施するものです。回答内容は授業の改善に役立てるためのものであり、それ以外に使われることはありません。率直なご意見をお寄せ下さい。

ご回答に当たっては、丸数字の場合は□内に、具体的にご意見がある場合は下線上にご記入下さい。

I あなた自身についてお尋ねします。

(1) 入学年度はいつですか。(学生番号の最初の2桁)

- ①98年 ②97年 ③96年 ④95年 ⑤94年以前

(2) どの学科・課程に所属していますか。

- ①経済学科 ②商学科 ③企業法学科 ④社会情報学科
⑤商業教員養成課程 ⑥未定

(3) どのコースに所属していますか。

- ①昼間コース ②夜間主コース

II 語学クラスの選択理由についてお尋ねします。

(1) なぜこの語学クラスを選択しましたか。

- ①必修科目・選択必修科目であるため ②専門の勉強に必要と考えたため
③シラバス(授業計画を記載した冊子)、『外国語への招待』等を読み、興味をもつたため
④授業時間割の関係でとらざるをえなかったため
⑤その他

III 学習態度についてお尋ねします。

(1) あなたはこの授業にどの位出席しましたか。

- ①ほぼ100%出席した ②80%位出席した ③50%位出席した
④30%位出席した ⑤ほとんど出席しなかった

(2) 欠席した主な理由は何ですか。

- ①病気のため ②教育実習・短期海外留学のため ③サークル活動のため
④アルバイトのため ⑤自己の怠惰のため
⑥その他

(3) 学生(あなた自身および他の学生)の学習態度は全体として熱心であったと思いますか。

- ①非常に熱心であった ②かなり熱心であった ③どちらともいえない
④あまり熱心でなかった ⑤熱心でなかった

(4) 学生の学習態度について、どのような点を改善すべきであると思いますか。

(5) 語学の授業には予習重視型と復習重視型があり、いずれにせよ授業時間外の学習が欠かせませんが、その学習を行いましたか。

- ①毎回、十分に行った ②ほぼ毎回、行った ③ときどき行った
④ごくまれにしか行わなかった ⑤ほとんど行わなかった

(6) 前問で④または⑤と回答した方にお尋ねします。なぜ予習または復習を行わなかったのですか。

- ①自己の怠慢のため ②サークル活動のため ③アルバイトのため
④必要を感じなかったため
⑤その他

IV 授業の満足度についてお尋ねします。

(1) 「読む・書く・聴く・話す」という語学の4技能のバランスのとれた習得という点から判断して、この授業にどの程度満足できましたか。

- ①非常に満足できた ②かなり満足できた ③どちらともいえない
④やや不満であった ⑤非常に不満であった

(2) この授業はどのような点が良かったですか。(複数回答可)

- ①授業がわかりやすかった ②言語に対する関心を高めてくれた
③練習が楽しかった ④まじめに授業をしてくれた
⑤その他

(3) この授業はどのような点が良くなかったですか。(複数回答可)

- ①授業がわかりにくかった ②興味をもたせる工夫が不足していた
③練習が単調すぎた ④休講が多かった
⑤その他

V 授業内容についてお尋ねします。

(1) 語学の習得を目指す授業では、通常、説明と練習が二本柱となりますが、その配分は適切でしたか。

- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった ⑥出席不足のためわからない

(2) 授業内容は興味深いものでしたか。

- ①非常に興味深かった ②かなり興味深かった ③どちらともいえない
④それほど興味深くなかった ⑤まったく興味深くなかった ⑥出席不足のためわからない

(3) 授業内容は量的に適切でしたか。

- ①非常に多すぎた ②やや多すぎた ③適量であった
④やや少なすぎた ⑤きわめて少なすぎた ⑥出席不足のためわからない

(4) 講義内容は当初の授業計画等に沿ったものでしたか。

- ①ほぼ沿ったものであった ②80%位沿ったものであった
③50%位沿ったものであった ④30%位沿ったものであった
⑤ほとんど無関係であった ⑥出席不足のためわからない

VI 授業の方法についてお尋ねします。

(1) 教師の話し方は適切でしたか。

- ①非常に聞きやすかった ②かなり聞きやすかった ③どちらともいえない
④やや聞きにくかった ⑤非常に聞きにくかった

(2) テキスト、プリント等は適切に使われましたか。

- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった

(3) 黒板、OHP、ビデオ装置等の使い方は適切でしたか。

- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった

(4) 教師は学生の反応を見ながら授業を進めていましたか。

- ①絶えず注意を払っていた ②かなり注意を払っていた ③どちらともいえない
④あまり注意を払っていなかった ⑤まったく注意を払っていなかった

VII その他、授業等について改善して欲しい点、または良かった点等を自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

授業改善のためのアンケート〈個別型・実技・実習科目〉

本学の自己評価委員会ではより良い授業を目指して全学的な取り組みを始めました。このアンケートはその一環として実施するものです。回答内容は授業の改善に役立てるためのものであり、それ以外に使われることはありません。率直なご意見をお寄せ下さい。

ご回答に当たっては、丸数字の場合は□内に、具体的にご意見がある場合は下線にご記入下さい。

I あなた自身についてお尋ねします。

(1) 入学年度はいつですか。(学生番号の最初の2桁)

- ①98年 ②97年 ③96年 ④95年 ⑤94年以前

(2) どの学科・課程に所属していますか。

- ①経済学科 ②商学科 ③企業法学科 ④社会情報学科
⑤商業教員養成課程 ⑥未定

(3) どのコースに所属していますか。

- ①昼間コース ②夜間主コース

II 授業科目の選択理由についてお尋ねします。

(1) なぜこの授業科目を選択しましたか。

- ①必修科目・選択必修科目であるため ②専門の勉強に必要と考えたため
③シラバス(授業計画を記載した冊子)を読み、興味をもったため
④授業時間割の関係でとらざるをえなかったため
⑤その他

III 学習態度についてお尋ねします。

(1) あなたはこの授業にどの位出席しましたか。

- ①ほぼ100%出席した ②80%位出席した ③50%位出席した
④30%位出席した ⑤ほとんど出席しなかった

(2) 欠席した主な理由は何ですか。

- ①病気のため ②教育実習・短期海外留学のため ③サークル活動のため
④アルバイトのため ⑤自己の怠惰のため
⑥

(3) 学生(あなた自身および他の学生)の学習態度は全体として熱心であったと思いますか。

- ①非常に熱心であった ②かなり熱心であった ③どちらともいえない
④あまり熱心でなかった ⑤熱心でなかった

(4) 学生の学習態度について、どのような点を改善すべきであると思いますか。

(5) 授業の予習または復習として、授業時間外の学習を行いましたか。

- ①毎回、十分に行った ②ほぼ毎回、行った ③ときどき行った
④ごくまれにしか行わなかった ⑤ほとんど行わなかった

(6) 前問で④または⑤と回答した方にお尋ねします。なぜ予習または復習を行わなかったのですか。

- ①自己の怠慢のため ②サークル活動のため
③アルバイトのため ④必要を感じなかったため
⑤その他

IV 授業の満足度についてお尋ねします。

(1) 総合的に判断して、この授業にどの程度満足できましたか。

- ①非常に満足できた ②かなり満足できた ③どちらともいえない
④やや不満であった ⑤非常に不満であった

(2) この授業はどのような点が良かったですか。(複数回答可)

- ①授業がわかりやすかった ②知的関心を高めてくれた
③練習が楽しかった ④まじめに授業をしてくれた
⑤その他

(3) この授業はどのような点が良くなかったですか。(複数回答可)

- ①授業がわかりにくかった ②興味をもたせる工夫が不足していた
③練習が単調すぎた ④休講が多かった
⑤その他

V 授業内容についてお尋ねします。

(1) 実技・実習の習得を目指す授業では、通常、説明と練習が二本柱となりますが、その配分は適切でしたか。

- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった ⑥出席不足のためわからない

(2) 授業内容は興味深いものでしたか。

- ①非常に興味深かった ②かなり興味深かった ③どちらともいえない
④それほど興味深くなかった ⑤まったく興味深くなかった
⑥出席不足のためわからない

(3) 授業内容は量的に適切でしたか。

- ①非常に多すぎた ②やや多すぎた ③適量であった
④やや少なすぎた ⑤きわめて少なすぎた ⑥出席不足のためわからない

(4) 講義内容は当初の授業計画等に沿ったものでしたか。

- ①ほぼ沿ったものであった ②80%位沿ったものであった
③50%位沿ったものであった ④30%位沿ったものであった
⑤ほとんど無関係であった ⑥出席不足のためわからない

VI 授業の方法についてお尋ねします。

(1) 教師の話し方は適切でしたか。

- ①非常に聞きやすかった ②かなり聞きやすかった ③どちらともいえない
④やや聞きにくかった ⑤非常に聞きにくかった

(2) テキスト、プリント等は適切に使われましたか。

- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった

(3) 使用された用具等は適切でしたか。

- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった

(4) 教師は学生の反応を見ながら授業を進めていましたか。

- ①絶えず注意を払っていた ②かなり注意を払っていた ③どちらともいえない
④あまり注意を払っていなかった ⑤まったく注意を払っていなかった

VII その他、授業等について改善して欲しい点、または良かった点等を自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

1998年度経済学科授業評価

科目名	担当教官	履修者数	回答数	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
				この講義は、知的好奇心を大いに刺 激するものでした。	講義の内容には、新しい題材も取り 入れられていました。	関心を持つようになりました。内容に 関心を持って比へて、この科目の内容に	講義の進度は適切でした。	用いられた数学は、理解の範囲内で しました。	この講義の内容は、卒業後も役立つ と思う。	教官の説明は、明快でよく理解でき ました。	教官の話は、よく聞き取れました。	板書・OHP等による説明はわかり やすく感じました。	教官は、学生の質問に対して丁寧に 答えました。	教官は、講義の題材を十分に把握し ていました。	教官は、この科目に熱意を持って いました。	教官には、ユーモアのセンスが感じ られました。	年度当初に配布されたシラバス(授 業計画)は、役に立ちました。	教科書は、役に立ちました。	で教科書の説明は、わかりやすいもの でした。	講義は、教科書の内容を解説・補充 して行きました。	配布されたプリントは、講義の内容 の理解に役立ちました。	この科目でこれまで適切にできた試験・ クイズ等の内容は、適切でした。	この科目でこれまで公認してきた試験・ クイズ等の内容は、公認でした。	私は、この科目で多くを学びました。	この科目への期待は、満たされまし た。
【昼間コース】																									
ミクロ経済学	山本	326	57	2.9	3.0	2.9	2.7	2.3	3.2	2.8	3.5	2.9	3.3	4.1	3.7	2.2	2.8	3.5	2.6	3.3	3.2	3.8	3.9	3.0	2.8
経済統計学	山田	125	32	4.7	4.3	4.4	4.3	4.3	4.5	4.5	4.6	4.0	4.7	4.6	4.5	4.3	4.0	4.6	4.4	4.3	4.2	4.1	4.2	4.5	4.5
経済学史	江頭	142	30	3.8	3.4	3.7	3.7	3.4	3.4	3.9	4.0	4.1	4.0	4.4	4.5	2.9	3.4	2.6	3.0	3.6	4.2	3.9	3.9	3.6	3.6
産業組織論	鶴沢	159	32	2.8	3.1	3.1	3.2	3.3	3.2	2.9	3.3	2.8	3.2	3.7	3.7	3.1	2.9	3.1	2.8	3.0	3.8	3.3	3.4	3.2	3.1
労働経済学	西山	97	15	3.3	2.8	3.3	3.5	3.8	3.3	4.4	4.4	4.1	4.1	4.3	3.8	3.6	3.4	4.2	4.2	4.3	3.8	4.4	4.3	3.6	3.5
数労	中村	388	150	2.7	2.8	2.9	3.2	3.4	2.9	2.9	3.5	2.9	3.6	3.8	3.7	2.4	2.6	3.1	3.2	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8	2.7
国際経済学	船津	372	104	3.9	4.0	3.9	4.0	3.5	3.8	4.0	3.8	3.6	4.0	4.3	4.1	0.0	2.8	3.5	2.8	3.5	3.5	3.9	3.9	2.9	2.6
現代経済学	徳塚	94	16	3.3	3.1	3.1	2.9	2.0	2.7	2.8	2.9	3.2	3.7	3.7	3.4	2.8	3.0	2.6	2.6	3.0	3.4	3.9	3.8	3.0	3.1
計量経済学	遠藤	274	50	2.8	2.7	2.9	3.3	3.8	2.9	3.0	3.3	2.9	3.7	4.0	4.3	4.0	3.3	2.7	2.9	3.1	3.2	3.5	3.6	3.7	3.5
国際経済学	松家	182	24	3.4	3.0	3.4	3.3	3.8	2.9	3.0	3.3	2.9	3.7	4.0	4.5	3.9	3.4	2.5	2.5	3.1	3.2	3.5	3.6	4.1	4.2
国際政治学	遠藤	173	77	4.1	4.3	4.1	3.8	3.7	4.0	4.2	4.5	4.2	4.4	4.5	4.5	3.9	3.4	2.5	2.5	3.1	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3
国際経済学	柴山	151	37	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.4	3.8	4.0	3.5	4.3	4.1	4.2	3.4	3.3	2.2	2.4	2.8	3.8	4.2	4.2	4.2	3.7
経済学特別講義Ⅰ	セングバタ	51	3	4.7	4.0	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	5.0	3.0	3.7	3.7	3.0	3.0	3.0	4.0	2.3	3.0	5.0	5.0	5.0
マクロ経済学	加藤	370	56	3.5	3.2	3.7	3.1	2.5	3.3	3.3	3.7	2.7	3.0	4.2	4.2	3.7	3.4	4.3	4.0	3.5	2.9	4.2	4.3	3.5	3.5
金融経済学	和田	271	31	3.4	3.5	3.6	2.5	3.3	3.4	2.7	3.0	2.8	3.6	4.0	4.1	2.8	2.6	3.9	3.0	3.5	3.3	3.4	3.6	3.5	3.4
マルクス経済学	花田	254	16	3.4	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.8	3.4	4.1	4.1	3.8	2.5	2.8	1.8	1.6	2.2	4.5	3.5	3.4	3.7	3.6
経済学特別講義Ⅱ	瀬戸	92	27	4.4	4.4	4.6	4.4	4.5	4.6	4.6	4.7	3.6	3.8	4.4	4.7	3.5	3.2	4.6	4.4	4.3	3.7	4.1	4.3	4.6	4.3
国際金融論	渋谷	189	27	3.3	3.7	3.6	3.4	3.1	3.6	3.4	3.3	3.1	3.5	3.7	3.6	3.2	3.1	3.5	3.5	3.6	4.2	3.6	3.8	3.7	3.5
経済学特別講義Ⅱ	セングバタ	61	3	3.3	4.0	4.3	4.3	5.0	2.7	3.7	4.7	4.0	5.0	5.0	5.0	4.7	3.7	4.0	3.7	4.3	4.0	5.0	5.0	4.0	3.7
日本経済史	今西	191	117	2.5	2.7	2.8	3.0	3.0	2.8	2.9	3.0	2.8	3.1	3.6	3.3	2.8	3.0	3.4	2.8	3.1	3.0	3.2	3.2	2.9	3.1
金融政策	川浦	157	47	4.3	4.4	4.4	4.6	4.3	4.0	4.6	4.6	4.1	4.5	4.7	4.4	3.9	3.5	0.0	0.0	0.0	4.7	4.7	4.8	4.2	4.4
経済学特別講義Ⅲ	板谷他4名*	106	12	3.2	3.3	2.9	3.0	3.6	3.5	3.0	2.9	3.0	3.5	3.5	3.5	2.9	3.0	2.4	2.8	3.4	3.4	2.7	2.7	3.3	3.3
経済学特別講義Ⅲ	板谷他4名*	426	44	2.7	3.0	2.6	3.1	3.1	2.5	2.7	2.8	2.2	3.2	3.6	3.7	2.5	2.9	3.3	2.8	3.1	3.2	3.0	3.0	2.9	2.6
公共経済学	松家・今西	286	46	3.5	3.6	3.7	3.3	3.0	3.4	3.8	4.1	4.0	4.1	4.3	4.2	3.3	2.8	2.8	2.8	2.7	3.7	3.7	3.7	3.9	3.6
統計学	遠藤	503	92	3.0	2.9	3.2	3.5	2.8	2.9	3.0	3.2	3.4	4.0	3.9	3.6	2.9	2.9	3.9	3.6	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	3.3
【夜間コース】																									
西洋経済史	平井	40	7	3.6	3.7	3.3	3.6	3.0	3.1	3.6	3.7	3.5	3.4	4.6	4.1	3.0	3.6	2.6	2.5	3.0	4.1	3.0	3.0	3.0	3.7
経済学史	平井・松家	74	50	2.7	2.7	2.8	3.2	3.0	2.6	3.0	2.9	2.8	3.1	3.6	3.6	2.7	3.4	2.4	2.5	2.7	2.9	3.3	3.1	3.1	3.1
産業組織論	鶴沢	23	10	3.8	3.7	4.0	3.7	3.8	4.0	4.1	4.3	3.7	4.1	4.3	4.2	3.4	4.0	4.7	4.7	4.2	4.2	4.3	4.3	4.4	4.4
三ク口経済学	徳塚	267	58	2.6	2.6	2.5	2.2	2.1	2.5	2.3	2.4	2.3	2.7	3.4	3.3	2.2	2.6	3.1	3.1	2.8	2.7	3.0	2.9	2.5	2.4
マルクス経済学	花田	46	10	3.1	3.5	3.0	3.2	3.6	3.0	2.9	3.7	2.4	2.9	3.2	3.0	2.5	2.8	1.8	2.0	2.7	3.3	3.5	3.3	3.1	3.1
金融経済学	和田	70	22	2.8	2.6	2.7	2.4	1.9	2.5	1.8	2.3	2.0	3.0	2.6	3.5	2.4	2.6	3.0	2.2	2.8	2.8	3.1	3.3	2.9	2.5
経済統計学	山田	26	21	4.6	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.4	4.7	4.5	4.8	4.2	4.6	4.4	3.8	4.7	4.4	4.5	4.1	4.5	4.4	4.8	4.7

*板谷、船津、渋谷、川浦、和田

授業評価質問票

経済学科

記入上のお願い

- 授業の改善を目的として、この調査を行ないます。氏名・学生番号など個人を判明させる情報は記入しないで下さい。
- 各質問について、適当と考える選択肢を1つ選び、その数字を回答票に記入して下さい。
- 質問5以下では、“5”が強い肯定、“1”が強い否定を示すように、5段階での評価を行なって下さい。
- この科目には該当しないと思われる質問があれば、評価せずに次の質問へ進んで下さい。

A. あなたについて

- 私は、(1, 2, 3, 4)年次生です。
- この科目の教科書・参考書に費やした費用は、
 - ¥10,000以上
 - ¥1,000以上¥2,000未満
 - ¥2,000以上¥5,000未満
 - ¥5,000以上¥10,000未満
 - ¥1,000未満
- この科目に費やした1週間当たりの平均学習時間は、
 - 10時間以上
 - 7-9時間
 - 4-6時間
 - 1-3時間
 - 1時間未満
- 私は、この科目の講義に
出席しました。
 - ほとんどすべて
 - 2/3ほど
 - 1/2ほど
 - 1/3ほど
 - 数回

B. 講義内容について

- この講義は、知的好奇心を大いに刺激するものでした。 5 4 3 2 1
- 講義内容には、新しい題材も取り入られていました。 5 4 3 2 1
- 履修前に比べて、この科目の内容に関心をもつようになりました。 5 4 3 2 1
- 講義の進度は適切でした。 5 4 3 2 1
- 用いられた数学は、理解の範囲内でした。 5 4 3 2 1
- この講義の内容は、卒業後役立つと思う。 5 4 3 2 1

C. 教授方法について

- 教官の説明は、明快でよく理解できました。 5 4 3 2 1
- 教官の話は、よく聞きとれました。 5 4 3 2 1
- 板書・OHP等による説明はわかりやすく感じました。 5 4 3 2 1
- 教官は、学生の質問に対して丁寧に答えました。 5 4 3 2 1
- 教官は、講義の題材を十分に把握していました。 5 4 3 2 1
- 教官は、この科目に熱意をもっていました。 5 4 3 2 1
- 教官には、ユーモアのセンスが感じられました。 5 4 3 2 1
- 年度当初に配布されたシラバス(授業計画)は、役に立ちました。 5 4 3 2 1

D. 教科書・配付資料について

- 教科書は、役に立ちました。 5 4 3 2 1
- 教科書の説明は、わかりやすいものでした。 5 4 3 2 1
- 講義は、教科書の内容を解説・補完していました。 5 4 3 2 1
- 配布されたプリントは、講義内容の理解に役立ちました。 5 4 3 2 1

E. 試験・クイズ等について

- この科目でこれまでに実施してきた試験・クイズ等の内容は、公正でした。 5 4 3 2 1
- この科目でこれまでに実施してきた試験・クイズ等の採点は、公正でした。 5 4 3 2 1

F. 全般的評価

- 私は、この科目で多くを学びました。 5 4 3 2 1
- この科目への期待は、満たされました。 5 4 3 2 1

G. 関連するコメントがあれば、回答票の裏面に書いて下さい。